

STILL ALIVE

国際芸術祭

あいち2022

2022.7.30—10.10

International
festival of
contemporary art,
performing arts and
learning programs
in Aichi



開催報告書

目次

I 主催者あいさつ	1	6 その他	
II 芸術監督報告	2	(1) 企業・団体等からの協賛・協力.....	61
III 開催概要	4	(2) クラウドファンディング.....	62
IV 企画体制	14	(3) 旅行会社・ホテルとの連携.....	62
V 展開概要		(4) 会場周辺店舗等との連携.....	63
1 現代美術		(5) 会場運営.....	64
(1) 現代美術展.....	17	(6) 広報・PR.....	67
(2) 主なイベント等.....	20	(7) 公式出版物.....	80
(3) チケット.....	26	(8) オフィシャルグッズ.....	81
2 パフォーミングアーツ	27	【会期中のイベント・プログラム】	83
3 ラーニング		VI 来場者数の状況等	
(1) リサーチ.....	31	1 来場者数	90
(2) レクチャー.....	37	2 チケットの販売状況	93
(3) ガイドツアー.....	39	3 アンケート調査結果	
(4) スクール・プログラム.....	41	(1) 来場者アンケート.....	96
(5) ボランティア・プログラム.....	44	(2) 関係者・関係機関等アンケート.....	112
(6) その他.....	46	4 有識者意見	126
4 オンライン展開		5 経済波及効果	130
(1) リサーチ.....	47	6 パブリシティ効果	131
(2) レクチャー.....	48	VII 組織委員会の状況等	
(3) プレイベント・トークイベント.....	49	1 組織委員会の収支状況	132
(4) アーティストトーク.....	50	2 組織委員会事務局組織	135
(5) パフォーマンス.....	51	資料	
(6) PAチャンネル(再掲).....	51	・国際芸術祭「あいち」の開催経緯.....	136
5 連携事業		・国際芸術祭「あいち」組織委員会規約等.....	144
(1) 「あいち2022」ポップ・アップ！.....	52	・国際芸術祭「あいち」の推移.....	149
(2) 円頓寺商店街・円頓寺本町商店街 連携事業.....	53		
(3) 芸術大学連携プロジェクト.....	53		
(4) 舞台芸術公募プログラム.....	55		
(5) 連携企画事業.....	56		
(6) パートナシップ事業.....	58		
(7) 市民団体等との連携.....	60		

《御利用にあたって》

数字の表示単位未満は、四捨五入しました。

したがって、合計の数字と内訳が一致しない場合があります。

I 主催者あいさつ

2022年7月30日から10月10日までの73日間にかけて、国際芸術祭「あいち2022」を開催いたしました。「STILL ALIVE 今、を生き抜くアートのちから」をテーマとして、現代美術展、パフォーマンスアート、ラーニングの各プログラムや連携事業を展開し、コロナ禍での開催であったにもかかわらず、国内外から48万人を超える多くの皆様に御来場いただき、盛況のうちに、無事終了することができました。

「あいち2022」では、ヨーロッパ、アジア、アフリカなど、世界32の国と地域からバランスよく100組のアーティストが参加しました。芸術祭のテーマに呼応して、生きることへの根源的な意味や人種、ジェンダーなどをモチーフにした様々な作品が展示され、世界の文化や歴史、社会の多様性を感じていただける貴重な機会になったと考えております。

会場については、地域再発見の観点から、愛知の歴史や地場産業、伝統文化などを視野に入れ、愛知芸術文化センター以外に、「毛織物のまち」一宮市、日本六古窯の一つである「常滑焼」を持つ常滑市、東海道沿いの古いまちなみや「有松・鳴海絞」で有名な名古屋市有松地区を選定しました。

各会場では、地域の地場産業や伝統工芸に着想を得た作品が多く展示され、会場のまちなみと調和して、愛知の文化や伝統を掘り下げる展示となり、現代アートに加え、地域の魅力も楽しんでいただく愛知らしい芸術祭を提供できたと考えております。

さらには、長久手市、蒲郡市、半田市、西尾市の県内の4市でも移動型展示「ポップ・アップ！」を実施し、多くの方に現代アートに触れていただく機会となりました。

このたび、「あいち2022」の開催概要や、各プログラムの実施結果、来場者の皆様へのアンケート結果などを内容とする報告書を取りまとめました。私どもと致しましては、今回の成果や課題を踏まえながら、今後も、参加アーティストの自主性・創造性を最大限尊重しながら、地域の特色を活かしつつ、国際色豊かな芸術祭を開催していきたいと考えております。

最後になりますが、御来場いただきました皆様をはじめ、参加してくださったアーティスト、開催にあたり御支援、御協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

2023年3月

国際芸術祭「あいち」組織委員会

II 芸術監督報告

[国際芸術祭「あいち2022」の報告]

生きるちから、生き続けるちから

国際芸術祭「あいち2022」芸術監督
片岡 真実

国際芸術祭「あいち2022」がいかなる国際芸術祭となるべきか、その存在意義は何か、地域に根付いた芸術祭でありながらグローバルな現代アートの動向とも呼応するモデルは可能か。新しい芸術創出のためのプラットフォームでありながら、同時に現代アートの歴史にも根差し、世界各地の文化的多様性を反映したものにもなり得るのか。現代美術展とパフォーマンスアーツのプログラムをより深く接続できないか。世界の政治的、社会的、歴史的な複雑さを紐解きながらも、それらを“芸術”の域へ昇華させるものは何なのか。そもそも、未曾有のパンデミックに世界が包まれている最中に、意義のある芸術祭とは何なのか。そして、パンデミック下でいかにして真に国際的な芸術祭制作が可能なのか。

2019年の「あいちトリエンナーレ」が芸術や芸術祭を取り巻く様々な課題を浮き彫りにした後、未だその余韻が残る2020年の初秋に、国際芸術祭「あいち」組織委員会の大林剛郎会長から次回芸術祭の芸術監督就任の打診があった。森美術館の館長初年度でもあり、しかもコロナ禍中に果たしてそのようなことが可能なかと逡巡したが、逆に海外出張なく、多くをオンラインで済ませられるなら可能なのかもしれない、と考えた。ただ、芸術監督就任を承諾したモチベーションはむしろ、冒頭のさまざまな問いにすべて応答するような芸術祭を作れるか、という壮大な実験への好奇心だったかもしれない。

いずれにせよ、世界に国際芸術祭が300近くあると言われるなか、いかに独自性を保つのか。それを追求することが開催意義にも繋がっていく。そのためには、現在の愛知県が戦国時代に天下統一を目指した戦国三英傑を輩出した地でもあり、江戸時代には徳川御三家のひとつ尾張の城下町として発展したという歴史にも光を当てるべきと考えた。なかでも産業史や文化史に着目することで、地元の風景に残る歴史と芸術祭との接続を試みた。それが今回の芸術祭の会場に関しても、愛知芸術文化センターという芸術のための空間と、一宮市、常滑市、名古屋市有松地区という「まちなか会場」、非芸術空間との対比構造に繋がった。現代アートの歴史に関しても、愛知県が輩出した多くの芸術家、なかでも河原温や荒川修作のように国際的にも著名なアーティストについては、ローカルプライド醸成のためにも光を当てるべきであると考えた。本芸術祭のテーマ「STILL ALIVE」を、河原温の作品シリーズ「I am still alive」から借用したことで、河原の存在やその作品名は広く観客に浸透したことと思う。

結果的に芸術祭開催期間中、コロナ禍も終息せず、海外からの入国制限も解除されることは無かった。むしろ7月末の開幕時にはオミクロン株 BA.5による第7波が起り、感染者数は世界最多となった。そのなかで芸術祭に訪れた487,834人という数字は、コロナ以前の2016年比で81%となり、この間の観光業の状況を考えればまずまずの結果と言って良い。また、これまで3割～4割程度だった「まちなか会場」の鑑賞者数が今回6割を超えたことも、愛知固有の歴史や文化を強調したことが反映された結果と言える。そして、「冒頭のさまざまな問いにすべて応答するような芸術祭を作れるか」という実験としては、それが可能であるという手応えが感じられ、芸術監督として実に実りある試みだったと考えている。

今後に向けた課題としては、愛知県の広域性、地域ごとの歴史や文化の特徴をいかに観客に伝えていくかということがある。今回試みた愛知県の深掘りはまだまだ可能性を秘めており、移動距離や情報が多くなりすぎない最適の塩梅を模索して欲しい。また、今回のようなコロナ禍がそう頻繁には起こらないことを前提に、愛知ローカルとグローバルな芸術的クオリティが共存する芸術祭として、国際的な発信も一層強化されていくことを願う。外国人の芸術監督採用もその戦略のひとつとして実現させる時期を迎えているだろう。さらに開催回を重ねるごとに、未来の観客が育成されていくことも願いたい。すでに多数の県民がラーニング・プログラムのボランティアに参加されているが、芸術祭の運営、コーディネートなど組織内部の人材も地元で育成されていくこと、また県内いずれの自治体も芸術祭のまちなか会場としてその場の歴史や文化を国内外に誇れるようになることなど、愛知県の潜在力はいまだ無限の可能性を秘めている。国際芸術祭「あいち」が持続可能なモデルとして今後も継続され、愛知県の文化と人々の暮らしがますます豊かになっていくことを願っている。

最後に、困難な時期に本芸術祭に参加して下さった100名(組)のアーティストのみなさま、心躍る素晴らしいアーティストを推薦し、実現まで伴走して下さったキュレトリアル・アドバイザー、専門的知識や経験で芸術祭のクオリティに大きく貢献して下さった各部門キュレーター、パフォーマンス・アドバイザー、各アーティストとプロジェクトに関する丁寧な対話を続け、プランを実現させて下さったコーディネーター、テクニカル・チーム、空間や法令面での課題をクリエイティブに解決して下さったアーキテクト・チーム、配慮の行き届いたサイン等を制作して下さったデザイン・チーム、これら全てを根気強く調整・統括してくれた心強いチーフ・キュレーター、プロジェクト・マネージャーに、深く感謝申し上げたい。また、組織委員会で芸術祭を担当された県職員の方々にも、県民、会場自治体、庁内を見事につなぎ、猛暑のまちなか会場を運営して下さったことに心から感謝している。ご自宅の倉庫や工場などを展示会場に提供下さった地元の方々、一宮市長、常滑市長を始めまちなか会場として参加して下さった自治体職員の方々にも心から御礼申し上げます。そして、大林組織委員会会長と大村愛知県知事にはその揺るぎないリーダーシップに敬意を表したい。今回このような大変貴重な実験の機会をいただいたこと、素晴らしいチームで仕事をさせていただけたことに感謝して、報告書あいさつとさせていただきます。



III 開催概要

開催目的

- ・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。
- ・ 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。
- ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。

名称

国際芸術祭「あいち2022」

テーマ

STILL ALIVE

今、を生き抜くアートのちから

芸術監督

片岡真実(森美術館館長)

会期

2022年(令和4年)7月30日(土)～10月10日(月・祝)[73日間]

主な会場

- ・ 愛知芸術文化センター
- ・ 一宮市
- ・ 常滑市
- ・ 有松地区(名古屋市)

主催

国際芸術祭「あいち」組織委員会

企画概要

現代美術

- ・ 国内外の82組のアーティスト及びグループの新作を含む作品を展示し、最先端の現代美術を紹介。
- ・ 愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターや、一宮市、常滑市、有松地区(名古屋市)での作品展示など、県内で広域に展開。

パフォーミングアーツ

- ・ 国内外の先鋭的な演劇、音楽、ダンスなどの舞台芸術作品や関連プログラムを、愛知県芸術劇場および愛知芸術文化センター周辺で14演目上演。
- ・ 現代美術の文脈で語られてきたパフォーマンス・アートにも注目し、パフォーミングアーツをより横断的に楽しむためのレクチャーやトークなどを企画。

ラーニング

- ・ 「アートは一部の愛好家のためのものでなく、すべての人がそれぞれのやり方で楽しみ享受するもの」という基本的な考え方をコンセプトの核とし、幅広い層を対象とした様々な「ラーニング・プログラム」を実施。
- ・ 「あいち2022」会期中だけではなく、開幕までの期間を含め、フェーズ毎に目的を設定し、プログラムを構成。

連携事業

- ・ 県内の芸術大学を始め、多様な主体との連携による事業を展開。
- ・ 参加アーティストによる短期間の巡回展示を県内4市(長久手市、蒲郡市、半田市、西尾市)の文化施設などで開催。
- ・ 企画公募により選考された7組の地元文化芸術団体と共催で、舞台公演を実施。

オンライン展開

- ・ 会場での作品展示や上演等のほか、オンラインでの映像配信やプログラムなどを実施。

助成

文化庁／一般財団法人地域創造／Acción Cultural Española／ブラジル大使館／Creative New Zealand／大和日英基金／Institut für Auslandsbeziehungen／公益社団法人企業メセナ協議会／mondoriaanfonds／Office for Contemporary Art Norway／proyecto amil／Stimuleringsfonds Creative Industrie／台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター／公益財団法人全国税理士共栄会文化財団

協賛

スペシャルパートナー

株式会社麻生／エレコム株式会社／株式会社大林組／株式会社大丸松坂屋百貨店／森ビル株式会社／株式会社LIXIL

スタンダードパートナー

かんべ土地建物株式会社／資生堂ジャパン株式会社／ソニーグループ株式会社／東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社

プラチナスポンサー

イオン株式会社／吉野石膏株式会社／株式会社ロコガイド

ゴールドスポンサー

一般社団法人愛知県歯科医師会／一般社団法人愛知県薬剤師会／アクセンチュア株式会社／NTPホールディングス株式会社／岡谷鋼機株式会社／河村電器産業株式会社／公益財団法人現代芸術振興財団／株式会社コングレ／株式会社サードウェーブ／株式会社サーラコーポレーション／中部電力株式会社／寺田倉庫株式会社／東海東京証券株式会社／名古屋ステーション開発株式会社／名古屋鉄道株式会社／株式会社ニッショー／野村證券株式会社／Phillips Auctioneers Limited／株式会社マツシマホールディングス

シルバースポンサー

愛知県信用保証協会／HTC NIPPON株式会社／株式会社小菊製作所／THE TOWER HOTEL NAGOYA／サントリーホールディングス株式会社／滝一之／中部国際空港株式会社／一般財団法人T&Y Projects／東邦ガス株式会社／吉田俊雄／株式会社リュックス／リンナイ株式会社

ブロンズスポンサー

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／愛知環状鉄道株式会社／株式会社愛知銀行／愛知県行政書士会／一般社団法人愛知県建設業協会／一般社団法人愛知県浄化槽協会／公益社団法人愛知県私立幼稚園連盟／一般社団法人愛知県鍼灸マッサージ師会／公益社団法人愛知建築士会／一般社団法人愛知県土木研究会／愛知県農業土木研究会／愛知県美術館友の会／愛知県舗装技術研究会／一般社団法人愛知ビルメンテナンス協会／朝日電気工業株式会社／いちい信用金庫／株式会社伊藤建築設計事務所／MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社／LVMH モエ ヘネシー・ルイ ヴイトン・ジャパン株式会社／OKB大垣共立銀行／大林組名古屋林友会／春日井司法書士事務所／株式会社加藤連合建設／株式会社カプコン／壁絵錦三／株式会社キャリアネット／興和株式会社／後正産業株式会社／関谷醸造株式会社／セクダム株式会社／第一生命保険株式会社／知多半島ケーブルネットワーク株式会社／知多メディアネットワーク株式会社／株式会社東海理化／東明工業株式会社／トーテックアメニティ株式会社／豊島株式会社／鳥開総本家／名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科／名古屋市教職員福利厚生会／名古屋樹脂工業株式会社／名古屋商工会議所／名古屋ファッション専門学校／株式会社日建設計／日本空調システム株式会社／ハイビックス株式会社／尾西信用金庫／福玉精穀倉庫株式会社／ホーユー株式会社／松下英勝税理士事務所／丸美産業株式会社／ミクスネットワーク株式会社／三井住友海上火災保険株式会社／株式会社三井住友銀行／名港海運株式会社／モリリン株式会社

協力

愛知県立芸術大学／荒川修作＋マドリン・ギンズ東京事務所／INAXライブミュージアム／Esther Schipper／株式会社オルタナティブ・マシン／Galerie Buchholz／株式会社起点／京都芸術センター／京都芸術大学／Goodman Gallery／kurimanzutto／ケンジタキギャラリー／有限会社絞染色 久野染工場／Sprüth Magers／第38回有松絞りまつり実行委員会／タカ・イシイギャラリー／Take Ninagawa／デルタ電子株式会社／とこなめ焼協同組合／名古屋芸術大学／Bula'Bula Art Center／Protekto／Perrotin／MAHO KUBOTA GALLERY／南医療生活協同組合／株式会社モリサワ／森美術館／mont-bell／Ratio 3／One Million Years Foundation

会場提供

有松絞商工協同組合／合資会社安藤来助商店／INAXライブミュージアム／加藤呉服店／株式会社加藤連合建設／川村屋／国島株式会社／ゲストハウスMADO／株式会社竹田嘉兵衛商店／常々／合資会社中浜商店／のこぎり二／株式会社張正／碧海信用金庫／山田家(旧山田薬局) 山田修生

アンバサダー

imma(バーチャルモデル)／河瀬直美(映画作家)／近藤誠一(近藤文化・外交研究所代表、元文化庁長官)／隈研吾(建築家)／草野満代(フリーアナウンサー)／ナガオカケンメイ(D&DEPARTMENT ディレクター、デザイン活動家)／西高辻信宏(太宰府天満宮宮司)／野崎萌香(モデル、タレント)

STILL ALIVE

今、を生き抜くアートのちから

ポストコロナの時代、いかに日常生活や社会経済活動を回復し、持続可能でより平等な世界を築いていくかは、全世界が直面する喫緊の課題です。2022年はこのパンデミックからの回復期にあたり、コロナが浮き彫りにした現代社会のあり方に対して、環境、政治、経済、文化といったあらゆる領域から新しい提言が求められる時期となるでしょう。見通しの立たない時間のなかで、その現実に向き合い、不確かさのなかから未来を生み出すことは、現代を生きるわれわれ全てに課せられた責務でもあります。

現代美術やパフォーマンスアートといった芸術は、その歴史を振り返っても、常に時代を反映し、真実を追究し、不確かさのなかから新しい価値観を提示してきました。90年代以降、欧米中心の価値観が多方向に分岐し、世界がさらに複雑化した今日では、多様な文化に対する理解や敬意を求める多様性(ダイバーシティ)や包摂性(インクルージョン)がますます重視されています。とりわけパンデミックが明らかにした社会構造の脆弱さはアーティストや芸術機関の活動にも多大な影響を及ぼしていますが、そのなかでも世界のアートコミュニティは差別や格差などの社会問題に対して連帯をもって立ち向かい、持続可能な世界の在り方を追究しています。

国際芸術祭「あいち2022」のテーマ「STILL ALIVE」は、愛知県出身で世界的に評価されるコンセプチュアル・アーティスト河原温が、1970年代以降電報で自身の生存を発信し続けた《I Am Still Alive》シリーズに着想を得ています。

「あいち2022」は、この「STILL ALIVE」を多角的に解釈し、過去、現在、未来という時間軸を往来しながら、現代美術の源流を再訪すると同時に、類型化されてきた領域の狭間にも注目します。そして、芸術表現を通して不確かさや未知の世界、多様な価値観、圧倒的な美しさとの出会い、そこからいかに理想的で持続可能な未来を共につくりあげられるのかを考える機会となるでしょう。一方、コロナによって国境を跨ぐ活動が制限され、人々の意識は自身の拠って立つ地域へも向けられました。地方都市における芸術祭の特徴のひとつ、地域再発見という観点からは、愛知県の誇る歴史、地場産業、伝統文化などを視野に入れ、現代を起点にそれらをいかに蘇らせられるのかを探求しつつ、同時に世界各地のローカルをいかにグローバルに繋げていくのかという問いにも、クリエイティブに応答していくことになるでしょう。

「STILL ALIVE」を考えるために、以下のビジョンを掲げます。これらは独立して存在するものではなく、優劣の関係にも無く、相互に関連し、ときに相対しながら国際芸術祭「あいち2022」の全体を構成するものです。

過去から未来への時間軸を往来しながら「STILL ALIVE」を考える

100万年後の未来における地球や人間の存続を考える

現代世界を自然の営みや宇宙の法則といった大局的な視点から捉え、100年後、100万年後の未来にも地球が美しく存続し、人類が平和に生きるための意識喚起や提案を重視します。環境問題やサステナビリティへの意識は、「あいち2022」の前身「あいちトリエンナーレ」が、2005年の愛知万博「愛・地球博」のレガシーとして創設された歴史を継承するものでもあります。

過去の多様な物語をいかに現代に蘇らせるのかを考える

地球の歴史、人類の歴史に光を当て、世界各地のローカルな文脈を現代に照らして再考します。愛知県は江戸時代までは尾張と三河という二つの国であり、そこでは戦国時代から安土桃山時代にかけて日本の統一に貢献した三英傑など数々の武将が輩出されています。歴史はしばしば正史とされる物語とそれ以外の多様な物語が、異なる視点から語り継がれるものです。「あいち2022」では世界の多様な物語を現代に蘇らせませす。

現代を、この瞬間を、どう生き抜くのかを考える

2020年のパンデミックが引き起こした未曾有の健康危機、コロナ禍によって表面化した人種、ジェンダー、民族的な差異に対する差別や不平等などは、すべての人々の「命の重さ」を改めて考えさせることとなりました。自ら命を絶つ人々、なかでも女性と子供の自殺者数が増えていることも、日本社会が直面する大きな課題のひとつです。「あいち2022」では、「生きること」と芸術制作が強く結びついた力強い表現を通して、困難な時代の「生」について考えます。

現代美術の源流を再訪しつつ、類型化されてきた芸術分野の狭間に光を当てる

コンセプチュアル・アートの源流を再訪する

河原温が《I Am Still Alive》シリーズを始めた1970年代は、作品の視覚的な表現よりもその概念や意味を重視する概念芸術(コンセプチュアル・アート)が花開いた時期です。この考え方は今日なお、世界の現代美術の底流をなしています。愛知県からは河原温、荒川修作など国際的に評価されたコンセプチュアル・アーティストが輩出されていますが、「あいち2022」では世界各地のコンセプチュアル・アートにも光を当てます。

伝統工芸、先住民の芸術表現などを現代芸術の文脈から再考する

愛知県には地場産業、伝統工芸、食文化など固有の文化的伝統があります。海、山、川のある豊かな自然環境によって窯業や繊維業も発展してきました。近代以降、陶芸や染織などは「工芸」として「美術(ファインアート)」とは一線を画すものとされてきましたが、近年では多様な文化圏における近代美術の発展が再考され、工芸と美術を横断する表現、先住民族の芸術表現なども再評価されています。「あいち2022」ではこうした芸術領域を固定概念から解放し、同時代に生きる表現として再考します。

言葉と記号による芸術表現を再考する

河原温は《I Am Still Alive》シリーズの他にも、日付や起床時間など数字や言葉を使った作品を残しています。ソーシャルメディアが発達した現代社会では短い言葉や記号によるコミュニケーションが広がっていますが、「あいち2022」では文字を使った美術表現やポエトリー（詩）の領域にも注目します。

身体表現や五感でアートを体感する

身体表現や五感で体感する表現などは、生きていることを直接的に実感させるものです。「あいち2022」では、現代美術とパフォーマンス・アートという領域が共存してきたあいちトリエンナーレの歴史を踏襲しつつ、現代美術の文脈で語られてきたパフォーマンス・アートに特に注目します。ここでも個々の領域の枠組みや空間にとらわれず、それぞれが有機的に融合するかたちを模索します。

生きることは学び続けること。未知の世界、多様な価値観、圧倒的な美しさと出会う

ラーニング・プログラムを通じて、体験や感動を未来に継承

初めて出会う現代美術作品は、しばしば難解であると言われるますが、それぞれの制作背景やアーティストの生きた時代や文化などのストーリーを学ぶことで、世界の遠い場所に住む人々や世代の異なる人々の感情や意識への共感にも繋がります。「あいち2022」では、さまざまなラーニング・プログラムを通して、作品をより深く理解し、国際芸術祭での体験や感動がみなさんの記憶に刻まれ、その先の人生に活かされる知恵や知識、精神の糧となるよう取り組みます。

美しさに心を動かす

詩人のウィリアム・ワーズワースは、空に虹を眺めるときに踊る心を唱いました。大人になっても、年齢を重ねてもそうでありたい、と。国際芸術祭「あいち2022」もまた、芸術の圧倒的な美しさに感動し、人生のどの一瞬にあっても明日を生きるためのポジティブなエネルギーに繋がる、心躍る出会いや体験の場になることを目指します。

国際芸術祭「あいち2022」芸術監督
片岡 真実

アクセス情報



愛知県(名古屋駅)までの主なアクセス

- 電車 東京から | 東京駅 ————— [JR東海道新幹線「のぞみ」/約1時間40分] —————> 名古屋駅
大阪から | 新大阪駅 ————— [JR東海道新幹線「のぞみ」/約50分] —————> 名古屋駅
- 飛行機 中部国際空港セントレア ————— [名古屋鉄道「ミュースカイ」/約28分] —————> 名鉄名古屋駅
※常滑会場へは、中部国際空港セントレア — [名古屋鉄道常滑線/特急約5分] —> 常滑駅
県営名古屋空港 ————— [あおい交通 空港バス/約30分] —————> 名古屋駅

名古屋駅から各地区へのアクセス

- 愛知芸術文化センター 名古屋駅 ————— [地下鉄東山線/約5分] —————> 栄駅
- 一宮市 名鉄名古屋駅 — [名古屋鉄道名古屋本線/特急約14分] —> 名鉄一宮駅
名古屋駅 ————— [JR東海道本線/新快速約9分] —————> 尾張一宮駅
- 常滑市 名鉄名古屋駅 ————— [名古屋鉄道常滑線/特急約35分] —————> 常滑駅
- 有松地区(名古屋市) 名鉄名古屋駅 ————— [名古屋鉄道名古屋本線/約30分] —————> 有松駅

主な会場

愛知芸術文化センター／Aichi Arts Center

国内外の20世紀美術を中心に充実した作品を所蔵する愛知県美術館、大ホール、コンサートホール、小ホール、リハーサル室などを有する愛知県芸術劇場、アートスペース、アーツライブラリー、アーツプラザで構成される愛知県文化情報センターからなる複合文化施設。愛知県の文化芸術の拠点として、名古屋市を中心に1992年開館。



一宮市／Ichinomiya City

愛知県の北西部に位置する人口約38万人の尾張地方の中核市。尾張国の「一宮」が真清田神社であったことから、その門前町であるこの地域が「いちのみや」と呼ばれるようになった。江戸時代より綿織物の生産が盛んとなり、絹綿交織物の生産を経て、毛織物(ウール)生産へと転換、「織物のまち一宮」となった。一宮駅周辺のオリナス一宮、旧一宮市立中央看護専門学校などのほか、県内唯一の丹下健三建築である、一宮市尾西生涯学習センター墨会館を始めとした尾西エリアで展示。



常滑市 / Tokoname City

知多半島の中央、西海岸に位置する人口約6万人の市。平安時代末期頃から「古常滑」と呼ばれる焼き物の産地として知られ、瀬戸、信楽、越前、丹波、備前と並び、日本遺産に認定された日本六古窯の一つ。江戸時代以降は急須、明治時代からは土管、タイルなど時代に合わせた焼き物を生産し、現代でも窯業は主産業となっている。昭和初期の風情を随所に残す「やきもの散歩道」を中心に、旧製陶所や廻船問屋瀧田家、INAXライブミュージアムなどで展示。



有松地区(名古屋市) / Arimatsu, Nagoya City

名古屋市南東部に位置し、慶長13年(1608年)、尾張藩により開かれた東海道沿いのまち。有松・鳴海絞の製造・販売により発展し、現在も江戸時代の浮世絵さながらの景観が東海道沿いに広がっており、有松・鳴海絞のほか、町並みや山車などの伝統的な文化を今に伝えている。名古屋市「町並み保存地区」、国「重要伝統的建造物群保存地区」、文化庁「日本遺産」。東海道沿いの歴史的な建造物や、工房などで展示。





IV 企画体制

■ 芸術監督

片岡真実 Kataoka Mami

ニッセイ基礎研究所都市開発部、東京オペラシティ
アートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より
森美術館（東京）。2020年より同館館長。

2007～2009年はヘイワード・ギャラリー（ロンドン、英国）にて、
インターナショナル・キュレーターを兼務。第9回光州ビエン
ナーレ（2012年、韓国）共同芸術監督、第21回シドニー・ビエン
ナーレ芸術監督（2018年、豪州）。2014年から国際美術館
会議（CIMAM）理事を務め、2020年より会長（～2022年）。



■ キュレトリアル・アドバイザー

コスミン・コスティナス、ラーナ・デヴェンポート、マーティン・ゲルマン、ウンジー・ジュー、
ガビン・ゴボ、ヴィクトリア・ノーソーン、トビアス・オストランダー、ラルフ・ルゴフ、島袋道浩

■ チーフ・キュレーター（学芸統括）

飯田志保子

■ キュレーター（現代美術）

中村史子、堤拓也

■ パフォーミングアーツ・アドバイザー

藤井明子、前田圭蔵

■ キュレーター（パフォーミングアーツ）

相馬千秋

■ キュレーター（ラーニング）

会田大也、山本高之

■ プロジェクト・マネージャー（学芸担当）

塩津青夏、鶴尾佳奈

■ 芸術監督秘書

田中沙織（森美術館）

現代美術展

■ アーキテクト

栗本真壱(栗本設計所)、丸田知明(丸田知明建設設計事務所)、
三谷裕樹(ナノメートルアーキテクチャー)、山岸綾(CYCLE ARCHITECTS)

■ テクニカル・ディレクター

西翼、山田晋平

■ コーディネーター

安藤行宥、本多康紀、堀江映予、飯田真実、稲垣知里、勝冶真美、黒岩朋子、水野慎子、
水品真実、難波祐子、二條朋子、小田鮎子、岡田理絵、鈴木一絵、高見翔子、武本彩子

■ アシスタント・キュレーター

黒田和士、由良濯、芹澤なみき、副田一穂

パフォーマンスアーツ

■ プロダクション・マネージャー

清水翼

■ コーディネーター

石川千尋、村松里実、芝田遥、菅井一輝、谷口裕子

■ テクニカル・コーディネーター

尾崎聡

ラーニング

■ コーディネーター

雨森信、遠藤真央、近藤令子、松村淳子、野田智子、大場美葵、小倉明紀子、高森順子、
山根理乃

広報

■ アドバイザー

犬飼貴俊(INUKAI inc.)、望月章宏(TM PRESS)

■ 海外向けアドバイザー

津田礼沙(TM PRESS)

■ スタッフ

有田泰子、出会桃子、島田文美子

公式デザイン

■ 公式デザイナー

田中義久(centre Inc.)

■ アシスタント

山田悠太郎(centre Inc.)

公式 Web サイト

■ Webディレクション

中本真生 (UNGLOBAL STUDIO KYOTO)

■ Webデザイナー

石井喜博 (temple)

公式カタログ

■ 編集

増田千恵 (this and that)、内田伸一

<ロゴ>



■ デザイナー

田中義久

■ デザインコンセプト

ハートのかたちは、芸術監督とのディスカッションのなかで、愛知県全体の形状と、知多半島と渥美半島に囲まれる三河湾の形状が二重のハートを連想させることと、「STILL ALIVE」というテーマから「生きる」意味を象徴する心臓をイメージさせるというインスピレーションから生まれたものです。それを起点にロゴを考える過程で、県名が「愛」知県であることや、この地への「愛」情という意味なども重なってきました。

色は、「猩々緋(しょうじょうひ)」や「常滑焼」など、愛知県をイメージする複数の赤を集約しています。猩々は猿に似た中国の伝説上の生き物で、名古屋市南部を中心に地域のお祭りで親しまれており、今回の会場の一つである有松地区の有松天満社の秋祭りでも天狗と共に登場します。猩々緋の羅紗は戦国時代に織田信長や豊臣秀吉などの武将が陣羽織に仕立てたという歴史もあり、愛知にもゆかりがある色です。

県民の皆様にも愛されながら、日本、そして世界へと発信されていく、シンボリックなロゴマークを目指しました。

V 展開概要

1 現代美術

(1) 現代美術展

- ・国内外から82組のアーティスト・団体が出品し、「STILL ALIVE」のテーマのもと、過去、現在、未来という時間軸を通して、愛知県の誇る歴史、地場産業、伝統文化の再発見や生きることの根源的な意味を考える作品が数多く取り上げられた。
- ・会場は愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターのほか、一宮市、常滑市、有松地区(名古屋市緑区)のまちなかで広域に展開した。

■ 展示面積

会場	展示面積	備考
愛知芸術文化センター	7,490㎡	
一宮市	4,965㎡	
常滑市	1,657㎡	
有松地区(名古屋市)	669㎡	屋外の展示は作品面積を集計
計	14,781㎡	

■ 参加アーティスト一覧(姓のアルファベット順)

	アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生/結成年 (没年)	出身/結成地	会場
1	足立智美	ADACHI Tomomi	1972	日本	芸文
2	ホダー・アフシャル	Hoda AFSHAR	1983	イラン	芸文
3	AKI INOMATA	AKI INOMATA	1983	日本	有松
4	ローリー・アンダーソン & 黄心健(ホアン・シンチェン)	Laurie ANDERSON & HUANG Hsin-Chien	1947/1966	米国/台湾	芸文
5	リリアナ・アングロ・コルテス	Liliana ANGULO CORTÉS	1974	コロンビア	芸文
6	レオノール・アントウネス	Leonor ANTUNES	1972	ポルトガル	一宮
7	荒川修作 + マドリン・ギンズ	ARAKAWA and Madeline GINS	1936(2010)/ 1941(2014)	日本/米国	芸文
8	カデル・アティア	Kader ATTIA	1970	フランス	芸文
9	ローター・バウムガルテン	Lothar BAUMGARTEN	1944(2018)	ドイツ	一宮
10	ディードリック・ブラッケンズ	Diedrick BRACKENS	1989	米国	芸文
11	ロバート・ブリア	Robert BREER	1926(2011)	米国	芸文
12	マルセル・ブロータース	Marcel BROODTHAERS	1924(1976)	ベルギー	芸文
13	曹斐(ツァオ・フェイ)	CAO Fei	1978	中国	一宮
14	ヤコバス・カポーン	Jacobus CAPONE	1986	豪州	芸文
15	ケイト・クーパー	Kate COOPER	1984	英国	芸文
16	パブロ・ダヴィラ	Pablo DÁVILA	1983	メキシコ	芸文

	アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生/結成年 (没年)	出身/結成地	会場
17	クラウディア・デル・リオ	Claudia DEL RÍO	1957	アルゼンチン	芸文
18	メアリー・ダパラニー	Mary DHAPALANY	1950	豪州	芸文
19	遠藤薫	ENDO Kaori	1989	日本	一宮
20	シアスター・ゲイツ	Theaster GATES	1973	米国	常滑
21	潘逸舟(ハン・イシュ)	HAN Ishu	1987	中国	芸文
22	服部文祥+石川竜一	HATTORI Bunsho+ ISHIKAWA Ryuichi	1969/1984	日本	常滑
23	ニーカウ・ヘンディン	Nikau HINDIN	1991	ニュージーランド (アオテアロア)	常滑
24	許家維(シュウ・ジャウエイ)	HSU Chia-Wei	1983	台湾	一宮
25	アンネ・イムホフ	Anne IMHOF	1978	ドイツ	一宮
26	石黒健一	ISHIGURO Kenichi	1986	日本	一宮
27	ミット・ジャイイン	Mit JAI INN	1960	タイ	有松
28	ジャッキー・カルティ	Jackie KARUTI	1987	ケニア	一宮
29	河原温	On KAWARA	1932(2014)	日本	芸文
30	ユキ・キハラ	Yuki KIHARA	1975	サモア	有松
31	バイロン・キム	Byron KIM	1961	米国	芸文
32	岸本清子	KISHIMOTO Sayako	1939(1988)	日本	芸文
33	小寺良和	KODERA Yoshikazu	1957	日本	芸文
34	鯉江良二	KOIE Ryoji	1938(2020)	日本	常滑
35	アンドレ・コマツ	André KOMATSU	1978	ブラジル	芸文
36	アブドゥライ・コナテ	Abdoulaye KONATÉ	1953	マリ	芸文
37	近藤亜樹	KONDO Aki	1987	日本	一宮
38	小杉大介	Daisuke KOSUGI	1984	日本	一宮
39	黒田大スケ	KURODA Daisuke	1982	日本	常滑
40	グレンダ・レオン	Glenda LEÓN	1976	キューバ	常滑
41	タニヤ・ルキン・リンクレイター	Tanya LUKIN LINKLATER	1976	米国	有松
42	ニヤカロ・マレケ	Nyakallo MALEKE	1993	南アフリカ	一宮
43	ミシェック・マサンヴ	Misheck MASAMVU	1980	ジンバブエ	芸文
44	升山和明	MASUYAMA Kazuaki	1967	日本	一宮
45	バリー・マッギー	Barry MCGEE	1966	米国	一宮
46	ミルク倉庫+ココナッツ	mirukusouko (Milk Warehouse) + The Coconuts	2015結成	日本	芸文
47	三輪美津子	MIWA Mitsuko	1958	日本	芸文
48	宮田明日鹿	MIYATA Asuka	1985	日本	有松
49	モハンマド・サーミ	Mohammed Sami	1984	イラク	芸文
50	百瀬文	MOMOSE Aya	1988	日本	芸文
51	デルシー・モレロス	Delcy MORELOS	1967	コロンビア	常滑

	アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生/結成年 (没年)	出身/結成地	会場
52	迎英里子	MUKAI Eriko	1990	日本	一宮
53	奈良美智	NARA Yoshitomo	1959	日本	一宮
54	縄(愛知県芸チーム initiated by 奈良美智)	Nawa (Aichi Kengei Team initiated by Nara Yoshitomo)	2022結成	日本	芸文
55	トゥアン・アンドリュウ・グエン	Tuan Andrew NGUYEN	1976	ベトナム	常滑
56	尾花賢一	OBANA Kenichi	1981	日本	常滑
57	大泉和文	OIZUMI Kazufumi	1964	日本	芸文
58	奥村雄樹	OKUMURA Yuki	1978	日本	芸文
59	ローマン・オンダック	Roman ONDAK	1966	スロバキア	芸文
60	小野澤峻	ONOZAWA Shun	1996	日本	芸文
61	ガブリエル・オロスコ	Gabriel OROZCO	1962	メキシコ	有松
62	カズ・オオシロ	Kaz OSHIRO	1967	日本	芸文
63	ティエリー・ウッス	Thierry OUSSOU	1988	ベナン	常滑
64	リタ・ポンセ・デ・レオン	Rita PONCE DE LEÓN	1982	ペルー	芸文
65	プリンツ・ゴラーム	Prinz Gholam	2001結成	ドイツ/レバノン	有松
66	ジミー・ロベール	Jimmy ROBERT	1975	グアドループ (フランス)	芸文
67	フロレンシア・サディール	Florencia SADIR	1991	アルゼンチン	常滑
68	眞田岳彦	SANADA Takehiko	1962	日本	一宮
69	ファニー・サニン	Fanny SANÍN	1938	コロンビア	芸文
70	笹本晃	SASAMOTO Aki	1980	日本	芸文
71	イワニ・スケース	Yhonnie SCARGE	1973	豪州	有松
72	塩見允枝子	SHIOMI Mieko	1938	日本	芸文
73	塩田千春	SHIOTA Chiharu	1972	日本	一宮
74	シュエ ウツ モン (チー チー ターとのコラボレーション)	Shwe Wutt Hmon in collaboration with Kyi Kyi Thar	1986	ミャンマー	芸文
75	ディムート・シュトレベ	Diemut STREBE	1982	ドイツ	芸文
76	田村友一郎	TAMURA Yuichiro	1977	日本	常滑
77	和合亮一	WAGO Ryoichi	1968	日本	芸文
78	渡辺篤 (アイムヒア プロジェクト)	WATANABE Atsushi (I'm here project)	1978	日本	芸文
79	西瓜姉妹 (ウォーターメロン・シスターズ)	Watermelon Sisters	2017結成	台湾/ シンガポール	一宮
80	ケイリーン・ウイスキー	Kaylene WHISKEY	1976	豪州	一宮
81	イー・イラン	YEE I-Lann	1971	マレーシア	有松
82	横野明日香	YOKONO Asuka	1987	日本	芸文

芸文:愛知芸術文化センター/一宮:一宮市/常滑:常滑市/有松:有松地区(名古屋市)

(2) 主なイベント等

■ オープニングイベント

開催日	内容	実施場所
7月29日(金)	内覧会	全会場
	記者会見	愛知芸術文化センター12階 アートスペース A
	プレス向けバスツアー	愛知芸術文化センター、一宮市
	オープニングセレモニー	愛知芸術文化センター2階 愛知県芸術劇場大ホール
7月30日(土)	オープニングイベント	愛知芸術文化センター10階 愛知県美術館ロビー ※同時に、一宮市、常滑市、有松地区においても参加アーティスト等によるテープカットを実施
	プレス向けバスツアー	常滑市、有松地区(名古屋市)

■ トークイベント

○ STILL ALIVE キュレトリアル・ラウンドテーブル

開催日	7月31日(日)
場所	愛知芸術文化センター12階 アートスペース A
内容	<p>「あいち2022」の芸術監督、アドバイザー、キュレーターが集い、テーマである「STILL ALIVE」がいかに多様に発展したか、参加アーティストがどのように呼応したかなど、開幕直後の感想を交えながら語った。加えて、今日、世界各地で開催されている国際展に求められる役割や課題を共有し、国際芸術祭とグローバルなアートシーンとの連動、距離感などについて議論した。</p> <p>【登壇者】 片岡真実(「あいち2022」芸術監督) ラーナ・デヴェンポート(キュレトリアル・アドバイザー) マーティン・ゲルマン(キュレトリアル・アドバイザー) トビアス・オストランダー(キュレトリアル・アドバイザー) 島袋道浩(キュレトリアル・アドバイザー) 飯田志保子(チーフ・キュレーター(学芸統括)) 中村史子(キュレーター(現代美術)) 堤拓也(キュレーター(現代美術)) 藤井明子(パフォーミングアーツ・アドバイザー) 前田圭蔵(パフォーミングアーツ・アドバイザー) 相馬千秋(キュレーター(パフォーミングアーツ)) 会田大也(キュレーター(ラーニング)) 山本高之(キュレーター(ラーニング))</p>
参加者数	100人

○ トークセッション「河原温とは誰か？」

開催日	7月31日(日)
場所	愛知芸術文化センター12階 アートスペース A
内容	河原温と生前交流のあった専門家を招き、河原温の芸術の本質とアーティストとしての姿勢などについて議論し、《I Am Still Alive》以外の作品についても掘り下げながら、河原温の作品群の今日的な意義について多様な視点から語った。 【登壇者】 平出隆(多摩美術大学名誉教授) 南雄介(愛知県美術館元館長) 能勢陽子(豊田市美術館学芸員) ジョナサン・ワトキンス(アイコン・ギャラリー館長) 吉岡令人(One Million Years Foundationマネージング・ディレクター) モデレーター:片岡真実(「あいち2022」芸術監督)
参加者数	99人

○ アーティストトーク

開催日	登壇者	実施場所	参加者数
9月3日(土)・ 4日(日)、 10月8日(土)～ 10日(月・祝)	服部文祥(「あいち2022」参加アーティスト)	旧丸利陶管	—
9月11日(日)	石川竜一(「あいち2022」参加アーティスト)	旧丸利陶管	—
10月2日(日)	奥村雄樹(「あいち2022」参加アーティスト) 中村史子(「あいち2022」キュレーター(現代美術))	オンライン	—
10月8日(土)	余政達(ユ・チェンタ) from 西瓜姉妹(ウォーターメロン・シスターズ) (「あいち2022」参加アーティスト) 進行:堤拓也(「あいち2022」キュレーター(現代美術))	一宮市本町 商店街	80人
10月8日(土)	AKI INOMATA(「あいち2022」参加アーティスト)	岡家住宅	40人
10月10日(月・祝)	ローリー・アンダーソン(「あいち2022」参加アーティスト) 片岡真実(「あいち2022」芸術監督) 前田圭蔵(「あいち2022」パフォーミングアーツ・アドバイザー)	愛知芸術文化 センター12階 アートスペースA	67人
10月10日(月・祝)	許家維(シュウ・ジャウエイ)(「あいち2022」参加アーティスト) 芦澤忠(INAXライブミュージアム「やきもの工房」技術研究員) 進行:鈴木一絵(「あいち2022」コーディネーター)	INAX ライブ ミュージアム	35人
10月10日(月・祝)	黒田大スケ(「あいち2022」参加アーティスト) 芦澤忠(INAXライブミュージアム「やきもの工房」技術研究員) 進行:堤拓也(「あいち2022」キュレーター(現代美術))	INAX ライブ ミュージアム	70人
計			292人

○ 荒川修作+マドリン・ギンズ VR作品公開イベント

開催日	9月2日(金)
場所	愛知芸術文化センター地下2階 大リハーサル室
内容	荒川修作とマドリン・ギンズのプロジェクトがどのように構想され、今回、VR作品として制作されるに至ったか、その開発秘話などについてのトークを行った。 【登壇者】 本間桃世(荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所代表、Reversible Destiny Foundation) 池上高志(㈱オルタナティブ・マシン 取締役・最高科学責任者、東京大学大学院教授) 升森敦士(㈱オルタナティブ・マシン 代表取締役、東京大学大学院特任研究員) 土井樹(㈱オルタナティブ・マシン シニアリサーチャー、東京大学大学院特任研究員、音楽家) モデレーター: 鶴尾佳奈(「あいち2022」プロジェクト・マネージャー(学芸担当))
参加者数	57人

■ VR体験

開催日	9月3日(土)・4日(日)・17日(土)・18日(日)
場所	愛知芸術文化センター2階 ペDESTリアンデッキ、フォーラムⅡ
内容	愛知芸術文化センター8階で展示した荒川修作+マドリン・ギンズの作品《問われているプロセス/天命反転の橋》のVR版を体験するイベントを開催した。
参加者数	88人

■ パフォーマンス・ワークショップ等

○ 愛知芸術文化センター

● 笹本晃 パフォーマンス

開催日	7月30日(土)・31日(日)
場所	愛知芸術文化センター8階 愛知県美術館
内容	障子が組み込まれたパネル、玄関扉、シャッター等のインスタレーションを舞台とし、パフォーマンス《リスの手法:境界線の幅》を行った。

● 和合亮一 パフォーマンス

開催日	7月30日(土)
場所	愛知芸術文化センター8階・10階 愛知県美術館
内容	作家の作品である《#愛の礫》、《詩の礫 2022》の前で詩の朗読パフォーマンスを行った。

○ 一宮市

● 眞田岳彦 「あいち NAU プロジェクト」トーク&ワークショップ

開催日	①4月16日(土)、②4月23日(土)、③4月30日(土)、④5月1日(日)、⑤5月14日(土)、 ⑥5月15日(日)、⑦5月21日(土)
場所	①豊橋市民俗資料収蔵室(豊橋市美術博物館付属施設) ②一宮市三岸節子記念美術館 ③安城市歴史博物館 安城市民ギャラリー ④愛知県陶磁美術館 ⑤豊田市近代の産業とくらし発見館 ⑥一宮市博物館 ⑦知多市歴史民俗博物館
内容	「あいち2022」参加アーティストである眞田岳彦によるプロジェクトとして、芸術祭の開幕に向け、「あいちの繊維を巡る」をテーマに、愛知県内6市7つの美術館・博物館で、各館館長や学芸員、専門家による各地の土地や繊維にまつわるトーク、実演や対談、参加者の皆で作品の一部となるウールの縄を綯うワークショップを行うイベントを開催した。 【登壇者】 ※所属、肩書は2022年3月時点 ①天野武弘(愛知大学中部地方産業研究所)、成岡久男、成岡靖子、三木令子、奥中竹代、Takano Kyoko、朝倉美知子 ②野田路子(一宮市三岸節子記念美術館学芸員)、成河端子(一宮市博物館学芸員) ③野上真由美(安城市歴史博物館学芸員)、伊藤基之(安城市歴史博物館学芸係長) ④佐藤一信(愛知県陶磁美術館副館長) ⑤小西恭子(豊田市近代の産業とくらし発見館学芸員) ⑥神田年浩(一宮市博物館学芸員)、尾張もめん伝承会(熊澤総子、鈴木良子) ⑦新美朋子(知多市歴史民俗博物館館長)、吉川佳代(知多木綿連絡会代表・博物館の織りの技術伝承講座講師)
参加者数	①33人 ②31人 ③19人 ④28人 ⑤19人 ⑥33人 ⑦28人 計191人

● 迎英里子 パフォーマンス 『approach 13.0』

開催日	①7月31日(日)、②10月9日(日)
場所	一宮市尾西生涯学習センター墨会館
内容	作品展示会場である墨会館の中庭で、紡績及び毛織産業で有名な尾西市(現・一宮市)でのリサーチをもとにしたパフォーマンスを実施した。 【出演者】青沼沙季、佐藤亜矢、すう、田辺舞、坪井希未風、野道奈緒、遥菜、松倉祐希 【制作】加藤愛 【協力】秋田公立美術大学
参加者数	①80人 ②133人

● 余政達(ユ・チェンタ) from 西瓜姉妹(ウォーターメロン・シスターズ) 街歩きパフォーマンス

開催日	10月9日(日)
場所	一宮市本町商店街周辺
内容	西瓜姉妹(ウォーターメロン・シスターズ)の一人である余政達(ユ・チェンタ)が作品中の姿に扮し、作品展示会場である旧一宮市中央看護専門学校から一宮市本町商店街周辺を練り歩くパフォーマンスを実施した。 【パフォーマー】余政達(ユ・チェンタ)(「あいち2022」参加アーティスト)

○ 常滑市

● グレンダ・レオン パフォーマンス

開催日	7月30日(土)・31日(日)
場所	旧丸利陶管
内容	グレンダ・レオンが常滑で創作した新作を含む3作品を、音楽家・野村誠が即興で音を奏でるパフォーマンスを実施した。 【パフォーマー】野村誠
参加者数	45人

● シアスター・ゲイツ エイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション

開催日	8月7日(日)～16日(火) ※10日(水)を除く
場所	旧丸利陶管
内容	シカゴを拠点に活動するヨガ講師／コンテンポラリー・ダンサーであるエイプリル・ファルコンがヨガから着想した動きのデモンストレーションを行った。 【パフォーマー】エイプリル・ファルコン

● シアスター・ゲイツ ブラック・モンクス・オブ・ミシシッピによる公開録音とパフォーマンス

開催日 ／場所	<公開録音>8月12日(金)・14日(日)・16日(火)／旧丸利陶管 <パフォーマンス>8月13日(土)／INAX ライブミュージアム
内容	シアスター・ゲイツの芸術的実践として常に存在し続けるバンド、ブラック・モンクス・オブ・ミシシッピによる公開録音と、映像収録のためのパフォーマンスを行なった。 16日は、彼らの音楽に合わせてヨガ講師／コンテンポラリー・ダンサーであるエイプリル・ファルコンがパフォーマンスを行った。 【パフォーマー】ブラック・モンクス・オブ・ミシシッピ、エイプリル・ファルコン(16日のみ)

● 黒田大スケ ワークショップ「ふくふくホイッスル」

開催日	9月25日(日)
場所	INAX ライブミュージアム
内容	常滑の窯業の歴史にインスピレーションを受けて黒田大スケが制作した、陶製の7種の笛(石炭、海、煙突、松、黒いすずめ、石膏レリーフ、炎)を参加者が一斉に吹くワークショップを行った。
参加者数	45人

● 黒田大スケ ワークショップ「ふえフェス」

開催日	10月10日(月・祝)
場所	INAX ライブミュージアム
内容	伊奈製陶(のちのINAX、現LIXIL)の創業者・伊奈長三郎の命日である10月10日に、INAX ライブミュージアムの協力のもと、黒田大スケが常滑の風景や逸話をモチーフとして制作した大小300個から成る《とこなめの笛》を、参加者が一斉に吹くワークショップを実施した。
参加者数	330人

○ 有松地区(名古屋市)

● 宮田明日鹿 《有松手芸部》

開催日	<p>①6月4日(土)・5日(日)</p> <p>②6月16日(木)～7月23日(土)の木・金・土曜日(18回)</p> <p>③7月30日(土)～10月10日(月・祝)までの木曜日(9回) ※8月11日(木)を除く</p>
場所	<p>①旧山田薬局</p> <p>②旧加藤呉服店／旧山田薬局</p> <p>③旧加藤呉服店</p>
内容	<p>①手芸部立ち上げ記念イベント in 有松絞りまつり</p> <p>有松地区の参加作家である宮田明日鹿は、「あいち2022」のアート・プロジェクトとして、有松・鳴海絞の伝統と革新が共存する有松の地で、手芸好きの方や手芸をやってみみたい方が集まる有松手芸部を立ち上げることにした。これに先立ち、2022年6月4日、5日に開催された有松絞りまつりで、有松・鳴海絞りを製造する工程で使用済みとなった括り糸で、手芸の素材として使う太い糸を家庭用編み機で制作するワークショップを実施した。</p> <p>②③有松手芸部</p> <p>「あいち2022」の開幕前から3か月にわたり、宮田明日鹿と一般参加で集まった地元有松地区周辺の住民の方々を軸として、手芸にまつわることを共に学び合い、手を動かす、「有松手芸部」の活動を行った。</p>
参加者数	<p>①60組128人 ②③延べ469人</p>

(3) チケット

■ 現代美術展チケットの種類と制度

フリーパス	記名御本人様に限り、各会場を何回でも観覧可能
1DAYパス	入場当日に限り、各会場を何回でも観覧可能
アップグレード	一定料金(一般1,200円、学生800円)を支払うことで、「1DAYパス」から「フリーパス」へ交換できる。

■ 現代美術展チケットの種類と金額

- ・中学生以下は無料とした。
- ・障害者手帳等をお持ちの方と付添の方1名までは無料とした。
- ・学校向け団体鑑賞プログラムで来場される場合、学生及び引率者は無料とした。(要事前申込)

チケットの種類 販売期間		特別販売券※ 4月1日～10月10日	前売券 4月1日～7月29日	会期中販売券 7月30日～10月10日
フリーパス	一般	2,100円	2,500円	3,000円
	学生(高校生以上)	1,400円	1,700円	2,000円
1DAYパス	一般	1,200円	1,500円	1,800円
	学生(高校生以上)	800円	1,000円	1,200円

※チケットを10万円分以上もしくは100枚以上まとめて購入する場合の特別価格

■ INAXライブミュージアムとのペアチケット

【内容】常滑会場の展示場所のひとつである「INAXライブミュージアム」内共通入館券と「1DAYパス」のセット券

【金額】一般2,000円、学生1,500円 【販売期間】4月1日～10月10日

フリーパス

〈表面〉

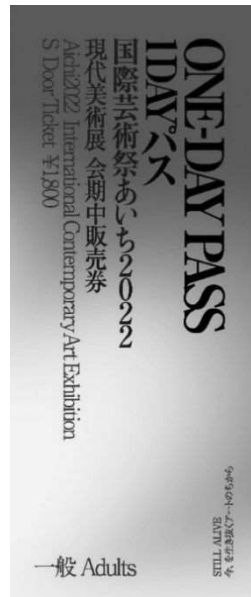


〈裏面〉

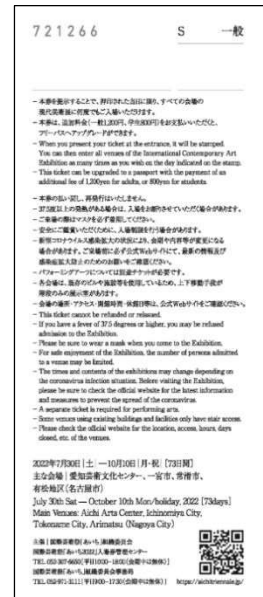


1DAYパス

〈表面〉



〈裏面〉



2 パフォーミングアーツ

- ・国内外の先鋭的な演劇、音楽、ダンス、VR・体験型パフォーマンスなどの舞台芸術作品や関連プログラムを、愛知県芸術劇場及び愛知芸術文化センター周辺で14演目上演した。
- ・現代美術の文脈で語られてきたパフォーマンス・アートにも注目し、パフォーミングアーツをより横断的に楽しむためのレクチャーやトークなどを実施した。
- ・パフォーミングアーツを多面的に体験するためのオンラインコンテンツとして「PAチャンネル」を開設した。
- ・同日に複数の演目を鑑賞できるように会期のオープニング期とクロージング期に複数演目を集中的に上演する期間（7月30日～8月7日、9月30日～10月10日）を設定した。

■ 公演一覧

会場	アーティスト名等	演目	公演日	来場者数
愛知県芸術劇場 小ホール	トラジャル・ハレル	シスター あるいは 彼が体を埋めた — Sister or He Buried the Body (新作/日本初演)	7月30日(土)・ 31日(日)	266人
		ダンサー・オブ・ザ・イヤー (日本初演)	7月30日(土)・ 31日(日)	234人
	ジョン・ケージ	ユーロペラ3&4 (日本初演)	8月13日(土)・ 14日(日)	264人
	中村蓉	ジゼル (リクリエーション)	9月17日(土)～ 19日(月・祝)	266人
	今井智景	シネクドキズム3 by music, photography and visual art (新作/世界初演)	9月30日(金)・ 10月1日(土)	204人
	ラビア・ムルエ	表象なんかこわくない (日本初演)	10月2日(日)・ 4日(火)	279人
	百瀬文	クローラー (新作/世界初演)	10月6日(木)～ 10日(月・祝)	200人
愛知県芸術劇場 大リハーサル室	バック・トゥ・バック・ シアター	ODDLANDS ※映画の上映 (日本初上映)	7月30日(土)	239人
	塩見允枝子	塩見允枝子パフォーマンス作品 『～音と詞と行為の時空～』 詞と概念を演奏する (新作・リクリエーション/世界初演)	8月6日(土)	170人
		塩見允枝子パフォーマンス作品 『～音と詞と行為の時空～』 ピアノ×パフォーマンス (新作・リクリエーション/世界初演)	8月6日(土)	166人
	足立智美	音響詩ソロ・パフォーマンス	8月7日(日)	114人
	アピチャップン・ ウィーラセタクン	太陽との対話(VR) (新作/世界初演)	10月4日(火)～ 10日(月・祝)	939人

会場	アーティスト名等	演目	公演日	来場者数
名古屋市芸術創造センター	スティーヴ・ライヒ	スティーヴ・ライヒ～スペシャル・コンサート	7月30日(土)・31日(日)	1,012人
伏見ミリオン座	バック・トゥ・バック・シアター	ODDLANDS/SHADOW ※映画2作品の上映 (日本初上映)	10月8日(土)～10日(月・祝)	261人
計				4,614人

■ アーティスト・団体一覧

	アーティスト名	生/結成年(没年)	活動拠点
1	トラジャル・ハレル	—	ギリシャ/スイス/米国
2	スティーヴ・ライヒ	1936年	米国
3	バック・トゥ・バック・シアター	1991年結成	豪州
4	塩見允枝子*	1938年	日本
5	足立智美*	1972年	ドイツ
6	ジョン・ケージ	1912年(1992年)	米国
7	中村蓉	1988年	日本
8	今井智景	1979年	日本
9	ラビア・ムルエ	1967年	ドイツ
10	アピチャップン・ウィーラセタクン	1970年	タイ
11	百瀬文*	1988年	日本

※現代美術展へも参加

■ PAチャンネル(YouTube)

タイトル	登壇者	公開日
STILL ALIVE-キュレーションコンセプトと見どころ解説	足立智美 今井智景 百瀬文 藤井明子 前田圭蔵 相馬千秋 ＜ビデオメッセージ＞ アピチャップン・ウィーラセタクン 塩見允枝子 スティーヴ・ライヒ	6月10日(金)
トラジャル・ハレルはなぜ土方巽をヴォーギングするのか？	サラ・ヤンセン 相馬千秋	7月11日(月)
ライヒ音楽のアクチュアリティを語る ～ミニマル・ミュージックから彼方へ	中川賢一 有馬純寿 前田圭蔵	7月13日(水)
「言葉」と「音」をキーワードにパフォーマンスを語る ～足立智美、塩見允枝子、ケージ	足立智美 藤井明子	7月13日(水)
振付家／ダンサー中村蓉の作品「ジゼル」を巡って	中村蓉 前田圭蔵	9月1日(木)
パフォーマンス・アート史なんかこわくない	渡辺真也 相馬千秋	9月3日(土)
VRはいかにパフォーマンスの領域を拡張するか？※	アピチャップン・ウィーラセタクン 許家維(シュウ・ジャウエイ) 相馬千秋	10月5日(水)

※愛知芸術文化センター アートスペース A にて開催(参加者数80人)

■ チケット一覧

アーティスト名等・演目	料金	販売開始日
スティーヴ・ライヒ 『スティーヴ・ライヒ～スペシャル・コンサート』	一般: 4,500円 U25: 3,000円	5月21日(土)
ジョン・ケージ 『ユーロペラ3&4』	一般: 3,800円 U25: 2,500円	
トラジャル・ハレル 『シスター あるいは 彼が体を埋めた — Sister or He Buried the Body』	一般: 1,500円 U25: 1,000円 2演目セット券: 3,000円	6月11日(土)
トラジャル・ハレル 『ダンサー・オブ・ザ・イヤー』	一般: 2,000円 U25: 1,500円 2演目セット券: 3,000円	
塩見允枝子 塩見允枝子パフォーマンス作品『～音と詞と行為の時空～』 詞と概念を演奏する ピアノ×パフォーマンス	一般: 2,000円 U25: 1,500円 2演目セット券: 3,000円	
足立智美 『音響詩ソロ・パフォーマンス』	一般: 2,000円 U25: 1,500円	
バック・トゥ・バック・シアター 『ODDLANDS』	現代美術展チケットで入場可	
中村蓉 『ジゼル』	一般: 2,500円 U25: 1,500円	8月4日(木)
今井智景 『シネクドキズム3 by music, photography and visual art』	一般: 2,500円 U25: 1,500円	
ラビア・ムルエ 『表象なんかこわくない』	一般: 3,000円 U25: 2,000円	
アピチャップン・ウィーラセタクン 『太陽との対話(VR)』	一般: 3,000円 U25: 2,000円	
百瀬文 『クローラー』	一般: 2,000円 U25: 1,500円	
バック・トゥ・バック・シアター 『ODDLANDS/SHADOW』	1,500円	

※バック・トゥ・バック・シアター『ODDLANDS』は、6月11日(土)から予約受付開始

※U25は公演日に25歳以下の方を対象にしたチケット(当日要証明書)

※当日券は、一般・U25それぞれ一律500円増

※未就学児入場不可

※ペア割チケットは、同一演目を2名一緒に購入する場合、1枚につき1割引。ただし、当日券及びバック・トゥ・バック・シアター、アピチャップン・ウィーラセタクン、百瀬文の演目は対象外

3 ラーニング

- ・「アートは一部の愛好家のためのものではなく、すべての人がそれぞれのやり方で楽しみ享受するもの」という基本的な考え方に基づき、アートを通じた主体的な学びを目指した活動を展開した。
- ・「リサーチ」「レクチャー」「ガイドツアー」「スクール・プログラム」「ボランティア・プログラム」を5つの柱として、開幕前から開催期間まで継続したプログラムを実施した。
- ・ラーニング・プログラムへの参加費は無料とした。(ラーニングルームの来場者数26,377人)

(1) リサーチ

- ・アーティストが公募による参加者と共に、フィールドワーク、ワークショップ等、グループごとのテーマに沿ってリサーチ・プロジェクトを行い、開催期間中にその成果を展示・発表した。

■ 愛知と世界を知るためのリサーチ

- ・アーティスト等がリーダーとなって、様々な視点で愛知を発見していくプロジェクトを実施し、愛知芸術文化センター8階「ラーニングルーム」でその成果を展示した。

○ Fugu Gakko(河豚学校)

- ・2003年にトルコ沖で不思議にもフグが見つかったことを出発点に、イスタンブールで行なった「河豚学校」(2018年)を愛知においても展開した。フグを起点に問いをたて、環境問題や地政学、人類学、現代美術などさまざまな分野を横断しながら新たな視座を獲得することを目指した。相互に学び合いながら、さまざまな素材やスキルを使って創作し、開催期間中にも展示空間が変化した。

参加アーティスト	Åbäke & LPPL
プロジェクトメンバー	9名

● 開催期間中のイベント

- ・アーティストがリサーチで収集した材料をもとに、展示作品の制作パフォーマンスを行った。

イベント	開催日	参加方法	参加人数
Åbäke & LPPL(Maki Suzuki)パフォーマンス "Fugu Gakko. A school that only teaches about fugu."	9月2日(金)	随時自由参加 (混雑時入場制限あり)	10人

○ ドライブ・レコーダー

- ・近年注目されている運転免許証の《自主返納》という制度に着目し、免許証返納の岐路に立つ当事者の個人的な経験を振り返ることで、現代社会に生きる私たちと自動車との関わりを見つめ直すことを試みた。免許証返納を考えている方などにインタビューを行い、その内容をプロジェクトの成果として開催期間中に展示した。

参加アーティスト	AHA![Archive for Human Activities/人間の営みのためのアーカイブ]
プロジェクトメンバー	サポートメンバー: 4名 インタビュー参加者: のべ62名

● 開催期間中のイベント

- ・アーティストがサポートメンバーとともに、約6か月のプロジェクトのあゆみを振り返るトークイベントを行った。

イベント	開催日	参加方法	参加人数
「ドライブ・レコーダー」 プロジェクト報告会	10月1日(土)	随時自由参加 (混雑時入場制限あり)	17人
	10月9日(日)		25人
計			42人

○ “ほの国”を知るためのプロジェクト

- ・古代から海や河川、陸路の交通を介して東西を結ぶ人・モノ・文化・情報が盛んに行き交う場所だった“ほの国”＝東三河地方でのリサーチを通して、人、文化、モノがダイナミックに行き交っていた海や川に焦点を当てつつ、この地域の気候風土、そこから育まれてきた風景や人々の営みを大きな繋がりで見えていくことで、私たちのルーツやこの世界の在り方を探るプロジェクトを展開した。

参加アーティスト	井上唯
プロジェクトメンバー	7名

● 開幕前のワークショップ

- ・アーティストが、東三河で出会った素材や技術を使ったものづくりのワークショップを行った。
協力：豊橋市美術博物館

ワークショップ	開催日	会場	参加人数
「結びかざりを作ろう」	6月11日(土)	豊橋市民俗資料収蔵室	12人
「切り絵のような“ざげち”を作ろう」	7月2日(土)		7人
計			19人

● 開催期間中のイベント

- ・来場者とアーティスト・参加メンバーが、それぞれに持つ土地や繋がり方にまつわる様々なモノ・資料・情報・技術などを交換し、交流する場を作った。

イベント	開催日	参加方法	参加人数
ほの国“市”	8月20日(土)	随時自由参加 (混雑時入場制限あり)	91人
	8月21日(日)		55人
	9月24日(土)		71人
	9月25日(日)		71人
計			288人

○ MA・RU・GO・TO あいち feat. 三英傑

- ・愛知が生んだ戦国時代の「三英傑」(織田信長、豊臣秀吉、徳川家康)に着目し、研究者に会いに行ったり、フィールドワークに出かけたり、共に考え共に手を動かし実践していく活動を展開し、プロジェクトの成果として巨大壁画を制作した。

参加アーティスト	眞島竜男
プロジェクトメンバー	9名

● 開催期間中のイベント

- ・壁画を描くプロジェクトを立ち上げた背景やコンセプト、制作するためのリサーチのプロセスについて、アーティスト・参加メンバーが振り返るトークやパフォーマンスを実施した。

イベント	開催日	参加方法	参加人数
眞島竜男による『MA・RU・GO・TO あいち feat. 三英傑』プロジェクト報告会	10月1日(土)	随時自由参加 (混雑時入場制限あり)	15人
座談会+パフォーマンス「壁をとび出せ! MA・RU・GO・TO あいち!」	10月10日(月・祝)	随時自由参加 (混雑時入場制限あり)	28人
計			43人

○ 穴あきの風景

- ・私たちのアイデンティティの指標となりえる風景に着目し、移民労働者など多くの在留外国人の方々(ミャンマーの方々)が暮らす地域において、普段は見過ごしてしまう事象に目を向けることで浮かび上がってくる風景をリサーチした。

参加アーティスト	徳重道朗
プロジェクトメンバー	7名

● 開催期間中のイベント

- ・アーティストと参加メンバーによるプロジェクトについての報告や、在愛知ミャンマー人の方をゲストに迎え、日本での暮らしやミャンマーの現状などについてのトークを行った。

イベント	開催日	参加方法	参加人数
「穴あきの風景」トークセッション	9月4日(日)	随時自由参加 (混雑時入場制限あり)	17人
	9月19日(月・祝)		8人
計			25人

○ 猩々大発生

- ・ 愛知県の一地域のお祭りに登場する大人形「猩々」に焦点をあて、猩々とはどのような存在なのかをリサーチし、実際に猩々を制作して開催期間中に展示した。

共催：愛知県児童総合センター

参加アーティスト	山本高之と猩々コレクティブ ※「猩々大発生」に参加するメンバーの総称
プロジェクトメンバー	33名

● 「猩々を作る」

- ・ 自分が住む地域のユニークな風習に触れ、普段はあまり使わない素材や大きさのもの作りに挑戦するため、プロジェクトメンバー等が猩々制作の技術を指導し、県内6つの児童館等で参加した児童と共に猩々制作を行った。

参加児童館等	実施日程	参加人数
愛知県児童総合センター	2月11日(金・祝)・13日(日)・19日(土)・20日(日)、 4月24日(日)・29日(金・祝)、5月1日(日)・3日(火・祝)・4日(水・祝)	115人
名古屋市緑児童館	4月9日(土)、5月5日(木・祝)・21日(土)	44人
名古屋市港児童館	4月24日(日)、5月14日(土)・28日(土)	63人
せとっ子ファミリー交流館	4月30日(土)、5月7日(土)・21日(土)	92人
名古屋市熱田児童館	5月22日(日)・29日(日)、6月12日(日)	37人
名古屋市前津児童館	5月29日(日)、6月12日(日)・26日(日)	36人
計		387人

● 「猩々大行進」

- ・ 愛知県内の児童館等で共に制作した約40体の「猩々」が、アートラボあいちから愛知芸術文化センターまで練り歩いた。

実施日	7月23日(土)
参加人数	62名

● 開催期間中のイベント

- ・ プロジェクトで制作した猩々を実際に被ってみることができる体験イベントを実施した。

イベント	開催日	参加方法	参加人数
猩々体験	8月中の開館日 ／9月以降毎週 土・日・祝日	随時自由参加	460人

●「猩々サミット 2022 秋」

- ・愛知県内のお祭りで実際に活躍している本物の猩々を会場に招待し、ファッションショー形式で紹介した。

イベント	開催日	参加方法	協力団体
猩々サミット 2022 秋	9月17日(土)	随時自由参加 (混雑時入場制限あり)	大高町中之郷祭礼保存会(名古屋市緑区大高町) 笠寺猩々保存会(名古屋市南区笠寺) 上名和祭ばやし保存会(東海市) 北脇祭囃子保存会(東海市) 猩々の会(名古屋市緑区鳴海) 名古屋市南区星崎地区

●「猩々譲渡会」

- ・一般公募により希望した10団体に、プロジェクト内で制作した猩々18体を譲渡した。

○ 監督と学ぶ

- ・「あいち2022」の開催会場である地域を中心に、片岡真実芸術監督が専門家や地域の方々をゲストに迎え、対談形式で歴史・文化・産業など様々な側面から話を伺った動画を、視聴者と一緒に学ぶため、YouTubeや公式Webサイト上で公開・配信した。

タイトル	ゲスト
第1回「一宮が繊維の街になったのはなぜ？」	伊藤正樹(国島株式会社相談役)
第2回「真清田神社のこと、教えてください」	辰守弘(真清田神社宮司) 塚越啓陽(真清田神社神主)
第3回「愛知の焼き物、1200万年」	佐藤一信(愛知県陶磁美術館副館長)
第4回「猩々って何ものですか？」	久野充浩(笠寺猩々保存会会長) 日比野愛(有松天満社文嶺講広報部)
第5回「有松・鳴海絞、これまでとこれから」	佐藤貴広(Enchant(インシエント)革絞りマイスター) 中村淑子(特定非営利活動法人コンソーシアム有松理事長)
第6回「土でつながる、広がる」	小栗康寛(とこなめ陶の森資料館学芸員) 吉川正道(美術陶芸家)

※所属、肩書は2022年3月時点

■ 社会とアートと自分をつなぐプラクティス

○ 勝手に測る、挟まる、抜け出す

- ・ 2022年4月から、10代から20代を対象として、部活のような自主的な活動を通じ、展覧会やアート作品とその周りにある状況を見て、自分で考える術として「表現」を行うプロジェクトを実施した。
- ・ その成果は、愛知芸術文化センター10階「プラスキューブ」で展示した。

参加アーティスト	うらあやか+小山友也
プロジェクトメンバー	13名

● 開催期間中のプログラム「勝手に RADIO」

- ・ アーティストと参加メンバーが、自ら企画したプログラムをプラスキューブからオンラインで配信した。

タイトル	ゲスト	配信日
Day1_勝手にRADIOについて、プロジェクトについて	山本高之	7月30日(土)
Day2_これまでやってきたこと／芸術祭のファーストインプレッション	—	8月6日(土)
Day3_地域に挟まる芸術祭	飯田志保子、山本高之	8月13日(土)
Day4_アイデンティティのメドレー	ミルク倉庫+ココナッツ、山本高之	8月20日(土)
Day5_人格の揺らぎの周りで起きること	奥村雄樹	8月27日(土)
Day6_クィアの赤ちゃん	百瀬文	9月3日(土)
Day7_Nest Mates	AKI INOMATA、岩下徹	9月10日(土)
Day8_自分の領域 / My side of Nest Mates / 言葉がシェルターになるとき	遠藤薫、和合亮一	9月17日(土)
Day9_どうにもならないままでいけ	黒田大スケ、潘逸舟、片岡真実	9月24日(土)
Day10_いま、ここ、あなたとわたし	宮田明日鹿、 「あいち2022」ボランティア	10月1日(土)
Day11_まとまらないしまとめない	迎英里子、 余政達(ユ・チェンタ)(西瓜姉妹)、 山本高之と猩々コレクティブ、 中村史子	10月8日(土)

(2) レクチャー

- ・「愛知」や「美術史」、「芸術祭」について考えるレクチャーシリーズを、開幕前からオンラインで配信した。
- ・「あいち2022」の芸術監督、アドバイザー、キュレーターや参加アーティストによるトークイベントを実施した。
- ・「あいち2022」公式Webサイトにアーカイブ動画を掲載し、多くの方がオンラインで視聴できるようにした。

■ プレ・ラーニングプログラム(開幕前)

○ アーティストによる美術史講座

- ・国際的に活躍するアーティストの視点から「美術史」を読み解いていくレクチャーを、オンラインで実施した。(事前申込制)

開催日	ゲスト	参加人数
2021年10月2日(土)	眞島竜男(現代美術家)	37人
2021年12月12日(日)	岡田裕子(現代美術家)	31人
2022年1月30日(日)	相馬千秋(「あいち2022」キュレーター(パフォーミングアーツ))	58人
2022年4月17日(日)	森村泰昌(美術家)	72人
計		198人

○ 「芸術祭」をひも解く: 近代化と万博ーオリンピックー芸術祭

- ・「芸術祭」の変遷にもつながる万博やオリンピックなど、近代化における大規模な国際的イベントを概観していくことで、「芸術祭」を歴史的、批評的に捉えるためのプログラムを、オンラインで実施した。(事前申込制)

開催日	ゲスト	参加人数
2021年8月22日(日)※	吉見俊哉(社会学者・東京大学大学院情報学環教授)	11人
2021年11月7日(日)	辻田真佐憲(評論家・近現代史研究者)	72人
2022年1月15日(土)	アイゼア・バルセニーラ(キュレーター・批評家)	63人
計		146人

※対面で開催した「サマー・スクール」のプログラムとして実施

■ オンゴーイングプログラム(開催期間中)

○ knowing me, knowing you

世界のアートの知の技法: オルタナティブなアートスクール/ラーニング・プログラムのリサーチ

- ・アートを通じた学びのあり方への理解を深めるために、国内外の先進的かつオルタナティブなアートスクールやラーニング・プログラムに携わる方によるレクチャーを実施した。(事前申込制・先着順)

開催日	ゲスト	参加人数
9月18日(日)	小澤慶介(インディペンデント・キュレーター、一般社団法人アート代表理事)	9人
9月25日(日)	稲垣立男(コンテンポラリーアーティスト、法政大学国際文化学部教授、桜美林大学芸術文化学部群講師)	10人
10月2日(日)	杉田敦(美術批評家、art & river bankディレクター、女子美術大学教授)	12人
10月8日(土)	フランク・ラガーノ(Parallel Studios/CURRENTS New Mediaエグゼクティブ・ディレクター)	ゲストの都合により中止
計		31人

○ STILL ALIVE キュレトリアル・ラウンドテーブル(再掲)

開催日	登壇者	参加人数
7月31日(日)	片岡真実、ラーナ・デヴェンポート、マーティン・ゲルマン、トビアス・オストランダー、島袋道浩、飯田志保子、中村史子、堤拓也、藤井明子、前田圭蔵、相馬千秋、会田大也、山本高之	100人

○ トークセッション「河原温とは誰か？」(再掲)

開催日	登壇者	参加人数
7月31日(日)	平出隆、南雄介、能勢陽子、ジョナサン・ワトキンス、吉岡令人 モデレーター: 片岡真実(「あいち2022」芸術監督)	99人

○ アーティストトーク(再掲)

開催日	登壇者	実施場所	参加者数
9月3日(土)・4日(日)、10月8日(土)～10日(月・祝)	服部文祥(「あいち2022」参加アーティスト)	旧丸利陶管	—
9月11日(日)	石川竜一(「あいち2022」参加アーティスト)	旧丸利陶管	—
10月2日(日)	奥村雄樹(「あいち2022」参加アーティスト) 中村史子(「あいち2022」キュレーター(現代美術))	オンライン	—
10月8日(土)	余政達(ユ・チェンタ) from 西瓜姉妹(ウォーターメロン・シスターズ) (「あいち2022」参加アーティスト) 進行: 堤拓也(「あいち2022」キュレーター(現代美術))	一宮市本町商店街	80人
10月8日(土)	AKI INOMATA(「あいち2022」参加アーティスト)	岡家住宅	40人
10月10日(月・祝)	ローリー・アンダーソン(「あいち2022」参加アーティスト) 片岡真実(「あいち2022」芸術監督) 前田圭蔵(「あいち2022」パフォーミングアーツ・アドバイザー)	愛知芸術文化センター12階 アートスペースA	67人
10月10日(月・祝)	許家維(シュウ・ジャウエイ)(「あいち2022」参加アーティスト) 芦澤忠(INAXライブミュージアム「やきもの工房」技術研究員) 進行: 鈴木一絵(「あいち2022」コーディネーター)	INAX ライブミュージアム	35人
10月10日(月・祝)	黒田大スケ(「あいち2022」参加アーティスト) 芦澤忠(INAXライブミュージアム「やきもの工房」技術研究員) 進行: 堤拓也(「あいち2022」キュレーター(現代美術))	INAX ライブミュージアム	70人
計			292人

(3) ガイドツアー

■ ボランティアによるガイドツアー

- ・ 一般来場者を対象に、ガイドツアーボランティアが2～3人体制で、1回あたり60分程度の対話式の作品鑑賞ツアーを行った。(事前申込不要)
- ・ アート鑑賞は必ずしも「作者の意図を当てる」ことではないと参加者に伝え、作品を通じて世界の多様さを味わってもらうことを目的とした。
- ・ 活動するボランティア自身も、本事業を通して来場者と対話をしながら作品の世界を味わうとともに、作品を通じて世界の見方を知る方法論を学んだ。

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター10階	金曜日(各1回)、土・日・祝日(各2回)	423人
愛知芸術文化センター8階	金曜日(各1回)、土・日・祝日(各2回)	427人
一宮市	土・日・祝日(各2回)	228人
常滑市	土・日・祝日(各2回)	206人
有松地区(名古屋市)	土・日・祝日(各2回)	229人
計		1,513人

■ 赤ちゃんとその保護者を対象とした「ベビーカーツアー」

- ・ 18か月までの子どもと保護者を対象に、キュレーターのガイドにより、一緒にゆったりと作品を鑑賞できるツアーを行った。(要申込、定員各回5組)

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	8月27日(土)	12人(4組)
	9月10日(土)	7人(2組)
	9月23日(金・祝)	18人(5組)
計		37人(11組)

■ 視覚障害者を対象とした「みえない・みえづらい方のためのツアー」

- ・ 視覚に障害のある方を対象に、「ことば」による作品鑑賞の楽しさを体験することを目的とし、「対話型鑑賞」の方法論を用いたツアーを実施した。ツアーの企画・運営はガイドツアーボランティアが中心となって行った。(要申込、定員20名)

協力: 社会福祉法人名古屋ライトハウス 情報文化センター

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	9月25日(日)(2回開催)	21人※

※介助者を含む

■ 聴覚障害者を対象とした「筆談ツアー」

- ・ 聴覚に障害のある方を対象に、ガイドツアーボランティアの要約筆記による「対話型鑑賞」の方法論を用いたツアーを実施した。ツアーの企画・運営はガイドツアーボランティアが中心となっていた。(要申込、定員各回20名)

協力：NPO法人愛知県難聴・中途失聴者協会

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	9月14日(水)	10人
	9月19日(月・祝)	2人
計		12人

■ 「日本語以外が母語(Native Language)の人のためのツアー」

- ・ 日本語以外を母語とする方を対象に、ガイドツアーボランティアによるツアーを実施した。(要申込)

会場	開催日	言語	参加人数
愛知芸術文化センター	9月3日(土)	英語・スペイン語	7人
	9月17日(土)	英語・スペイン語・フランス語	16人
	10月1日(土)	英語	7人
計			30人

(4) スクール・プログラム

- ・芸術祭と学校現場をつなぐため、児童・生徒向けのプログラムや、教育関係者向けのワークショップを行った。(参加者数合計2,734人)

■ 学校向け団体鑑賞プログラム

- ・授業、校外学習など様々な学校行事を活用して、児童・生徒たちが世界各国のアーティストによる現代アート作品に触れ、世界と自分を知る機会となるように、対話型鑑賞を導入した学校向け団体鑑賞プログラムを実施した。
- ・県内各地域から幅広く申込があり、合わせて17校、784人(引率者数含む)が参加した。
- ・愛知芸術文化センターのほか、一宮及び常滑会場においても市内の小中学校を対象に鑑賞プログラムを実施した。

○ 愛知芸術文化センター

実施日	8月16日(火)～10月7日(金)の土・日・祝日及び休館日を除く毎日、10月8日(土)
定員	90名(90名を超える希望がある場合は要相談)
鑑賞方法	・自由鑑賞 ・ガイドツアー(ガイドツアーボランティアとともにグループで対話をしながら作品鑑賞をする)
参加費	無料(引率の教員等を含む)

● 実績(学校数)

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	外国人学校	計
3校 (17.6%)	3校 (17.6%)	5校 (29.4%)	3校 (17.6%)	2校 (11.8%)	1校 (5.9%)	17校 (100.0%)

● 実績(人数) ※引率者数含む

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	外国人学校	計
220人 (28.1%)	77人 (9.8%)	198人 (25.3%)	207人 (26.4%)	19人 (2.4%)	63人 (8.0%)	784人 (100.0%)

● 実績(地域別・学校数)

名古屋	尾張	海部	知多	西三河	東三河	県内計	県外	計
8校	4校	0校	2校	2校	1校	17校	0校	17校

※台風により中止した1校を含む

○ 一宮市

- ・ 授業や部活動の一環として、一宮会場の作品の鑑賞事業を行った。

学校名	日程	参加人数
一宮市立北部中学校(美術部)	8月18日(木)	19人
一宮市立大志小学校	9月2日(金)	258人
計		277人

○ 常滑市

- ・ 学校行事の一環として、常滑市内の全4中学校及び希望のあった小学校を対象に常滑会場の作品の鑑賞事業を行った。

学校名	日程	参加人数
常滑市立常滑中学校	8月19日(金)	241人
常滑市立鬼崎北小学校	9月6日(火)	74人
常滑市立南陵中学校	9月9日(金)	78人
常滑市立鬼崎中学校	9月9日(金)	198人
常滑市立青海中学校	9月15日(木)	64人
計		655人



愛知芸術文化センターでのガイドツアーの様子

Photos: ToLoLo studio



一宮会場での鑑賞の様子

■ 芸術監督による母校訪問

- ・ 片岡真実芸術監督の出身校である一宮市立南部中学校を訪問し、芸術祭に関することや、後輩へのメッセージなどを講演した。

学校名	一宮市立南部中学校
日程	9月12日(月)
参加学年	1～3年生(全校生徒)
参加人数	生徒921人、教職員69人、保護者7人 計997人



芸術監督による講演の様子



生徒からの質疑応答の様子

■ サマー・スクール

- ・ 「アクティブ・ラーニング」を「アート」を通じて体験し、今後の教育活動の参考としてもらうことを目的に、愛知県内の教育関係者等を対象とした2日間のワークショップを実施した。

日程	会場	参加人数
2021年8月21日(土)・22日(日)	アトラボあいち	11人
2022年8月27日(土)・28日(日)	愛知芸術文化センター8階 ラーニングルーム	10人



Photo: ToLoLo studio

会場の様子

(5) ボランティア・プログラム

- ・ 会場運営(来場者の案内・誘導等)、鑑賞サポート(会場での対話型鑑賞の手法を用いた来場者の鑑賞サポート)などを多くのボランティアに担ってもらい、「あいち2022」を盛り上げていただいた。
- ・ ガイドツアーボランティアについては、オンラインテスト及び対話型鑑賞ファシリテートのロールプレイングによる選考を行った。
- ・ ボランティア登録者には「あいち2022」の概要に関する研修を実施したほか、対話型鑑賞ボランティア及びガイドツアーボランティア登録者については、対話型鑑賞の方法論に関する研修を実施した。

○ ボランティアの登録者数

第一希望 活動区分	活動内容	登録者数(人)				
		愛知芸術 文化センター	一宮	常滑	有松	計
会場運営 ボランティア	来場者の案内・ 誘導等	235 (23.9%)	77 (7.8%)	57 (5.8%)	96 (9.8%)	465 (47.3%)
対話型鑑賞 ボランティア	対話型による作品 鑑賞	131 (13.3%)	37 (3.8%)	15 (1.5%)	38 (3.9%)	221 (22.5%)
ガイドツアー ボランティア	対話型による 鑑賞ツアー	43 (4.4%)	6 (0.6%)	3 (0.3%)	8 (0.8%)	60 (6.1%)
未回答		130 (13.2%)	36 (3.7%)	40 (4.1%)	31 (3.2%)	237 (24.1%)
計		539 (54.8%)	156 (15.9%)	115 (11.7%)	173 (17.6%)	983 (100.0%)

○ ボランティアの活動実績

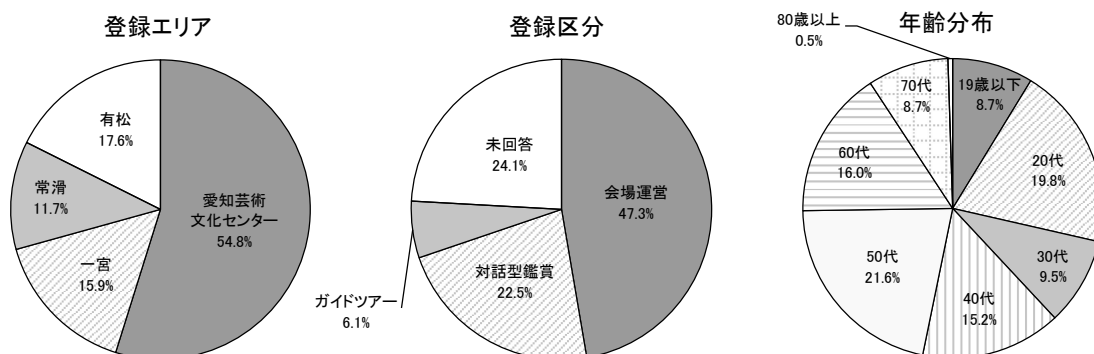
活動区分	活動内容	延べ活動回数(回)				
		愛知芸術 文化センター	一宮	常滑	有松	計
会場運営 ボランティア	来場者の案内・ 誘導等	823 (23.9%)	403 (11.7%)	457 (13.3%)	242 (7.0%)	1,925 (55.9%)
対話型鑑賞 ボランティア	対話型による作品 鑑賞	422 (12.3%)	271 (7.9%)	163 (4.7%)	198 (5.8%)	1,054 (30.6%)
ガイドツアー ボランティア	対話型による 鑑賞ツアー	284 (8.2%)	38 (1.1%)	68 (2.0%)	74 (2.1%)	464 (13.5%)
計		1,529 (44.4%)	712 (20.7%)	688 (20.0%)	514 (14.9%)	3,443 (100.0%)

※実活動者数(登録者のうち1回以上活動実績のある者):667人

※パフォーミングアーツ補助:101人

○ 登録者の年齢分布

区分	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	計
人数	86	195	93	149	212	157	86	5	983
割合	8.7%	19.8%	9.5%	15.2%	21.6%	16.0%	8.7%	0.5%	100.0%



○ 研修

行事名		開催日	会場
全体研修 (必須)	第1回 ^{※1}	3月18日(金)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		3月19日(土)	【一宮】一宮スポーツ文化センター 小ホール
		3月20日(日)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室 【常滑】常滑市中央公民館 視聴覚室
	第2回 ^{※1}	6月17日(金)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		6月18日(土)	【一宮】一宮スポーツ文化センター 小ホール
		6月19日(日)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室 【常滑】常滑市中央公民館 視聴覚室
	第3回	7月15日(金) ^{※2}	【名古屋】愛知芸術文化センター アートスペース A
		7月16日(土)	【名古屋】愛知芸術文化センター アートスペース A 【一宮】一宮スポーツ文化センター 小ホール
		7月17日(日) ^{※2}	【常滑】常滑市中央公民館 視聴覚室

※1 第1回、第2回については、研修内容をオンラインで配信

※2 1日2回開催

行事名	開催日	会場	
選択研修 (ガイドツアーボランティアは原則受講、 対話型鑑賞ボランティアは可能な限り 受講)	第1回	4月8日(金)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室 【名古屋】アートラボあいち
		4月9日(土)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		4月10日(日)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	第2回	4月22日(金)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室 【名古屋】アートラボあいち
		4月23日(土)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		4月24日(日)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	第3回	5月13日(金)	【名古屋】愛知芸術文化センター アートスペース A 【名古屋】アートラボあいち
		5月14日(土)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		5月15日(日)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	第4回	5月27日(金)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室 【名古屋】アートラボあいち
		5月28日(土)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		5月29日(日)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
	第5回	6月10日(金)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室 【名古屋】アートラボあいち
		6月11日(土)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		6月12日(日)*	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
ガイドツアーボランティア 専門研修	7月3日(日)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室	
	7月10日(日)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室	
	7月24日(日)	【名古屋】愛知県図書館 大会議室	
	8月14日(日)	【名古屋】愛知芸術文化センター アートスペース A	

※1日2回開催

(6) その他

■ インターミッショントーク

- ・ 芸術祭を訪れた人々が、芸術祭をめぐるさまざまな「問いかけ」を眺めることで他の来場者の鑑賞体験に触れ、また自分の鑑賞体験を言葉にしてワークシートに記入することで、その問いに「応答」することができるプログラムを実施した。会期中に生まれた対話は、会場内でアーカイブとして閲覧できるようにした。

会場	愛知芸術文化センター8階 ラーニングルーム
実施期間	7月30日(土)～10月10日(月・祝)
対象	どなたでも
回答者数	486人

4 オンライン展開

- ・ラーニング・プログラムとして2021年から実施してきた片岡真実芸術監督による動画シリーズや、「愛知」や「美術史」、「芸術祭」について考えるレクチャーシリーズに加え、パフォーミングアーツ公演に関するトーク、現代美術展参加アーティストやキュレーターによるトークやディスカッションなどをYouTubeや公式Webサイト上で公開・配信した。

(1) リサーチ

■ 愛知と世界を知るためのリサーチ『監督と学ぶ』

- ・「あいち2022」の開催会場である地域を中心に、片岡真実芸術監督が専門家や地域の方々をゲストに迎え、対談形式で歴史・文化・産業など様々な側面から話を伺った動画を、YouTubeや公式Webサイト上で公開・配信した。

タイトル	ゲスト	公開日
第1回「一宮が繊維の街になったのはなぜ？」	伊藤正樹(国島株式会社相談役)	2021年8月23日(月)
第2回「真清田神社のこと、教えてください」	辰守弘(真清田神社宮司) 塚越啓陽(真清田神社神主)	2021年10月28日(木)
第3回「愛知の焼き物、1200万年」	佐藤一信(愛知県陶磁美術館副館長)	2021年12月15日(水)
第4回「狸々って何ものですか？」	久野充浩(笠寺狸々保存会会長) 日比野愛(有松天満社文嶺講 広報部)	2022年2月10日(木)
第5回「有松・鳴海絞、これまでとこれから」	佐藤貴広(Enchant(インシエント) 革絞リマイスター) 中村倅子(特定非営利活動法人 コンソーシアム有松理事長)	2022年2月10日(木)
第6回「土でつながる、広がる」	小栗康寛(とこなめ陶の森資料館 学芸員) 吉川正道(美術陶芸家)	2022年5月31日(火)

※配信方法はYouTube(以下同じ)

※所属、肩書は2022年3月時点

(2) レクチャー

■ アーティストによる美術史講座

- ・ 国際的に活躍するアーティストの視点から「美術史」を読み解いていくレクチャーをオンラインで実施し、後日、動画を公開した。

タイトル	ゲスト	公開日
第1回「アーティストによる美術史講座1 眞島竜男編」	眞島竜男	4月21日(木)
第2回「アーティストによる美術史講座2 岡田裕子編」	岡田裕子	7月22日(金)
第3回「アーティストによる美術史講座 番外編(第3回)相馬千秋編」	相馬千秋	7月27日(水)
第4回「アーティストによる美術史講座4 森村泰昌編」	森村泰昌	7月22日(金)

※公開日は2022年(以下同じ)

■ 「芸術祭」をひも解く: 近代化と万博-オリンピック-芸術祭

- ・ 「芸術祭」の変遷にもつながる万博やオリンピックなど、近代化における大規模な国際的イベントを概観していくことで、「芸術祭」を歴史的、批評的に捉えるためのプログラムをオンラインで実施し、後日、動画を公開した。

タイトル	ゲスト	公開日
「芸術祭」をひも解く1	吉見俊哉	2月18日(金)
「芸術祭」をひも解く2	辻田真佐憲	1月24日(月)
「芸術祭」をひも解く3	アイゼア・バルセニーラ	8月5日(金)

■ knowing me, knowing you

世界のアートを知るの技法: オルタナティブなアートスクール/ラーニング・プログラムのリサーチ

- ・ アートを通じた学びのあり方への理解を深めるために、国内外の先進的かつオルタナティブなアートスクールやラーニング・プログラムに携わる方によるレクチャーを実施し、後日動画を公開した。

タイトル	ゲスト	公開日
knowing me, knowing you 稲垣立男編	稲垣立男	10月1日(土)
knowing me, knowing you 小澤慶介編	小澤慶介	10月4日(火)
knowing me, knowing you 杉田敦編	杉田敦	11月8日(火)

(3) プレイベント・トークイベント

■ プレイベント

- 「あいち2022」開幕直前の2022年5月～6月、プレイベントとして主な会場（愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区（名古屋市））において計4回のトークイベントを開催。片岡芸術監督やキュレーター、参加アーティストが登壇して「あいち2022」について紹介するとともに、「STILL ALIVE」というテーマやあいちの歴史・文化、作品への思いなどを語り、その記録映像をオンラインでも公開した。

タイトル	登壇者	公開日
「あいち2022」プレイベント 「STILL ALIVE: あいちの土地と繊維」	眞田岳彦 片岡真実	9月26日（月）
「あいち2022」プレイベント 「「STILL ALIVE」とあいち」	大泉和文 横野明日香 片岡真実 飯田志保子 中村史子 拝戸雅彦	10月7日（金）
「あいち2022」プレイベント 「彫刻・ゲニウス・ロキ」	黒田大スケ 堤拓也	10月9日（日）
「あいち2022」プレイベント 「宮田明日鹿さんに聞く「STILL ALIVE」と「手芸」」	宮田明日鹿 飯田志保子	10月28日（金）

■ トークイベント

- 「あいち2022」のテーマ「STILL ALIVE」のことや現在の世界における芸術祭について議論したり、「あいち2022」の芸術祭の出発点ともなったアーティスト、河原温の表現及び彼がもたらした芸術の潮流について、さまざまな角度から探るセッションなどを実施して、オンラインで公開した。

タイトル	登壇者	公開日
STILL ALIVE キュレトリアル・ラウンドテーブル	片岡真実 ラーナ・デヴェンポート マーティン・ゲルマン トビアス・オストランダー 島袋道浩 飯田志保子	9月10日（土）
STILL ALIVE Curatorial Roundtable	中村史子 堤拓也 藤井明子 前田圭蔵 相馬千秋 会田大也 山本高之	
ローリー・アンダーソン アーティストトーク	ローリー・アンダーソン 片岡真実 前田圭蔵	11月15日（火）

(4) アーティストトーク

- 参加アーティストが出展作品の見どころや、各アーティストの考える「STILL ALIVE」、「あいち2022」の感想などを、それぞれの作品の前でカジュアルに語る様子をオンラインで配信した。

ゲスト	タイトル	公開日
小杉大介	アーティストトーク#1 小杉大介	9月1日(木)
リリアナ・アングロ・コルテス	アーティストトーク#2 リリアナ・アングロ・コルテス	9月10日(土)
クラウディア・デル・リオ	アーティストトーク#3 クラウディア・デル・リオ	9月17日(土)
ミット・ジャイン	アーティストトーク#4 ミット・ジャイン	9月25日(日)
アンドレ・コマツ	アーティストトーク#5 アンドレ・コマツ	9月27日(火)
フロレンシア・サディール	アーティストトーク#6 フロレンシア・サディール	10月1日(土)
ニーカウ・ヘンディン	アーティストトーク#7 ニーカウ・ヘンディン	10月4日(火)
ティエリー・ウッス	アーティストトーク#8 ティエリー・ウッス	10月7日(金)
シアスター・ゲイツ	アーティストトーク#9 シアスター・ゲイツ	10月7日(金)
グレンダ・レオン	アーティストトーク#10 グレンダ・レオン	10月8日(土)
リタ・ボンセ・デ・レオン	アーティストトーク#11 リタ・ボンセ・デ・レオン	10月25日(火)
イワニ・スケース	アーティストトーク#12 イワニ・スケース	10月25日(火)

(5) パフォーマンス

- 各会場などで行われたパフォーマンスをオンラインで配信した。

出演者	タイトル	公開日
野村誠 足立智美	グレンダ・レオン《野村誠出演・パフォーマンス記録映像》(特別出演 足立智美)	8月26日(金)
笹本晃	笹本晃《リスの手法：境界線の幅》パフォーマンス記録映像	9月14日(水)

(6) PAチャンネル(再掲)

- 現代美術の文脈で語られてきたパフォーマンス・アートにも注目し、パフォーマンス・アートをより横断的に楽しむためのレクチャーやトークなどをオンラインで配信した。

タイトル	登壇者	公開日
STILL ALIVE-キュレーションコンセプトと見どころ解説	足立智美 今井智景 百瀬文 藤井明子 前田圭蔵 相馬千秋 〈ビデオメッセージ〉 アピチャップン・ウィーラセタクン 塩見允枝子 スティーヴ・ライヒ	6月10日(金)
トラジャル・ハレルはなぜ土方巽をヴォーギングするのか？	サラ・ヤンセン 相馬千秋	7月11日(月)
ライヒ音楽のアクチュアリティを語る ～ミニマル・ミュージックから彼方へ	中川賢一 有馬純寿 前田圭蔵	7月13日(水)
「言葉」と「音」をキーワードにパフォーマンスを語る ～足立智美、塩見允枝子、ケージ	足立智美 藤井明子	7月13日(水)
振付家／ダンサー中村蓉の作品「ジゼル」を巡って	中村蓉 前田圭蔵	9月1日(木)
パフォーマンス・アート史なんかこわくない	渡辺真也 相馬千秋	9月3日(土)
VRはいかにパフォーマンスの領域を拡張するか？	アピチャップン・ウィーラセタクン 許家維(シュウ・ジャウエイ) 相馬千秋	10月5日(水)

5 連携事業

(1) 「あいち2022」ポップ・アップ！

- ・ 9月に、「あいち2022」の現代美術展参加アーティスト82組のうち11組の作品を巡回展示した。作品展示に併せ、週末にはワークショップや作品ガイドツアーなども開催した。(入場無料)
- ・ 現代美術展本展で展示される作品とは異なる作品を主に展示した。

■ 出品アーティスト

現代美術	遠藤薫、小杉大介、黒田大スケ、升山和明、尾花賢一、カズ・オオシロ、塩田千春、和合亮一、渡辺篤(アイムヒア プロジェクト)、イー・イラン、横野明日香
------	---

■ 開催地及び日程

開催市町	会場	日程	日数	来場者数
長久手市	長久手市文化の家	9月2日(金)～4日(日)	3日	922人
蒲郡市	蒲郡市生命の海科学館	9月7日(水)～12日(月)	6日	976人
半田市	旧中埜半六邸、半田市役所	9月16日(金)～19日(月・祝)	4日	443人
西尾市	西尾市文化会館	9月23日(金・祝)～25日(日)	3日	690人
計				3,031人

■ ワークショップ with アーティスト

開催市町	タイトル	開催日	参加者数
長久手市	和合亮一「#愛の礫: STILL ALIVE(いまだ生きている)からはじまる言葉」	9月4日(日)	19組
蒲郡市	黒田大スケ「心霊わしづかみ！ 幽霊写真術」(第1回)	9月10日(土)	7組
半田市	台風の影響のため延期し、西尾市文化会館で実施	—	—
西尾市	黒田大スケ「心霊わしづかみ！ 幽霊写真術」(第2回)	9月23日(金・祝)	5組
	尾花賢一「マスクをアップデート～デコレーションマスク！！」	9月24日(土)	6組
計			37組

■ 主催

- ・ 国際芸術祭「あいち」組織委員会／(長久手市会場)長久手市／(蒲郡市会場)蒲郡市／(半田市会場)半田市／(西尾市会場)西尾市



Photo: ToLoLo studio

長久手市での展示風景



Photo: あい撮りカメラ部

西尾市でのワークショップ

(2) 円頓寺商店街・円頓寺本町商店街連携事業

- ・名古屋駅と名古屋城のほぼ中間に位置し、下町情緒を残す「円頓寺商店街」「円頓寺本町商店街」のアーケードにて、有松地区で展示を行ったミット・ジャインの作品を展示した。
(8月10日(水)から10月10日(月・祝)まで)
- ・関連イベントとして、両商店街周辺において、名古屋造形大学等の協力の下、多様な出演アーティストによる音楽イベント「STILLING ALIVE MUSIC CLUB」(企画・演出:鷺尾友公)を開催した。(10月8日(土)から10日(月・祝)まで)

(3) 芸術大学連携プロジェクト

- ・「あいち2022」の会期中に、地元芸術大学(愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学、名古屋学芸大学)と連携したプロジェクトを「アートラボあいち」で開催した。
- ・「アートラボあいちと四芸大による連続個展」では、愛知県内4つの芸術大学とアートラボあいちがプロジェクトチームを組み、各大学を卒業・修了後10年以内の今後の活躍が期待されるアーティストを1名ずつ選出し、「あいち2022」に合わせて4つの個展を連続で開催した。
- ・「アートマネジメントアカデミー」では、展覧会の企画運営を実践的に学ぶ約1年間の人材育成プログラムを開催した。実践内容に即したゼミを開講することで、現場で必要なスキルを学び、また、定期的に読書会を設け、現代美術等に関する知見を補強した。さらに、アーティストへのインタビューや、「あいち2022」のレビュー作成などにも取り組んだ。

■ アートラボあいちと四芸大による連続個展

アーティスト	タイトル	会期
スズキアヤノ	「SPRING&SUMMER COLLECTION」	7月30日(土)～8月14日(日)
大野未来	「片隅で○になる」	8月20日(土)～9月4日(日)
山田憲子	「うみになる」	9月10日(土)～9月25日(日)
杉谷遊人	「語源は話す、いくつかの方法」	10月1日(土)～10月16日(日)

プロジェクトチームメンバー	
アートラボあいち	服部浩之(ディレクター) 近藤令子、半澤奈波(コーディネーター) 岡本涼伽、小川愛、城所豊美(スタッフ)
愛知県立芸術大学 名古屋芸術大学 名古屋造形大学 名古屋学芸大学	猪狩雅則 松村淳子 佐藤克久 伏木啓、村上将城

アーティストトーク

登壇者

スズキアヤノ、猪狩雅則(愛知県立芸術大学美術科油画専攻准教授)
 大野未来、拝戸雅彦(愛知県美術館館長)
 山田憲子、中村史子(「あいち2022」キュレーター(現代美術))
 杉谷遊人、沢山遼(美術批評家)、千葉真智子(豊田市美術館学芸員)



アートラボあいちと四芸大による連続個展

Photos: 谷澤陽佑 (Tanizawa Yosuke)

■ アートマネジメントアカデミー

講師	アーティスト・インタビュー
服部浩之(アートラボあいちディレクター) 塩津青夏(「あいち2022」プロジェクト・マネージャー)	スズキアヤノ 大野未来 山田憲子 杉谷遊人

(4) 舞台芸術公募プログラム

- ・ 企画公募により選考された7組の地元文化芸術団体と共催で、舞台公演を行った。
(応募数:12の団体・個人)
- ・ 音楽・舞踊・演劇など多彩なジャンルの公演を行い、7演目8公演で2,093人の来場者があった。

■ 公演一覧

会場	主催者名	分野	演目	公演日	来場者数
ル ホト サ 愛知県芸術劇場 小ホ	名古屋音楽大学	合唱と オーケストラ	Concentus Musicus Meion 第1回コンサート『Gloria～グローリア～』	9月24日(土)	525人
	名古屋市民バンド フェスティバル実行 委員会	吹奏楽	第8回名古屋市民バンドフェスティバル 時空を超えた音楽の世界へ ～多世代参加型大合奏の挑戦～	9月25日(日)	962人
	試験管ペビー	演劇	試験管ペビー extra capsule 『命かけたり、かけなかったり』 ～菅原伝授手習鑑より寺子屋と 紀伊國屋文左衛門、宝の入船～	8月23日(火)	129人
	PlaTEdgE (プラテッジ)	コンテンポ ラリーダンス	M・A・C・H・I	8月24日(水)	147人
	人形劇団むすび座	人形劇	一人人形芝居 洞熊学校を卒業した三人	8月25日(木)	85人
	ニンフェアール	現代音楽 (クラシック)	ニンフェアール第17回公演『クセナ キス生誕100周年記念:究極の弦』	9月26日(月)	82人
	ラストラーダカンパニー	道化×音楽	らふいゆれふいゆ	9月27日(火)	163人
計					2,093人

STILL ALIVE
国際芸術祭
あいち2022
舞台芸術公募プログラム



舞台芸術公募プログラムロゴマーク

(5) 連携企画事業

- ・「あいち2022」と同時期に愛知県内で開催される、芸術祭のテーマや企画等と連携した内容で実施される事業を「連携企画事業」とし、相互に広報展開を図った。(一部は相互割引も実施)

■ 事業一覧

○ 愛知県関係事業

主催	事業名	期間
愛知県陶磁美術館、中日新聞社	特別展「ホモ・ファーベルの断片—人ともものづくりの未来—」	7月16日(土)～10月2日(日)
愛知県児童総合センター (公益財団法人愛知公園協会)	夏季特別企画「あなた・わたし・みんな」	7月23日(土)～8月31日(水)
愛知県障害者芸術活動参加 促進事業実行委員会	あいちアール・ブリュット・サテライト展 ～国際芸術祭連携企画展～	7月26日(火)～8月5日(金)
	あいちアール・ブリュット障害者アーツ展 (作品展「あいちアール・ブリュット展」)	9月15日(木)～19日(月・祝)
	あいちアール・ブリュット障害者アーツ展 (舞台企画)	9月15日(木)～17日(土)
愛知県美術館	第26回アートフィルム・フェスティバル	8月23日(火)、 8月26日(金)～9月13日(火)
公益財団法人あいち男女共同 参画財団、 あいち国際女性映画祭2022 運営委員会	あいち国際女性映画祭2022	9月8日(木)～11日(日)

STILL ALIVE
国際芸術祭
あいち2022
連携企画事業



連携企画事業ロゴマーク

○ 会場周辺事業

会場	主催	事業名	期間
一宮市	一宮市博物館	国登録文化財 葛利毛織工業工場と のこぎり屋根	7月16日(土)～8月14日(日)
	一宮市三岸節子記念美術館	絵本原画ニャー！猫が歩く絵本の世界	7月30日(土)～10月10日(月・祝)
	一宮市尾西歴史民俗 資料館	国際芸術祭会場のまちの歴史と文化 ～一宮市・常滑市・名古屋市有松～	7月30日(土)～10月10日(月・祝)
		木曾川アートのライアングル 交錯する アートー日々の景色から見えるものー	7月30日(土)～10月10日(月・祝)
		学校 de アート	8月2日(火)～9月11日(日)
常滑市	INAXライブミュージアム	タイル名称統一100周年記念 巡回 企画展「日本のタイル100年ー美と用 のあゆみ」	4月9日(土)～8月30日(火)
	とこなめ陶の森	陶芸研究所が伝える堀口捨己と常滑焼	7月30日(土)～10月10日(月・祝)
		常滑の装飾タイル	7月30日(土)～10月30日(日)
	在日スイス大使館等	Kizuki-au 築き合う ー Collaborative Constructions	7月30日(土)～10月10日(月・祝)
有松地区	KONMASA	ON KAWARA -I GOT UP-	7月29日(金)～8月9日(火)
		早川嘉英 STILL ALIVE in ARIMATSU	8月11日(木・祝)～10月10日(月・祝)
	特定非営利活動法人 コンソーシアム有松	「絞」・「瓦」灯りストリート in 有松2022	9月3日(土)～10月2日(日)

○ その他の地域事業

主催	事業名	期間
長者町スクール・オブ・アーツ	ART FARMing TV	4月～10月
豊田市美術館	コレクション展 色、いろいろ	6月7日(火)～9月4日(日)
アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会	アッセンブリッジ・スタジオ2022	7月～2023年3月末
名古屋市美術館、中京テレビ放送	ポテロ展 ふくよかな魔法	7月16日(土)～9月25日(日)
劇団うりんこ	うりんこ50周年記念 夏休みこども劇場 「大きなカブ？」「パーティー」	8月20日(土)～29日(月)
二村・篠田共同プロデュース、 双身機関	往還Ⅲ 朗読劇『ガジマル樹の下に』	9月9日(金)・10日(土)
豊田市民芸館	藍染の絞り 片野元彦・かほりの仕事	9月13日(火)～12月4日(日)
公益財団法人豊田市文化振興財団	農村舞台アートプロジェクト2022	9月10日(土)・24日(土)
瀬戸現代美術展実行委員会 ／Art Space & Café Barrack	瀬戸現代美術展2022	9月17日(土)～10月23日(日)
松坂屋美術館、日本経済新聞社、 テレビ愛知	吉村芳生展 ー超絶技巧を超えてー	10月1日(土)～11月20日(日)
公益財団法人豊田市文化振興財団、 豊田市	とよたまちなか芸術祭2022	10月8日(土)～30日(日)

(6) パートナーシップ事業

- ・ 民間企業や自治体、地元文化芸術団体等が原則として愛知県で行う文化芸術事業を「パートナーシップ事業」として募集し、相互に広報協力を行った。
- ・ 2022年4月28日(木)から6月14日(火)(当初の5月31日(火)から延長)まで募集を行い、総合的な審査のうえ、62件を選定した。
- ・ 事業分野は、美術が8割以上を占め、音楽・演劇・舞踊・伝統芸能など多岐に渡った。
- ・ 地域別では、県内各地域から幅広く応募があったが、全体の6割を占める名古屋のほか、尾張が3割を占めた。
- ・ 各まちなか会場周辺においては、一宮市8件、常滑市4件、有松地区6件と満遍なく実施された。

■ 分野別内訳(複数分野に跨る事業あり)

美術	音楽	演劇	舞踊	伝統芸能	その他	計
52件 (83.9%)	12件 (19.4%)	2件 (3.2%)	6件 (9.7%)	5件 (8.1%)	19件 (30.6%)	62件 (100.0%)

■ 地域別内訳(県内各地域別)

名古屋	尾張	西三河	東三河	計
38件 (61.3%)	19件 (30.6%)	2件 (3.2%)	3件 (4.8%)	62件 (100.0%)

■ 地域別内訳(各まちなか会場別)

一宮市	常滑市	有松地区(名古屋市)	その他	計
8件 (12.9%)	4件 (6.5%)	6件 (9.7%)	44件 (71.0%)	62件 (100.0%)

STILLALIVE
国際芸術祭
あいち2022
 パートナーシップ事業



パートナーシップ事業ロゴマーク

■ 事業一覧

	事業名
1	「Art & これからの陶・常滑」グループ展とディスカッション
2	第19回とよはし都市型アートイベント sebone
3	壁絵錦三(かべえきんさん)
4	清須市はるひ美術館 特別展 ON—ものと身体、接点から
5	名古屋市民ギャラリー栄 次世代アーティスト企画展 「水上卓哉の世界～イノチトハ～」
6	ニシハラ☆ノリオ かぶりものアート展
7	Jazz Graffiti 音楽と写真アートのコラボレーションイベント
8	加藤おりは presents 「真夏のダンスフェスティバル2022」
9	1/大田黒衣美 個展 over 2/和田典子 個展
10	ナゴヤ現代活弁 アニレコライブ
11	138welcome & art project
12	3:IA / magazine(スリーアイエーマガジン)発行記念展 「境界」
13	とこなめ芸術祭2022
14	一宮だいたいフェスタ大集合 for Halloween 2022 ハロウィンアートフォトスポット
15	小原文悟 個展 「EMPTY MEMORY」
16	偏愛デパートメント
17	Sarah Fujiwara Exhibition
18	イオンモール常滑 秋の芸術祭
19	全国芸術祭サポーターズミーティング in あいち2022
20	第5回 拝啓 歴代トリエンナーレ監督 地元彫金作家はまだ続けてます
21	森からのメッセージ2022
22	秋のアートフェスティバル♪
23	宿題やったか？フェス2022
24	きそがわ日和2022 「Artist in Residence 水戸部春菜」

	事業名
25	即興太鼓叩 羽野昌二とワガン・ンジャエ・ローズ
26	TRY ART「私たちにとっての STILL ALIVE」
27	スタートからいちばん近いゴール
28	GROWING SPACE / グローイングスペース
29	市民ギャラリー企画展 「光の切り絵展 ～いつもはじまり～」
30	星が丘ボウル SDGs アートプロジェクト
31	松本崇宏 UNPLUGGED / 「仮想内観一君は自身の内観を取得したか。」関口敦仁退任記念展
32	KITTE 名古屋2022夏企画 『ART TOUCH ～色彩～』
33	Chojamachi Nishiki Cotton Project 「町を紡ぐ 景色を織る 日々を縫う その手を纏う 光を結わう」
34	草の根国際芸術祭事業協働 能登国際芸術祭2023広報 奥能登わらべ唄探究そして行者 穴探索 From 口ぐせカルタより
35	まちの宮市
36	第5回現代いけばなアート展
37	シン・ナゴヤメタバース芸術祭2022
38	文化の家×愛知県立芸術大学 ART SHOP
39	時のカタチ / Shape of Time
40	ととのう温泉美術館 OPEN RESIDENCE
41	いちのみや芸術商店街
42	リトル・ミュージアム
43	「祈りの果て」写真&インスタレーション
44	有松絞りアートライブ2022
45	現代アートの鑑賞事業2022 PLAY2022
46	第12回大人のための 「おんがくのおもちゃばこ」
47	ながくてアートフェスティバル 「まち NAF」2022

	事業名
48	あなたに愛を
49	「あい」から「いのち」へ
50	CATS nekoz nyannyan 3
51	Wonder heart gallery ～アール・ブリュット展～
52	「ギャラリー くさ笛」個展、グループ展
53	ラウンドアバウトドッグ
54	鯉江良二へのオマージュ展
55	まちなかウォークアブル社会実験 ストリートチャレンジ2022
56	びびびの学校 ～尾州・美術・Being～
57	「はじまりのあーと展 in 有松」
58	「安部成子 絞り展」
59	LOVE & PEACE 2021
60	詩の朗読と本のフェスティバル NAGOYA POETRY BOOK JAM
61	alive café in com-café 三八屋
62	D-art, ART 2022

※決定順

※事業名は募集時のもの

(7) 市民団体等との連携

- 国際芸術祭「あいち」の開催目的である「文化芸術の日常生活への浸透」及び「地域の魅力の向上」を図るため、以下のとおり市民団体等との連携事業を行った。

連携団体	事業名	期間	事業内容
あい撮りカメラ部	「まちと、写真と、伝統と。」	8月9日(火)～ 10月10日(月・祝)	写真撮影ボランティアを母体とする市民団体であり、これまで写真や動画等を用いて「あいちトリエンナーレ」の記録撮影・情報発信を続けてきたあい撮りカメラ部の主催により、愛知芸術文化センターにおいて、「あいち2022」の各まちなか会場の気になる場所などが、写真展示やインスタレーション形式で紹介された。
大ナゴヤツアーズ	あいち ものづくり 体感ツアー	有松地区 9月5日(月) 常滑市 9月17日(土) 一宮市 9月21日(水)	地元在住の方を対象にまち歩きツアーなどを開催している大ナゴヤツアーズ及び地元商工会議所とコラボレーションし、「あいち2022」の各まちなか会場において、アートを巡りながら「あいちのものづくり」を体感できる3つのツアーを開催した。

6 その他

(1) 企業・団体等からの協賛・協力

- ・ 企業、団体及び個人（以下、企業等）から、寄付、チケット購入、人材派遣、物品・サービス、展示場所の提供など、184件の支援を得た。

■ 協賛等の内容

種類		対応等	支援件数
協賛	寄付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公式ガイドブック等の印刷物、公式Webサイトへの企業名またはロゴの掲載など、各種広報媒体で企業等のPRを行った。また、オープニングセレモニーへの招待など、金額に応じた特典も設けた。 ・ 国際芸術祭「あいち」は、特定公益増進法人である公益社団法人企業メセナ協議会の助成対象活動と認定されており、同協議会を通じて国際芸術祭「あいち」組織委員会に寄付をすると、法人税法上、一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で、損金限度額まで算入される。 ・ 愛知県外に本社を置く企業については、愛知県に寄付をすることで、企業版ふるさと納税の適用を受け、損金算入による軽減効果に加え、税額控除による軽減効果を受けることができる。 	63件
	チケット購入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100枚以上または10万円以上まとめて購入の場合は、通常の前売り価格よりも廉価で提供した。 ・ チケット購入価格を「協賛区分」に当てはめて、各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載及び特典の対応を行った。 	56件
	物品提供 (金額換算できるもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アーティストの作品制作に必要な物品、セレモニー及びボランティア用の飲料、除菌スプレー等、物品を提供の場合はその料金を市場価格により現金換算し、換算価格の2分の1を「協賛区分」に当てはめて、各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載や特典の対応を行った。 	5件
	サービス提供 (金額換算できるもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広告スペースの提供や会場使用料の減免、作品制作に係る機材やラッピング用車両の貸与、ケーブルテレビでのPV放映等、サービスを提供の場合はその料金を市場価格により現金換算し、換算価格の2分の1を「協賛区分」に当てはめて、各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載や特典の対応を行った。 	12件
	人材派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費に応じて、各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載や特典の対応を行った。 	1件
協力	作品制作・展示等への協力 (金額換算しがたいもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種広報媒体への企業名の掲載を行った。 	30件
会場提供	まちなかの展示スペース等の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種広報媒体への企業名またはロゴの掲載を行った。 	15件
	有償広告掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業等と組織委員会が有償広告の掲載に係る契約を結び、ガイドマップの有償広告スペースに企業等の広告を掲載した。 ・ 企業等が広告宣伝費として処理すれば、法人税法上、損金に算入される。 	2件
計			184件



企業名またはロゴの掲示（愛知芸術文化センター10階会場内パネル）

(2) クラウドファンディング

- 個人を対象に、2022年8月12日（金）から9月11日（日）の期間に募集し、43名から、計44件 481,500円の支援を得た。

■ リターンコースの内容

コース	リターン	件数
「あいち2022」スペシャルガイドツアーコース (50,000円)	<ul style="list-style-type: none"> 片岡芸術監督による愛知芸術文化センター会場ガイドツアー参加権（約2時間） 「あいち2022」現代美術展フリーパスチケット 公式デザイナーグッズ サンクスメール及び報告書のデータ送付 	4件
「あいち2022」ノベルティグッズコース (30,000円)	<ul style="list-style-type: none"> 「あいち2022」ノベルティグッズ サンクスメール及び報告書のデータ送付 	1件
「あいち2022」公式デザイナーグッズコース (20,000円、10,000円、5,000円、3,000円)	<ul style="list-style-type: none"> 「あいち2022」公式デザイナーグッズ（支援額により内容は異なる） サンクスメール及び報告書のデータ送付 	25件
「あいち2022」応援！コース（2,000円）	<ul style="list-style-type: none"> サンクスメール及び報告書のデータ送付 	14件
計		44件

※うち3件でコースの設定金額以上の支援あり

(3) 旅行会社・ホテルとの連携

- 旅行会社各社と連携してツアーを造成し、計9件の利用があった。また、愛知・名古屋・東海地方方面への旅行パンフレット等（9種類）に、国際芸術祭「あいち」の情報を掲載した。
- 名古屋市内23か所、一宮市内1か所、常滑市内3か所のホテルと連携し、チケット付宿泊プランやフロントでのチケット販売を実施した。合計で267件の利用があった。

(4) 会場周辺店舗等との連携

- ・「あいち2022」会場としての一体感のある盛り上げやにぎわいを創出するとともに、来場者へのおもてなし・サービス向上のため、まちなか会場周辺の店舗等と連携を図った。
- ・会場市との連携により作成したマップに、ポスターの掲出やチラシの配架といった広報協力のほか、現代美術展チケットを提示した方へのサービス提供や「あいち2022」関連メニューの提供などで協力いただいた店舗を、展示場所の情報とともに掲載した。また、各会場や周辺店舗等で配架した。



〈芸文〉会場周辺店舗マップ
(発行：国際芸術祭「あいち」組織委員会)



〈有松地区〉会場周辺店舗マップ
(発行：国際芸術祭「あいち」組織委員会)



〈常滑市〉会場周辺店舗マップ
(発行：常滑市教育委員会生涯学習スポーツ課)



〈一宮市〉会場周辺店舗マップ
(発行：あいち2022一宮会場実行委員会)

- ・協力いただいた店舗には、「協力ショップ」として、「協力ショップロゴマーク」のステッカーを配付した。

STILL ALIVE
国際芸術祭
あいち2022
協力ショップ



協力ショップロゴマーク

(5) 会場運営

- ・ 展示場所やインフォメーション等にスタッフを配置したほか、来場者案内等においてボランティアの協力を得るなど、会場内の利便性向上に努めた。また、混雑を避けるため、展示作品によって予約制を取るなど、会場内の安全確保を図った。

※ボランティアについては、44ページ「ボランティア・プログラム」を参照

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、来場者にマスクの着用、手指消毒の徹底、検温への協力などを呼び掛けたほか、救護スペースの確保や医療従事者への相談体制を整えた。
- ・ 乳児や未就学児連れの方にも気軽に来場いただけるよう、愛知芸術文化センター8階に授乳スペースを設置したほか、愛知芸術文化センター12階において託児サービスを実施した。

■ インフォメーション

- ・ 愛知芸術文化センター、一宮市会場(オリナス一宮、旧一宮市立中央看護専門学校)、常滑市会場(常滑市陶磁器会館)、有松地区(名古屋市)会場(山田家住宅(旧山田薬局))にインフォメーションを設置し、「あいち2022」に関する来場者からの様々な問合せ等に対応したほか、チラシや公式ガイドマップの配架、イベント情報の掲出など情報発信を行った。
- ・ 「あいち2022」に関する問合せに対応するため、組織委員会事務局内にコールセンターを設置した。

■ チケット販売

- ・ 各会場インフォメーション、のこぎり二(一宮市会場)及び廻船問屋瀧田家(常滑市会場)にチケット販売所を設置し、現代美術展チケット(会期中販売券)の販売を行った。また、INAXライブミュージアムなどで、あっせん販売を行った。

■ バリアフリー対応

- ・ 身体等に障害をお持ちの方にも来場いただき、現代美術等に触れていただけるよう、会場内のバリアフリー対策やガイドツアーを実施した。
- ・ 各会場のバリアフリー対策情報を公式Webサイトに掲載し、来場者への周知を図った。

会場内の バリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none">・ 会場内の段差を解消するため、簡易スロープやゴムマットを配備した。 ※スロープ 【一宮市】旧一宮市立中央看護専門学校、旧一宮市スケート場、のこぎり二 【常滑市】旧丸利陶管、旧青木製陶所 【有松地区】岡家住宅、株式会社張正 ゴムマット 【一宮市】旧一宮市スケート場、のこぎり二 【常滑市】旧丸利陶管、旧鮮魚店
	<ul style="list-style-type: none">・ 各会場において、介助や案内を必要とする方に対応するため、土・日及び祝日に介助スタッフの会場巡回を委託した。(委託先:社会福祉法人AJU自立の家)・ 上下移動の手段が階段しかない、車椅子の入れるスペースがないなど、車椅子等を御利用の方の鑑賞が難しい展示作品については、各会場のインフォメーション等に配備したタブレット端末により作品の写真や動画、3Dカメラで撮影された画像を利用した展示場所のVR体験を提供した。

ガイドツアー	・視覚、聴覚に障害のある方を対象に、ボランティアガイドによるガイドツアーを実施した。 ※ガイドツアーについては、39ページ「ガイドツアー」を参照
その他	・無料配布した公式ガイドマップに、多機能トイレの設置場所やスロープの有無などのバリアフリー情報を掲載した。

■ 会場サイン

- ・メインビジュアルを活用したサイン計画を策定し、各会場の屋内外に来場者誘導のためのサインを設置した。



〈芸文〉愛知芸術文化センター(正面2階)



〈一宮市〉旧一宮市立中央看護専門学校(入口)



〈常滑市〉名鉄常滑線 常滑駅(改札内)

Photos: ToLoLo studio



〈有松地区〉山田家住宅(旧山田薬局)

■ ユニフォーム

- 各会場の運営スタッフ及び服装にレギュレーションのないスタッフ、ボランティアスタッフ及び対話型鑑賞ボランティアスタッフの着用するTシャツは、来場者がそれぞれのスタッフを直感的に認識できるようなデザインとした。

また、全てのスタッフがスタッフ証を着用することで、国際芸術祭としての統一感も図った。



(6) 広報・PR

■ パブリシティ実績

- 多くの新聞、テレビ等のメディアを通じて広く情報が発信され、確認できたパブリシティ件数は1,671件であった。

種別	掲載・放映件数	内訳		
		全国	地方	海外
新聞	223件	22件	200件	1件
雑誌	78件	44件	30件	4件
テレビ	74件	3件	71件	0件
ラジオ	11件	0件	10件	1件
Web	1,285件	国内：1,212件		73件
計	1,671件	1,592件		79件

※新聞については、2020年4月から2022年11月までの件数

※雑誌については、2020年12月から2022年11月までの件数

※テレビについては、2020年9月から2022年10月までの件数

※ラジオについては、2022年6月から2022年10月までの件数

※Webについては、2020年4月から2022年11月までの件数

■ 記者等への情報提供

- 企画内容や参加アーティスト等の主要な情報が決定した際に記者会見を開催したほか、海外への情報発信や、記者クラブ等への情報提供を行った。

○ 記者会見

- 愛知県内で9回の記者会見を開催し、大林組織委員会会長の就任発表のほか、芸術監督やキュレーターによる企画概要の説明を行った。なお、2021年度に開催した記者会見では、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、オンライン配信も活用した。
- 閉幕日(2022年10月10日)にプレスルームにて、片岡芸術監督の囲み取材を実施した。

	開催日	会場	主な発表内容	参加社数
1	2020年9月14日(月)	愛知芸術文化センター 大リハーサル室	組織委員会会長就任発表	19社 (23名)
2	2020年11月17日(火)	愛知芸術文化センター アートスペース A	芸術監督就任、芸術祭名称発表	22社 (32名)
3	2020年12月22日(火)	愛知芸術文化センター アートスペース A	テーマ・コンセプト発表	19社 (22名)
4	2021年3月30日(火)	愛知芸術文化センター アートスペース A	企画体制・企画概要発表	19社 (21名)
5	2021年5月25日(火)	オンライン開催	開催会場発表	32社 (53名)

	開催日	会場	主な発表内容	参加社数
6	2021年8月23日(月)	愛知芸術文化センター 小ホール ※オンライン配信併用	ロゴマーク、 参加アーティスト(第一弾)発表	会場13社 (14名) オンライン15社 (15名)
7	2022年2月15日(火)	愛知芸術文化センター アールスペース A ※オンライン配信併用	参加アーティスト(第二弾)、 現代美術展チケット発表	会場10社 (11名) オンライン11社 (13名)
8	2022年3月30日(水)	愛知芸術文化センター アールスペース A ※オンライン配信併用	全体概要発表	会場17社 (25名) オンライン22社 (26名)
9	2022年7月29日(金)	愛知芸術文化センター アールスペース A	開幕発表	約70社 (約90名)
-	2022年10月10日(月・祝)	愛知芸術文化センター アールスペース E・F	閉幕あいさつ(囲み取材)	7社 (13名)

○ 海外での情報発信

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、渡航制限がある中での開催となったため、海外に関しては媒体やターゲットを絞って発信を行った。
- ・ International Biennale Association (IBA) (国際ビエンナーレ協会) に会員登録し、同協会の公式Webサイトからの情報配信を6回実施した。
- ・ 広報アドバイザー (TM Press) が持つ美術関係者へのプレスリスト (海外約250件) への情報配信を6回実施した。
- ・ 海外のアート系Web媒体に広告を出稿した。(4回)
- ・ SNS広告を出稿した。(1回)

○ 記者への情報提供

- ・ 2020年11月から閉幕翌日 (2022年10月11日) までに、愛知県政記者クラブ及び中部芸術文化記者クラブを中心に、計62回の資料配付を行った。また、同時に公式Webサイトにも掲載した。
- ・ 記者会見の開催にあわせて、企画内容や参加アーティスト等の主要な情報を掲載したプレスリリース冊子を作成し、出席メディアや関係者に配布した。また、公式Webサイトのプレス向け情報ページにも掲載した。

■ 取材への対応

- ・ 作品解説や会場案内を行うとともに、芸術監督やアーティストへのインタビューのコーディネートを行うなど、取材内容によって個別に対応した。
- ・ 内覧会開催日(2022年7月29日)から閉幕日(2022年10月10日)までに、国内外からの236件の会場取材に対応した。

○ 取材件数

● メディア別・時期別取材件数

(単位:件)

	プレスツアー 7/29-30	内覧会 7/29	7/30-15	8/16-31	9/1-15	9/16-30	10/1-10	計	割合
新聞	26	9	15	4	1	0	9	64	27.1%
雑誌	15	1	3	0	2	4	4	29	12.3%
テレビ	2	8	8	1	3	2	3	27	11.4%
ラジオ	1	1	1	2	1	0	0	6	2.5%
Web	45	6	10	2	3	3	4	73	30.9%
その他	32	1	2	1	0	0	1	37	15.7%
計	121	26	39	10	10	9	21	236	100.0%
割合	51.3%	11.0%	16.5%	4.2%	4.2%	3.8%	8.9%	100.0%	

● メディア別・地域別取材件数(プレスツアーを除く)

(単位:件)

	県内	県外	海外	計	割合
新聞	26	11	1	38	33.0%
雑誌	4	9	1	14	12.2%
テレビ	24	1	0	25	21.7%
ラジオ	3	0	2	5	4.3%
Web	14	11	3	28	24.3%
その他	0	5	0	5	4.3%
計	71	37	7	115	100.0%
割合	61.7%	32.2%	6.1%	100.0%	

○ プレス証の発行

- ・ 会場への入場が必要となる取材にはプレス証を発行した。
- ・ 内覧会開催日(2022年7月29日)から閉幕日(2022年10月10日)までに、プレス証を発行した報道関係者は335人であった。

● メディア別・時期別プレス証発行件数

(単位:件)

	プレסטツアー 7/29-30	内覧会 7/29	7/30-15	8/16-31	9/1-15	9/16-30	10/1-10	計	割合
新聞	31	17	19	5	1	0	11	84	25.1%
雑誌	15	1	4	0	5	4	5	34	10.1%
テレビ	2	23	21	2	9	4	7	68	20.3%
ラジオ	2	2	1	3	2	0	0	10	3.0%
Web	49	12	14	2	5	7	7	96	28.7%
その他	38	1	2	1	0	0	1	43	12.8%
計	137	56	61	13	22	15	31	335	100.0%
割合	40.9%	16.7%	18.2%	3.9%	6.6%	4.5%	9.3%	100.0%	

● メディア別・地域別取材件数(プレסטツアーを除く)

(単位:件)

	県内	県外	海外	計	割合
新聞	38	14	1	53	26.8%
雑誌	4	13	2	19	9.6%
テレビ	65	1	0	66	33.3%
ラジオ	5	0	3	8	4.0%
Web	26	14	7	47	23.7%
その他	0	5	0	5	2.5%
計	138	47	13	198	100.0%
割合	69.7%	23.7%	6.6%	100.0%	

○ プレסטツアーの実施

- ・ 報道関係者向けに、内覧会開催日(2022年7月29日)及び閉幕日(2022年7月30日)に、芸術監督はじめキュレーター等が各会場で作品を解説するプレス向けのバスツアー(国内プレス:大型バス2台、海外プレス:大型バス1台)を実施し、2日間で延べ137人が参加した。

○ プレスルームの設置

- ・ 2022年7月28日から8月2日までの5日間（※8月1日は休館日のため設置せず）、愛知芸術文化センター12階アートスペースE・Fにプレスルームを設置した。
- ・ プレスルームには複数のスタッフが常駐し、当日取材申請の受付、プレス証の発行、プレスキットの配付、イベント・会見告知、打合せスペースの提供、Wi-Fi通信環境の提供、荷物一時預かりなどのサービスを提供した。
- ・ また、閉幕に合わせた2022年10月9日、10日の2日間も、アートスペースE・Fに設置した。仕様は開幕時と同様とした。事前申し込みの取材受付のほか、当日の取材申請の受け入れ、プレス証の発行等などを行った。10日には芸術監督の囲み取材の会場として利用した。

■ 広報用印刷物

- ・ 「あいち2022」全体を広報するものから現代美術展、舞台芸術、ラーニング等それぞれの分野を広報するものまで、計76種類を作成した。

● 印刷物全体

種別	種類	数量
チラシ、リーフレット	45	1,481,714
ポスター	15	234,207
リリース資料	4	50,069
発送用資材	12	28,875
計	76	1,794,865



全体ポスター（2022年7月制作）

■ PR動画

- ・ 「あいち2022」をPRするために、開催概要、主な会場の映像、参考作品画像、アーティストの制作風景、展示風景等を盛り込んだ動画を制作した。
- ・ 先行告知用1本、本告知用9本、閉幕後広報用1本、合計11本のプロモーション動画を制作した。

区分	内容
Webサイト	「あいち2022」公式Webサイト
SNS	「あいち2022」公式SNS
YouTube	「あいち2022」公式YouTubeチャンネル
公共施設等のモニター	愛知芸術文化センター、オアシス21、中部国際空港、市町村窓口等
ケーブルテレビ	知多メディアネットワーク、知多半島ケーブルネットワーク、ミクスネットワーク

■ Web を用いた広報

- ・ 公式Webサイトを中心に、SNS (Instagram、Twitter、Facebook) を積極的に活用して即時性の高い情報発信を行った。
- ・ 公式Webサイトは、スマートフォン利用者の拡大に伴い、「スマホファースト」の仕様とすべく、サイト構造やユーザーインターフェイスの設計・デザインを行った。実際に、閲覧者の約8割がモバイル系OSからのアクセスであった。

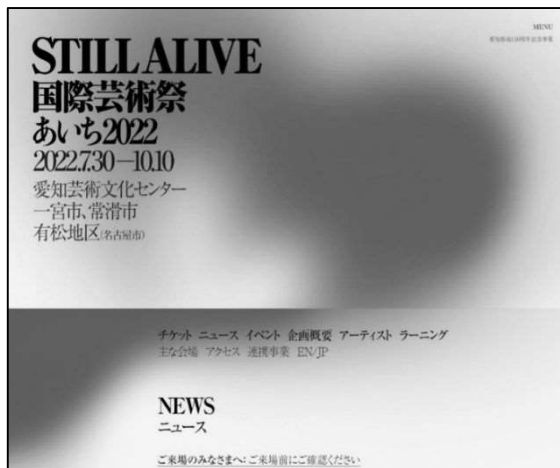
○ 公式 Web サイト

- ・ 会期中のアクセス総数は1,450,460ページビュー※(478,974セッション※)であった。

※ページビュー数：ページへのアクセス数(クリック単位)

セッション数：Webサイトへ訪れたユーザー数(人単位)

トップページ



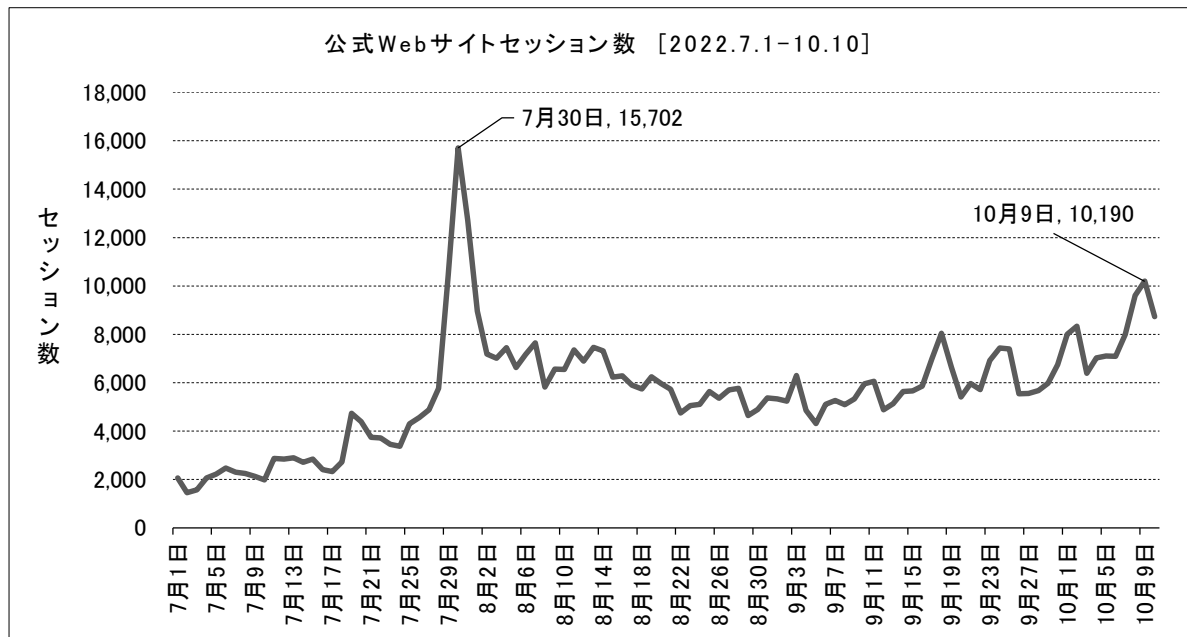
ニュース



アーティスト



■ セッション数の推移



○ Webサイト広告

- ・ 2022年7月から2022年9月までの記事掲載などの広告出稿の合計は7件（国内3件、海外4件）であった。

○ 公式SNS

- ・ 開幕前の準備の様子や開幕後のニュース、イベント情報、緊急のお知らせなどをリアルタイムで配信した。
- ・ 近年、国内外でアクティブユーザーが増加している、Instagramでの情報発信に最も力を入れた。

● Instagram

- ・ [基本概要(2022年12月28日現在)]
 アカウント名: aichi2022(2020年11月16日開設)
 フォロワー総数: 5,771人
 フォロー総数: 191人
 投稿総数: 384件



● **Twitter**

- ・ [基本概要 (2022年12月28日現在)]

アカウント名 : Aichi2022 (2020年11月17日 開設)

フォロワー総数 : 3,743人

フォロー総数 : 145人

投稿総数 : 945件



● **Facebook**

- ・ [基本概要 (2022年12月28日現在)]

アカウント名 : Aichi2022 (2020年11月17日 開設)

フォロワー総数 : 1,468人

投稿総数 : 467件



● **YouTube**

- ・ [基本概要 (2022年12月28日現在)]

アカウント名 : 国際芸術祭「あいち2022」

(2021年5月28日 開設)

チャンネル登録者総数 : 601人

投稿総数 : 44件

合計再生回数 : 25,855回



■ 愛知県、市町村、交通機関等と連携した広報・PR

- ・ 愛知県、愛知県内の市町村、交通機関、その他団体等と連携し、各種広報活動を行った。

○ 愛知県、市町村との連携

区分	主な内容
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞内「広報あいち」への掲載(5回) ・ テレビ番組「まるまる◎あいち」「村上佳菜子の週刊愛ちっち」での放送(6回) ・ ラジオ番組「AICHI SUNDAY TIPS」「飛び込みマイク」等での放送(2回) ・ 「あいちインターネット情報局」「モバイルネットあいち」等へPR動画・情報掲載 ・ 県の観光展や「こってりだけじゃない。ディスカバー愛知フェア」において広報資材配布 ・ 旅行会社向け観光素材集に芸術祭情報を掲載 ・ 県観光サイト「Aichi Now」へ芸術祭情報を掲載 ・ TOKYO愛知女子会会員への情報提供 ・ 2022年版愛知県手帳とコラボレーションし「あいち2022カバー版」を発売 ・ 愛知県図書館にて関連図書コーナー設置、愛知県図書館自主事業「文化芸術に関する連続講座2022」にて「国際芸術祭「あいち2022」のちょっとディープな楽しみ方」を開催 ・ 東京事務所ショーウィンドウでのポスター掲示、PV放映
一宮市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌「広報一宮」への掲載(8回) ・ 一宮市観光協会へのタペストリー設置 ・ 尾張一宮駅前ビル(iビル)への大型PRサイン設置 ・ 民間ビルの屋上広告看板に芸術祭ロゴを掲載 ・ 街路灯へのフラッグ設置 ・ 一宮七夕まつりうちわ、PRチラシへの情報掲載 ・ ケーブルテレビ番組「I LOVE いちのみや」での放送 ・ ラジオ番組「知っク！いちのみや」での放送(2回)
常滑市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌「広報とこなめ」への掲載(4回) ・ 常滑市PRテレビ番組での芸術祭紹介(1回) ・ 常滑市観光協会パンフレット・Webサイト「とこなめ観光ナビ」への掲載
長久手市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「「あいち2022」ポップ・アップ！」チラシを全戸配布
蒲郡市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「広報がまごおり」に芸術祭情報や「「あいち2022」ポップ・アップ！」の告知を掲載
半田市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はんだ市報」に芸術祭情報や「「あいち2022」ポップ・アップ！」の告知を掲載
西尾市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「広報にしお」、「西尾フリモ」に芸術祭情報や「「あいち2022」ポップ・アップ！」の告知を掲載
その他市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村広報誌への掲載(2021年度36市町村、2022年度29市町村)

○ 交通機関との連携

区分	主な内容
名古屋鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・現代美術展入場券と名鉄電車のフリーきっぷをセットにした企画乗車券のポスターを作成し、駅構内及び名鉄車内に掲出（駅貼250枚、車内吊3,000枚） ・主要駅構内にポスターを掲出（120枚）
愛知環状鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・主要駅構内にポスターを掲出（5枚）
東部丘陵線連絡協議会（リニモ）	<ul style="list-style-type: none"> ・「リニモ秋色ウォーキング」の完歩者向けにコラボピンバッジを作成 ・「「あいち2022」ポップ・アップ！」のポスター及びチラシを駅に掲出（ポスター2枚、チラシ450部）
中部国際空港株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・セントレアのターミナルビル内大型ビジョンでPR動画を放映

○ その他団体等との連携

区分	主な内容
あいち男女共同参画財団	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいち国際女性映画祭2022」のパンフレットに芸術祭の広告を掲載 ・同映画祭において、アビチャップン・ウィーラセタクンのトークイベントに片岡芸術監督が登壇
INAX ライブミュージアム	<ul style="list-style-type: none"> ・INAXライブミュージアム及び株式会社LIXILのSNSにおいて芸術祭の情報を発信
森美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」と連携し、双方のキュレーターが交互に展示作品の解説を行う様子を撮影し、森美術館のTikTokアカウントでライブ配信
瀬戸内国際芸術祭	<ul style="list-style-type: none"> ・「瀬戸内国際芸術祭2022」公式ガイドブックに「あいち2022」の開催情報を掲載
ジェイアール名古屋タカシマヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェイアール名古屋タカシマヤ「なつやすみファミリーフェスティバル」の企画の一環として、「あいち2022」クイズラリー、芸文会場の特別ガイドツアー等を実施
名古屋ステーション開発株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・JR尾張一宮駅内「ASTY一宮」の改装工事に伴って設置された工事用仮囲いに、芸術祭の大型PRサインを設置
スーパー・コンビニエンスストア	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県と流通業者との包括協定を活用し、コンビニエンスストア等においてポスター掲出及びチラシ設置
書店	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市内の大型書店を中心にポスター掲出、チラシ設置
チケットプレゼント企画	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌とのタイアップ企画として、チケットプレゼント企画を実施（3企画）

■ 広告

- ・ 現代美術展前売券発売日(2022年4月1日)や開幕日の前後の時期、会期中を中心に、各種メディアへの広告や交通広告を展開した。

○ 各種メディア広告

- ・ 雑誌・フリーペーパー、ラジオに計17件の広告出稿を行った。

種別	広告出稿件数
新聞	0件
雑誌・フリーペーパー	2件
テレビ	0件
ラジオ	15件
計	17件

○ 交通広告

- ・ 現代美術展前売券発売日及び開幕日の前後に、乗降客が多い名古屋駅、栄駅、金山駅や、会場最寄りの一宮駅、常滑駅、有松駅を中心に、ポスター、デジタルサイネージ等の広告掲出を集中して行った。また、会期中盤でのPR強化のため、連休が集中する9月から、地下鉄名古屋駅のホーム看板設置や、名古屋駅、栄駅、金山駅を中心にデジタルサイネージ放映を行った。
- ・ また、JR名古屋駅のコンコース周辺のデジタルサイネージにおいて、2022年5月末から9月末の長期間にわたって展開した。

区分	掲出箇所
ポスター	会場最寄り駅、名鉄、JR主要駅内
看板	地下鉄名古屋駅ホーム
デジタルサイネージ	JR名古屋駅、名鉄名古屋駅、地下鉄名古屋駅・栄駅・金山駅等



JR名古屋駅(デジタルサイネージ)

■ ラッピングカー

- ・ 車両3台に「あいち2022」をPRするラッピングを施し、広告塔としての役目を担うとともに、連携事業の「あいち2022」ポップ・アップ！会場にて車両展示を行った。
- ・ MIRAI、カローラクロスの車体デザインは公式デザイナーの田中義久氏が手がけた。アルファードはデザイナーカーとして、ミシエック・マサンヴの作品《Still Still》の車をモチーフに、キュレーターであり、グラフィックデザイナーの堤拓也氏が車両デザインを手がけた。



MIRAI、カローラクロス



アルファード

■ PR イベント

- ・ 国際芸術祭「あいち」組織委員会主催（一部共催）のPRイベント（プレイベント）を愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区にて開催した。

○ プレイベント

	タイトル	開催日	会場	登壇者	参加者数
1	STILL ALIVE: あいちの土地と繊維	5月15日（日）	オリナス一宮	眞田岳彦、片岡真実	63人
2	「STILL ALIVE」とあいち	6月5日（日）	愛知芸術文化センター	大泉和文、横野明日香、片岡真実、飯田志保子、中村史子、拝戸雅彦	91人
3	彫刻・ゲニウス・ロキ	6月11日（土）	常滑市陶磁器会館	黒田大スケ、堤拓也	29人
4	宮田明日鹿さんに聞く「STILL ALIVE」と「手芸」	6月19日（日）	有松・鳴海紋会館	宮田明日鹿、飯田志保子	40人

※第1回は一宮市、第3回は常滑市との共催



第1回 STILL ALIVE: あいちの土地と繊維



第2回「STILL ALIVE」とあいち

■ アンバサダー

- ・ 各界で活躍の、アートに関心を持ち、「あいち2022」を応援する8名に“「あいち2022」アンバサダー”を委嘱した。アンバサダーは、SNS投稿等の活動を通じて「あいち2022」の魅力を発信した。
- ・ 委嘱期間：2021年12月10日～2022年10月10日 ※野崎萌香氏は2022年1月27日就任

● アンバサダー一覧

氏名	職業
imma	バーチャルモデル
河瀬直美	映画作家
近藤誠一	近藤文化・外交研究所代表、元文化庁長官
隈研吾	建築家
草野満代	フリーアナウンサー
ナガオカケンメイ	D&DEPARTMENTディレクター、デザイン活動家
西高辻信宏	太宰府天満宮宮司
野崎萌香	モデル、タレント

(7) 公式出版物

■ 公式ガイドマップ

- 持ち歩きしやすいA5サイズでポケットマップタイプの「公式ガイドマップ」を制作し、会期中に来場者へ無料配布したほか、「あいち2022」公式Webサイトから、PDFデータを閲覧・ダウンロードできるようにした。

媒体名	国際芸術祭「あいち2022」公式ガイドマップ(日本語版)
発行日	2022年7月29日
判型等	A5サイズ、中綴じ冊子左開き、24ページ
言語	日本語
発行部数	200,000部
配布	無料
内容	監督メッセージ、推奨ルート・モデルコース、4会場へのアクセス、地図、展示場所と作家名、まちの文化施設立ち寄りスポット、プログラムイベントスケジュール等、「あいち2022」巡りに必要な情報を掲載。



媒体名	国際芸術祭「あいち2022」公式ガイドマップ(英語版)
発行日	2022年7月29日
判型等	A5サイズ、中綴じ冊子左開き、24ページ
言語	英語
発行部数	20,000部
配布	無料
内容	日本語版のガイドマップを英訳。 ※スポンサー枠のスポンサーロゴ／表記のみ日本語



■ 公式カタログ

- 国内外から参加したアーティスト100組を網羅した公式カタログを発行する。

発行予定日	2023年3月24日
判型等	A5判、624ページ
言語	バイリンガル(日本語・英語)
販売額	3,960円(税込)
内容	・芸術監督及びキュレトリアル・アドバイザーエッセイ ・アーティスト作品ページ ・「あいち2022」出品作品リスト 等
発行	国際芸術祭「あいち」組織委員会
発売	株式会社国書刊行会



※表紙カバーは複数種類あり

(8) オフィシャルグッズ

- ・ 公式デザイナーがメインビジュアル・公式ロゴマークを基調にデザインする「公式デザイナーグッズ」、参加アーティストの出展作品等のポストカードや、アーティストが考案したレシピを基に福祉施設で作ったクッキーを「アーティストグッズ」として作成し、オフィシャルショップ等で販売した。
- ・ 参加アーティストのグッズ・書籍等の「既成アーティストグッズ」を、オフィシャルショップ等で販売した。

■ オフィシャルグッズ

区分	品目数	備考
公式デザイナーグッズ	11品目(16種類)	ピンバッジ、Tシャツ(3種)、トートバッグ、バンブーエコタンブラー、マスクケース、ミニタオル、てぬぐい、うちわ、クリアファイル、ポストカード(4種)、チケットホルダー
アーティストグッズ	2品目(6種類)	ポストカード(5種)、デルシー・モレロスのクッキー
既成アーティストグッズ	29品目(51種類)	奈良美智の缶バッジ、アンネ・イムホフのパーカなど



ピンバッジ



Photo: ToLoLo studio

Tシャツ(STILL ALIVE)



デルシー・モレロスのクッキー



アンネ・イムホフのパーカ

■ ショップ

○ オフィシャルショップ

場所	開設期間	売上金額
愛知芸術文化センター10階	7月29日(金)～10月10日(月・祝)	6,770千円
一宮市会場インフォメーション (旧一宮市立中央看護専門学校)	同上	3,098千円
一宮市会場インフォメーション (オリナス一宮)	同上	
常滑市会場インフォメーション (常滑市陶磁器会館)	同上	358千円
有松地区(名古屋市)インフォメーション (山田家住宅(旧山田薬局))	同上	287千円

○ その他ショップ

場所	販売期間	取扱商品
愛知県職員生協(愛知県庁西庁舎10階)	8月2日(火)～10月10日(月・祝)	ピンバッジ
アートショップマイブック (愛知芸術文化センターB2階)	7月30日(土)～10月10日(月・祝)	アーティストグッズ全般



Photo: ToLoLo studio

愛知芸術文化センター10階



有松地区(名古屋市)インフォメーション
(山田家住宅(旧山田薬局))



愛知県職員生協(愛知県庁西庁舎10階)

会期中のイベント・プログラム

■ 7月

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
29日 (金)	芸文	—	10:00-10:30	記者会見	報道関係者	約90人
	芸文・一宮	—	10:30-17:30	プレス向けバスツアー	報道関係者	71人
	全会場	—	13:00-18:00	内覧会	招待者	約1,100人
	芸文・有松	—	13:00-17:30	特別内覧ツアー	招待者	16人
	芸文	—	18:00-19:00	オープニングセレモニー	招待者	約1,110人
30日 (土)	芸文	—	9:45-10:00	オープニングイベント ※同時に、一宮市、常滑市、有松地区においても 参加アーティスト等によるテーブルカットを実施	報道関係者	45人
	常滑・有松	—	10:30-17:30	プレス向けバスツアー	報道関係者	66人
	芸文	現代美術	11:00-11:30	パフォーマンス／笹本晃	要美術展券	—
			14:00-14:30 16:00-16:30	パフォーマンス／和合亮一	要美術展券	—
			11:00-17:00 1時間おきに上映	『ODDLANDS』／バック・トゥ・バック・シアター	要美術展券	239人
		パフォーマンスアート	13:00-13:30	『シスター あるいは 彼が体を埋めた — Sister or He Buried the Body』 ／トラジャル・ハレル	要チケット	133人
			17:00-17:55	『ダンサー・オブ・ザ・イヤー』 ／トラジャル・ハレル	要チケット	128人
			ラーニング	13:00-16:00	勝手にRADIO	無料
	常滑	現代美術	9:30-9:50	パフォーマンス／グレンダ・レオン	要美術展券	15人
	芸創	パフォーマンスアート	19:00-21:00	『スティーヴ・ライヒ〜スペシャル・コンサート』 ／スティーヴ・ライヒ	要チケット	518人
31日 (日)	芸文	—	10:00-11:30	STILL ALIVEキュレトリアル・ラウンドテーブル	無料	100人
		現代美術	13:00-13:30	トークセッション「河原温とは誰か？」	無料	99人
			13:00-13:30	パフォーマンス／笹本晃	要美術展券	—
		パフォーマンスアート	13:00-13:55	『ダンサー・オブ・ザ・イヤー』 ／トラジャル・ハレル	要チケット	106人
			18:00-18:30	『シスター あるいは 彼が体を埋めた — Sister or He Buried the Body』 ／トラジャル・ハレル	要チケット	133人
	一宮	現代美術	16:00-16:45	パフォーマンス『approach 13.0』／迎英里子	無料	80人
	常滑	現代美術	9:30-9:50	パフォーマンス／グレンダ・レオン	要美術展券	15人
			17:00-17:20			15人
芸創	パフォーマンスアート	15:00-17:00	『スティーヴ・ライヒ〜スペシャル・コンサート』 ／スティーヴ・ライヒ	要チケット	494人	

■ 8月

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
4日 (木)	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	23人
6日 (土)	芸文	パフォーマンス	10:30-11:15	塩見允枝子パフォーマンス作品『～音と詞と行為の時空～』 「詞と概念を演奏する」 ／塩見允枝子	要チケット	170人
			15:00-15:45			
		12:00-12:45 16:30-17:15	塩見允枝子パフォーマンス作品『～音と詞と行為の時空～』 「ピアノ×パフォーマンス」 ／塩見允枝子	要チケット	166人	
		ラーニング	13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
7日 (日)	芸文	パフォーマンス	14:00-14:50 18:00-18:50	『音響詩ソロ・パフォーマンス』／足立智美	要チケット	114人
	常滑	現代美術	16:00-16:15	エイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	要美術展券	—
8日 (月)	常滑	現代美術	16:00-16:15	エイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	要美術展券	—
9日 (火)	常滑	現代美術	16:00-16:15	エイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	要美術展券	—
11日 (木・祝)	常滑	現代美術	16:00-16:15	エイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	要美術展券	—
12日 (金)	常滑	現代美術	16:00-17:00	ブラック・モンクス・オブ・ミシシッピによる公開録音とエイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	要美術展券	—
13日 (土)	芸文	パフォーマンス	17:00-19:00	『ユーロペラ3&4』（演出：足立智美） ／ジョン・ケージ	要チケット	136人
		ラーニング	13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
	常滑	現代美術	15:00-17:00	ブラック・モンクス・オブ・ミシシッピによるパフォーマンスとエイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	無料	—
14日 (日)	芸文	パフォーマンス	15:00-17:00	『ユーロペラ3&4』（演出：足立智美） ／ジョン・ケージ	要チケット	128人
	常滑	現代美術	11:00-15:00	ブラック・モンクス・オブ・ミシシッピによる公開録音とエイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	要美術展券	—
15日 (月)	常滑	現代美術	16:00-16:15	エイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	要美術展券	—
16日 (火)	常滑	現代美術	16:00-17:00	ブラック・モンクス・オブ・ミシシッピによる公開録音とエイプリル・ファルコンによるヨガ・ムーブメントのデモンストレーション／シアスター・ゲイツ	要美術展券	—
18日 (木)	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	11人
20日 (土)	芸文	ラーニング	12:00-17:00	ワークショップ「ほの国“市”」／井上唯	無料	91人
			13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
21日 (日)	芸文	ラーニング	12:00-17:00	ワークショップ「ほの国“市”」／井上唯	無料	55人
23日 (火)	芸文	連携事業	15:00-16:40 18:00-19:40	試験管ベビー extra capsule『命かけたり、かけなかったり』～菅原伝授手習鑑より 寺子屋と紀伊國屋文左衛門、宝の入船～ ／試験管ベビー	要チケット	129人
24日 (水)	芸文	連携事業	18:00-19:00	『M・A・C・H・I』／PlaTEdEgE(プラテッジ)	要チケット	147人

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
25日 (木)	芸文	連携事業	19:00-19:45	『一人人形芝居洞熊学校を卒業した三人』 ／人形劇団むすび座	要チケット	85人
	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	17人
27日 (土)	芸文	ラーニング	10:30-11:30	ベビーカートゥアー	要美術展券	12人
			10:30-16:00	サマー・スクール2	無料	10人
			13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
28日 (日)	芸文	ラーニング	10:30-16:00	サマー・スクール2	無料	10人

■ 9月

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
1日 (木)	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	17人
2日 (金)	芸文	現代美術	14:30-16:00	VR作品公開イベント ／荒川修作＋マドリン・ギンズ	要美術展券	57人
		ラーニング	18:00-18:30	パフォーマンス“Fugu Gakko. A school that only teaches about fugu.” ／Abake & LPPL(Maki Suzuki)	無料	10人
	長久手	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	143人
3日 (土)	芸文	現代美術	10:00-17:30	《問われているプロセス／天命反転の橋 —2022 VR版》体験 ／荒川修作＋マドリン・ギンズ	要美術展券	22人
		ラーニング	10:30-11:30	日本語以外が母語(Native Language)の 人のためのツアー	要美術展券	7人
			13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
	常滑	現代美術	14:00-15:00	スライドトーク／服部文祥	要美術展券	—
	長久手	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	371人
4日 (日)	芸文	現代美術	10:00-17:30	《問われているプロセス／天命反転の橋 —2022 VR版》体験 ／荒川修作＋マドリン・ギンズ	要美術展券	22人
		ラーニング	14:00-15:30	トークセッション「穴あきの風景」／徳重道朗	無料	17人
	常滑	現代美術	14:00-15:00	スライドトーク／服部文祥	要美術展券	—
	長久手	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！ (ワークショップ「#愛の磔: STILL ALIVE (いまだ生きている)からはじまる言葉」/ 和合亮一)	無料	408人 (19人)
5日 (月)	有松	連携事業	10:00-14:00	あいちものづくり体感ツアー ／大名古屋ツアーズ	要チケット	10人
7日 (水)	蒲郡	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	84人
8日 (木)	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	19人
	蒲郡	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	56人
9日 (金)	蒲郡	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	77人
10日 (土)	芸文	ラーニング	10:30-11:30	ベビーカートゥアー	要美術展券	7人
			13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
	蒲郡	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！ (ワークショップ「心霊わしづかみ！幽霊 写真術」(第1回)／黒田大スケ)	無料	281人 (7人)

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
11日 (日)	常滑	現代美術	10:00-11:00 12:00-13:00	アーティストトーク／石川竜一	要美術展券	—
	蒲郡	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	382人
12日 (月)	蒲郡	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	96人
14日 (水)	芸文	ラーニング	10:30-12:00	筆談ツアー	要美術展券	10人
15日 (木)	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	28人
16日 (金)	半田	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	91人
17日 (土)	芸文	現代美術	10:00-17:30	《問われているプロセス／天命反転の橋—2022 VR版）体験 ／荒川修作＋マドリン・ギンズ	要美術展券	22人
		パフォーマンス	18:30-19:30	『ジゼル』／中村蓉	要チケット	106人
		ラーニング	13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
			14:00-15:00	日本語以外が母語（Native Language）の人のためのツアー	要美術展券	16人
	常滑	連携事業	14:30-16:00	「猩々サミット 2022 秋」 ／山本高之と猩々コレクティブ	無料	—
			10:00-12:30	あいちものづくり体感ツアー ／大名古屋ツアーズ	要チケット	9人
半田	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	137人	
18日 (日)	芸文	現代美術	10:00-17:30	《問われているプロセス／天命反転の橋—2022 VR版）体験 ／荒川修作＋マドリン・ギンズ	要美術展券	22人
		パフォーマンス	15:00-16:00	『ジゼル』／中村蓉	要チケット	94人
		ラーニング	13:30-15:00	knowing me, knowing you 世界のアートの 知の技法：オルタナティブなアートスクール ／ラーニング・プログラムのリサーチ	無料	9人
	半田	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	143人
19日 (月・祝)	芸文	パフォーマンス	15:00-16:00	『ジゼル』／中村蓉	要チケット	66人
		ラーニング	10:30-12:00	筆談ツアー	要美術展券	2人
			14:00-16:00	トークセッション「穴あきの風景」／徳重道朗	無料	8人
	半田	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	72人
21日 (水)	一宮	連携事業	10:00-12:00	あいちものづくり体感ツアー ／大名古屋ツアーズ	要チケット	10人
22日 (木)	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	32人
23日 (金・祝)	芸文	ラーニング	10:30-11:30	ベビーカーツアー	要美術展券	18人
	西尾	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！ （ワークショップ「心霊わしづかみ！幽霊 写真術」（第2回）／黒田大スケ）	無料	111人 （9人）
24日 (土)	芸文	ラーニング	12:00-17:00	ワークショップ「ほの国“市”」／井上唯	無料	71人
			13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
	連携事業	17:00-18:50	Concentus Musicus Meion 第1回コンサート 『Gloria～グローリア～』／名古屋音楽大学	要チケット	525人	
	西尾	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！ （ワークショップ「マスクをアップデート～ デコレーションマスク！！」／尾花賢一）	無料	256人 （10人）

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
25日 (日)	芸文	ラーニング	10:30-12:00 14:00-15:30	みえない・みえづらい方のためのツアー	無料	21人
			12:00-17:00	ワークショップ「ほの国“市”」／井上唯	無料	71人
			13:30-15:00	knowing me, knowing you 世界のアートの 知の技法：オルタナティブなアートスクール ／ラーニング・プログラムのリサーチ	無料	10人
		連携事業	15:30-18:15	第8回名古屋市民バンドフェスティバル 時空を超えた音楽の世界へ～多世代参加型 大合奏の挑戦～ ／名古屋市民バンドフェスティバル実行委員会	要チケット	962人
	常滑	現代美術	11:00-12:00 14:30-15:30	ワークショップ「ふくふくホイッスル」 ／黒田大スケ	要INAX入館料	45人
	西尾	連携事業	—	「あいち2022」ポップ・アップ！	無料	323人
26日 (月)	芸文	連携事業	18:45-20:40	ニンフェアール第17回公演『クセナキス生誕 100周年記念：究極の弦』／ニンフェアール	要チケット	82人
27日 (火)	芸文	連携事業	19:00-20:00	『らふいゆれふいゆ』／ラストラーダカンパニー	要チケット	163人
29日 (木)	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	26人
30日 (金)	芸文	パフォーマンス	19:30-20:30	『シネドキズム3 by music, photography and visual art』／今井智景	要チケット	123人

■ 10月

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
1日 (土)	芸文	パフォーマンス	14:00-15:00	『シネドキズム3 by music, photography and visual art』／今井智景	要チケット	81人
		ラーニング	10:30-12:30	トークイベント「眞島竜男による『MA・RU・ GO・TO あいち feat. 三英傑』プロジェクト 報告会」／眞島竜男	無料	15人
			13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
			14:00-15:00	日本語以外が母語 (Native Language) の 人のためのツアー	要美術展券	7人
			15:00-16:30	トークイベント「「ドライブ・レコーダー」 プロジェクト報告会」 ／AHA! [Archive for Human Activities ／人類の営みのためのアーカイブ]	無料	17人
2日 (日)	芸文	パフォーマンス	17:00-18:00	『表象なんかこわくない』／ラビア・ムルエ ※終演後ポストトークあり	要チケット	116人
		ラーニング	13:30-15:00	knowing me, knowing you 世界のアートの 知の技法：オルタナティブなアートスクール ／ラーニング・プログラムのリサーチ	無料	12人
	オンライン	現代美術	19:00-	アーティストトーク／奥村雄樹	無料	—
4日 (火)	芸文	パフォーマンス	13:00-15:00 17:00-19:00 30分おきに入場	『太陽との対話 (VR)』 ／アピチャップン・ウィーラセタクン	要チケット	129人
			19:00-20:00	『表象なんかこわくない』／ラビア・ムルエ	要チケット	163人
5日 (水)	芸文	パフォーマンス	13:00-15:00 17:00-19:00 30分おきに入場	『太陽との対話 (VR)』 ／アピチャップン・ウィーラセタクン	要チケット	137人
			18:00-19:30	PAチャンネル『VRはいかにパフォーマンス の領域を拡張するか？』	無料	80人

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
6日 (木)	芸文	パフォーマンスアート	13:00-15:00 17:00-19:00 30分おきに入場	『太陽との対話(VR)』 ／アピチャップン・ウィーラセタクン	要チケット	137人
			17:00-20:00 20分おきに入場	『クローラー』／百瀬文	要チケット	20人
	有松	現代美術	13:00-16:00	《有松手芸部》／宮田明日鹿	無料	25人
7日 (金)	芸文	パフォーマンスアート	11:00-20:00 20分おきに入場	『クローラー』／百瀬文	要チケット	50人
			13:00-15:00 17:00-19:00 30分おきに入場	『太陽との対話(VR)』 ／アピチャップン・ウィーラセタクン	要チケット	142人
8日 (土)	芸文	パフォーマンスアート	11:00-20:00 20分おきに入場	『クローラー』／百瀬文	要チケット	45人
			13:00-15:00 17:00-19:00 30分おきに入場	『太陽との対話(VR)』 ／アピチャップン・ウィーラセタクン	要チケット	138人
		ラーニング	13:00-16:00	勝手にRADIO	無料	—
	一宮	現代美術	18:00-19:00	アーティストトーク／余政達(ユ・チェンタ) from 西瓜姉妹(ウォーターメロン・シスターズ)	無料	80人
	常滑	現代美術	14:00-15:00	スライドトーク／服部文祥	要美術展券	—
	有松	現代美術	17:15-18:30	アーティストトーク／AKI INOMATA	要美術展券	40人
	ミリオン座	パフォーマンスアート	17:30-19:00 19:30-21:00	『ODDLANDS』／『SHADOW』 ／バック・トゥ・バック・シアター	要チケット	115人
	円頓寺	連携事業	13:00-21:00	音楽イベント『STILLING ALIVE MUSIC CLUB』	無料	1,464人
	オンライン	ラーニング	10:00-11:30	knowing me, knowing you 世界のアートの 知の技法: オルタナティブなアートスクール ／ラーニング・プログラムのリサーチ ※ゲストの都合により中止	無料	—
9日 (日)	芸文	パフォーマンスアート	11:00-20:00 20分おきに入場	『クローラー』／百瀬文	要チケット	47人
			13:00-15:00 17:00-19:00 30分おきに入場	『太陽との対話(VR)』 ／アピチャップン・ウィーラセタクン	要チケット	136人
		ラーニング	15:00-16:30	トークイベント「『ドライブ・レコーダー』 プロジェクト報告会」 ／AHA! [Archive for Human Activities /人類の営みのためのアーカイブ]	無料	25人
	一宮	現代美術	15:00-16:00	パフォーマンス『approach 13.0』／迎英里子	無料	133人
			18:00-20:00	街歩きパフォーマンス／余政達(ユ・チェンタ) from 西瓜姉妹(ウォーターメロン・シスターズ)	無料	—
	常滑	現代美術	14:00-15:00	スライドトーク／服部文祥	要美術展券	—
	ミリオン座	パフォーマンスアート	17:30-19:00	『ODDLANDS』／『SHADOW』 ／バック・トゥ・バック・シアター	要チケット	74人
	円頓寺	連携事業	13:00-21:00	音楽イベント『STILLING ALIVE MUSIC CLUB』	無料	1,032人
	オンライン	パフォーマンスアート	19:30-20:30	ブルース・グランドウィンとのトーク ／バック・トゥ・バック・シアター	無料	—

日	会場	区分	時間	イベント名	入場	人数
10日 (月・祝)	芸文	現代美術	10:30-12:00	アーティストトーク／ローリー・アンダーソン	無料	67人
		パフォーミングアーツ	11:00-20:00 20分おきに入場	『クローラー』／百瀬文	要チケット	38人
			13:00-15:00 17:00-19:00 30分おきに入場	『太陽との対話(VR)』 ／アビチャップン・ウィーラセタクン	要チケット	120人
			ラーニング	13:30-16:00	座談会+パフォーマンス「壁をとび出せ！ MA・RU・GO・TO あいち！」／眞島竜男	無料
	常滑	現代美術	14:00-15:00	スライドトーク／服部文祥	要美術展券	—
			16:00-17:00	アーティストトーク／許家維(シュウ・ジャウェイ)	無料	35人
			17:30-18:15	ワークショップ「ふえフェス」／黒田大スケ	無料	330人
			18:30-19:30	アーティストトーク／黒田大スケ	無料	70人
	ミリオン座	パフォーミングアーツ	11:30-13:00	『ODDLANDS』／『SHADOW』 ／バック・トゥ・バック・シアター	要チケット	72人
	円頓寺	連携事業	13:00-21:00	音楽イベント『STILLING ALIVE MUSIC CLUB』	無料	1,460人

〈会場〉

全会場＝愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区(名古屋市)

芸文＝愛知芸術文化センター

一宮＝一宮市

常滑＝常滑市

有松＝有松地区(名古屋市)

芸創＝名古屋市芸術創造センター

ミリオン座＝伏見ミリオン座

長久手＝長久手市文化の家

蒲郡＝蒲郡市生命の海科学館

半田＝旧中埜半六邸、半田市役所

西尾＝西尾市文化会館

円頓寺＝円頓寺商店街・円頓寺本町商店街

VI 来場者数の状況等

1 来場者数

■ プログラム別、会場別

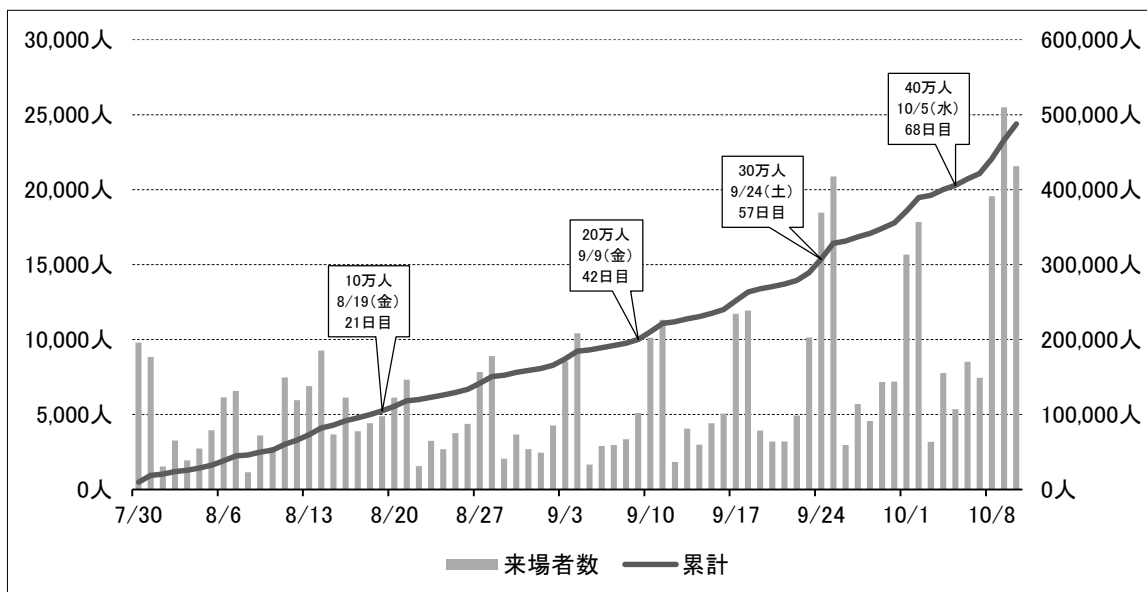
- ・ 最終的な来場者数は、487,834人となった。
- ・ プログラム別では、現代美術展の来場者(445,312人)が最も多く、全体の91.3%を占めている。
- ・ 現代美術展の来場者数を会場別で比較すると、愛知芸術文化センターが149,583人で最も多い。また、今回新たに展開した一宮会場では132,582人、常滑会場では78,017人、有松会場では85,130人であった。

プログラム		来場者数	割合	内訳	
現代美術展		445,312人	91.3%	愛知芸術文化センター	149,583人 (33.6%)
				一宮会場	132,582人 (29.8%)
				常滑会場	78,017人 (17.5%)
				有松会場	85,130人 (19.1%)
				小計	445,312人 (100.0%)
パフォーマンスアート		4,614人	0.9%		
ラーニング・プログラム		26,377人	5.4%		
連携事業等	「あいち2022」 ポップ・アップ!	3,031人	0.6%	長久手市	922人 (30.4%)
				蒲郡市	976人 (32.2%)
				半田市	443人 (14.6%)
				西尾市	690人 (22.8%)
				小計	3,031人 (100.0%)
	舞台芸術公募プログラム		2,093人	0.4%	
芸術大学連携プロジェクト		1,538人	0.3%	※7月30日から10月10日まで	
イベント等		4,869人	1.0%		
計		487,834人	100.0%		

■ 開催日別

- ・ 一日あたりの平均来場者数は6,683人（平日3,944人、土・日・祝日11,632人）で、会期末に向かって増加した。（8月4,515人、9月6,565人、10月13,229人）
- ・ 会期中で来場者が最も多かったのは、最終日前日10月9日（日）の25,475人で、最終日10月10日（月・祝）の21,556人がそれに続いた。

7月				8月				9月				10月			
日目	日	来場者数 (人)	累計 (人)	日目	日	来場者数 (人)	累計 (人)	日目	日	来場者数 (人)	累計 (人)	日目	日	来場者数 (人)	累計 (人)
1	30(土)	9,794	9,794	3	1(月)	1,526	20,153	34	1(木)	2,427	161,018	64	1(土)	15,653	371,202
2	31(日)	8,833	18,627	4	2(火)	3,244	23,397	35	2(金)	4,249	165,267	65	2(日)	17,840	389,042
				5	3(水)	1,929	25,326	36	3(土)	8,531	173,798	66	3(月)	3,174	392,216
				6	4(木)	2,721	28,047	37	4(日)	10,414	184,212	67	4(火)	7,751	399,967
				7	5(金)	3,922	31,969	38	5(月)	1,645	185,857	68	5(水)	5,335	405,302
				8	6(土)	6,134	38,103	39	6(火)	2,883	188,740	69	6(木)	8,504	413,806
				9	7(日)	6,558	44,661	40	7(水)	2,956	191,696	70	7(金)	7,446	421,252
				10	8(月)	1,130	45,791	41	8(木)	3,325	195,021	71	8(土)	19,551	440,803
				11	9(火)	3,597	49,388	42	9(金)	5,078	200,099	72	9(日)	25,475	466,278
				12	10(水)	2,805	52,193	43	10(土)	10,115	210,214	73	10(月・祝)	21,556	487,834
				13	11(木・祝)	7,448	59,641	44	11(日)	11,297	221,511				
				14	12(金)	5,933	65,574	45	12(月)	1,811	223,322				
				15	13(土)	6,891	72,465	46	13(火)	4,040	227,362				
				16	14(日)	9,248	81,713	47	14(水)	2,972	230,334				
				17	15(月)	3,662	85,375	48	15(木)	4,394	234,728				
				18	16(火)	6,103	91,478	49	16(金)	5,053	239,781				
				19	17(水)	3,860	95,338	50	17(土)	11,699	251,480				
				20	18(木)	4,393	99,731	51	18(日)	11,911	263,391				
				21	19(金)	4,866	104,597	52	19(月・祝)	3,914	267,305				
				22	20(土)	6,118	110,715	53	20(火)	3,189	270,494				
				23	21(日)	7,299	118,014	54	21(水)	3,187	273,681				
				24	22(月)	1,534	119,548	55	22(木)	4,916	278,597				
				25	23(火)	3,219	122,767	56	23(金・祝)	10,128	288,725				
				26	24(水)	2,668	125,435	57	24(土)	18,451	307,176				
				27	25(木)	3,736	129,171	58	25(日)	20,874	328,050				
				28	26(金)	4,358	133,529	59	26(月)	2,947	330,997				
				29	27(土)	7,827	141,356	60	27(火)	5,683	336,680				
				30	28(日)	8,884	150,240	61	28(水)	4,549	341,229				
				31	29(月)	2,022	152,262	62	29(木)	7,151	348,380				
				32	30(火)	3,652	155,914	63	30(金)	7,169	355,549				
				33	31(水)	2,677	158,591								



■ 現代美術展の来場者内訳

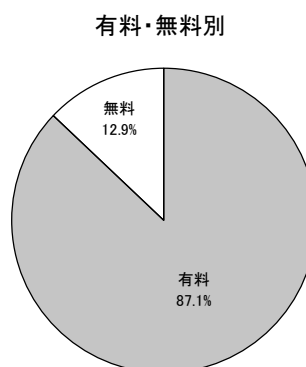
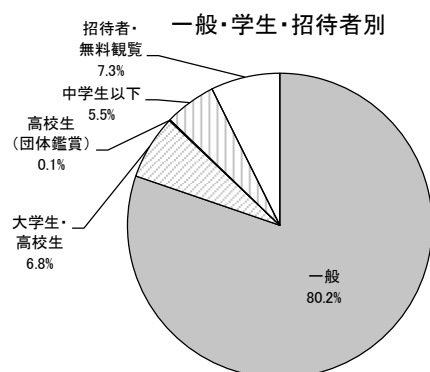
- ・ 現代美術展の来場者については、一般来場者が80.2%を占めており、続いて大学生・高校生が7.0%、中学生以下の来場者が5.5%となっている。
- ・ 有料・無料の別でみると、有料来場者(一般・大学生・高校生)が87.1%、無料来場者(高校生(団体鑑賞)・中学生以下・招待者)が12.9%となっている。

○ 一般・学生・招待者別

一般	学生 (大学生・高校生)	高校生 (団体鑑賞)	中学生以下	招待者・無料観覧	計
357,359人 (80.2%)	30,420人 (6.8%)	568人 (0.1%)	24,306人 (5.5%)	32,659人 (7.3%)	445,312人 (100.0%)

○ 有料・無料別

有料	無料	計
387,779人 (87.1%)	57,533人 (12.9%)	445,312人 (100.0%)



2 チケットの販売状況

■ 現代美術展

- ・ 現代美術展全体では、チケットの販売枚数は62,449枚となった。
- ・ 特別販売券の販売は22,585枚で全体の36.2%を占めた。
- ・ 会場が県内広域にわたったこともあり、チケット販売枚数に占めるアップグレードを含めたフリーパス券の比率が35.0%を占めた。また、チケット販売単価(チケット売上高/販売枚数)は、1,777円/枚となった。

チケットの種類		特別販売券	前売券	会期中販売券		計	
					割引		
フリーパス	一般	4,852枚	4,599枚	7,141枚	82枚	16,674枚	18,969枚 (30.4%)
	学生	735枚	417枚	1,132枚	11枚	2,295枚	
1DAY パス	一般	16,663枚	944枚	18,908枚	165枚	36,680枚	40,586枚 (65.0%)
	学生	335枚	172枚	3,375枚	24枚	3,906枚	
アップグレード	一般			2,607枚		2,607枚	2,894枚 (4.6%)
	学生			287枚		287枚	
計		22,585枚 (36.2%)	6,132枚 (9.8%)	33,732枚 (54.0%)		62,449枚 (100.0%)	
売上額		31,493,800円	13,794,400円	65,695,000円		110,983,200円	

■ パフォーミングアーツ

- ・ 愛知県芸術劇場を中心に、14演目207公演開催し、4,004枚(11,130,600円)のチケットを販売した。

	演目	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	販売金額 (円)
1	トラジャル・ハレル 『シスター あるいは 彼が体を埋めた — Sister or He Buried the Body』 【愛知県芸術劇場小ホール／2公演】	238	一般	78	1,500	117,000
			U25	38	1,000	38,000
			一般(当日)	48	2,000	96,000
			U25(当日)	5	1,500	7,500
			ペア	14	1,350	18,900
			セット	55	1,500	82,500
2	トラジャル・ハレル 『ダンサー・オブ・ザ・イヤー』 【愛知県芸術劇場小ホール／2公演】	228	一般	87	2,000	174,000
			U25	33	1,500	49,500
			一般(当日)	36	2,500	90,000
			U25(当日)	1	2,000	2,000
			ペア	16	1,800	28,800
			セット	55	1,500	82,500
3	スティーヴ・ライヒ 『スティーヴ・ライヒ～スペシャル・コンサート』 【名古屋市芸術創造センター／2公演】	972	一般	577	4,500	2,596,500
			U25	79	3,000	237,000
			一般(当日)	65	5,000	325,000
			U25(当日)	14	3,500	49,000
			ペア	208	4,050	842,400
			割引(招待A)	8	3,500	28,000
割引(招待B)	21	1,000	21,000			
4	バック・トゥ・バック・シアター 『ODDLANDS』* 【愛知県芸術劇場大リハーサル室／7公演】	—	—	—	—	—
5	バック・トゥ・バック・シアター 『ODDLANDS/SHADOW』* 【伏見ミリオン座／4公演】	238	—	—	—	—
6	塩見允枝子 パフォーマンス作品『～音と詞と行為の時空～』 詞と概念を演奏する 【愛知県芸術劇場大リハーサル室／2公演】	155	一般	41	2,000	82,000
			U25	5	1,500	7,500
			一般(当日)	19	2,500	47,500
			U25(当日)	1	2,000	2,000
			ペア	6	1,800	10,800
			セット	83	1,500	124,500
7	塩見允枝子 パフォーマンス作品『～音と詞と行為の時空～』 ピアノ×パフォーマンス 【愛知県芸術劇場大リハーサル室／2公演】	150	一般	30	2,000	60,000
			U25	5	1,500	7,500
			一般(当日)	23	2,500	57,500
			U25(当日)	1	2,000	2,000
			ペア	10	1,800	18,000
			セット	81	1,500	121,500

	演目	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	販売金額 (円)
8	足立智美 『音響詩ソロ・パフォーマンス』 【愛知県芸術劇場大リハーサル室／2公演】	80	一般	46	2,000	92,000
			U25	6	1,500	9,000
			一般(当日)	14	2,500	35,000
			U25(当日)	2	2,000	4,000
			ペア	12	1,800	21,600
9	ジョン・ケージ 『ユーロペラ3&4』 【愛知県芸術劇場小ホール／2公演】	236	一般	166	3,800	630,800
			U25	18	2,500	45,000
			一般(当日)	1	4,300	4,300
			U25(当日)	1	3,000	3,000
			ペア	40	3,420	136,800
			割引(招待)	10	3,000	30,000
10	中村蓉 『ジゼル』 【愛知県芸術劇場小ホール／3公演】	253	一般	174	2,500	435,000
			U25	28	1,500	42,000
			一般(当日)	15	3,000	45,000
			U25(当日)	4	2,000	8,000
			ペア	32	2,250	72,000
11	今井智景 『シネグドキズム3 by music, photography and visual art』 【愛知県芸術劇場小ホール／2公演】	127	一般	79	2,500	197,500
			U25	15	1,500	22,500
			一般(当日)	18	3,000	54,000
			U25(当日)	3	2,000	6,000
			ペア	12	2,250	27,000
12	ラビア・ムルエ 『表象なんかこわくない』 【愛知県芸術劇場小ホール／2公演】	229	一般	152	3,000	456,000
			U25	22	2,000	44,000
			一般(当日)	24	3,500	84,000
			U25(当日)	5	2,500	12,500
			ペア	26	2,700	70,200
13	アピチャップン・ウィーラセタクン 『太陽との対話(VR)』 【愛知県芸術劇場大リハーサル室／68公演】	924	一般	727	3,000	2,181,000
			U25	53	2,000	106,000
			一般(当日)	124	3,500	434,000
			U25(当日)	20	2,500	50,000
14	百瀬文 『クローラー』 【愛知県芸術劇場小ホール／107公演】	174	一般	170	2,000	340,000
			U25	4	1,500	6,000
			一般(当日)	0	2,500	0
			U25(当日)	0	2,000	0
計		4,004		3,766		11,130,600

※バック・トゥ・バック・シアターの『ODDLANDS』は現代美術展のチケットで入場可能であり、『ODDLANDS/SHADOW』は販売収益の管理を伏見ミリオン座が行うため、販売金額等の記載は省略している。

3 アンケート調査結果

- ・ 来場者の満足度や要望・意見等を把握するため、現代美術展、パフォーマンスアート、「あいち2022」ポップ・アップ！の来場者へのアンケート調査を行った。
- ・ また、会期後には、ボランティアや各種プログラムへの参加団体等を対象とした関係者へアンケートを行った。

(1) 来場者アンケート

区分	対象者数	回収数	回収割合	該当ページ
現代美術展	487,834人	3,210人	0.7%	96ページ
パフォーマンスアート	4,614人	955人	20.7%	105ページ
「あいち2022」ポップ・アップ！	3,031人	464人	15.3%	109ページ

■ 現代美術展

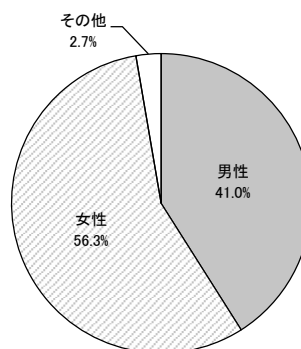
実施時期	8月～10月
調査対象	現代美術展の来場者
配布・回収方法	会場出入口付近において、アンケート用紙を配付して実施
回収数／来場者数	3,210人／487,834人(0.7%)

○ 回答者の属性

- ・ 性別では、女性が56.3%、男性が41.0%となっている。年齢別では、30代までの世代が41.1%を占め、40代以上が58.9%となっている。
- ・ 住まいでは、名古屋市内31.2%、愛知県内(名古屋市以外)33.5%、愛知県外(海外含む)35.3%となっている。
- ・ これまでに訪れたことのある芸術祭を聞いたところ、「あいちトリエンナーレ2019」(54.2%)、「あいちトリエンナーレ2010・2013・2016」(46.2%)の順となっており、芸術祭のリピーターが徐々に増えていく傾向が窺われる。
- ・ 一方で「訪れたことがない」と答えた方も25.2%と、新規の来場者も一定数みられた。

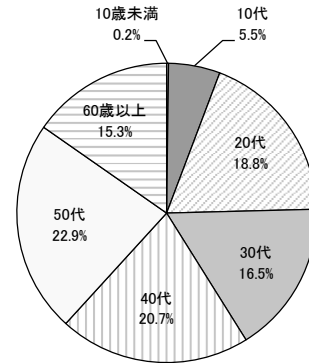
● 性別

選択肢	数	割合
男性	1,317	41.0%
女性	1,806	56.3%
その他(無回答を含む)	87	2.7%
計	3,210	100.0%



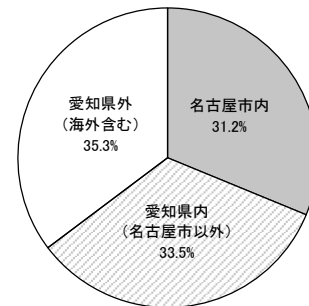
● 年齢

選択肢	数	割合
10歳未満	7	0.2%
10代	178	5.5%
20代	605	18.8%
30代	530	16.5%
40代	663	20.7%
50代	735	22.9%
60歳以上	492	15.3%
計	3,210	100.0%



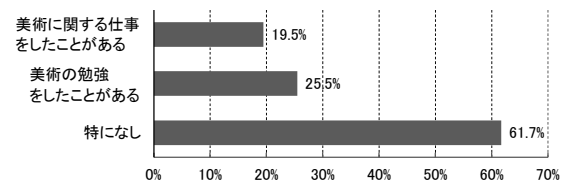
● お住まい

選択肢	数	割合
名古屋市内	1,002	31.2%
愛知県内(名古屋市以外)	1,076	33.5%
愛知県外(海外含む)	1,132	35.3%
計	3,210	100.0%



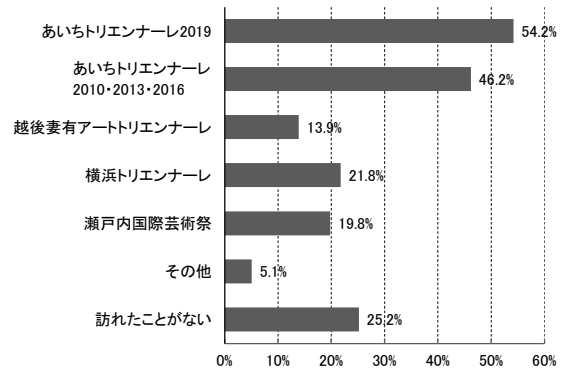
● 美術に関する仕事の経験の有無等(複数回答可)

選択肢	数	割合
美術に関する仕事をしたことがある	626	19.5%
美術の勉強をしたことがある	818	25.5%
特になし	1,980	61.7%
計	3,424	—



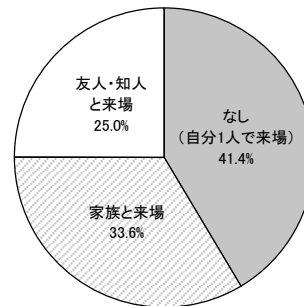
● これまでに訪れたことのある芸術祭（複数回答可）

選択肢	数	割合
あいちトリエンナーレ2019	1,741	54.2%
あいちトリエンナーレ2010・2013・2016	1,484	46.2%
越後妻有アートトリエンナーレ	447	13.9%
横浜トリエンナーレ	700	21.8%
瀬戸内国際芸術祭	637	19.8%
その他	164	5.1%
訪れたことがない	809	25.2%
計	5,982	—



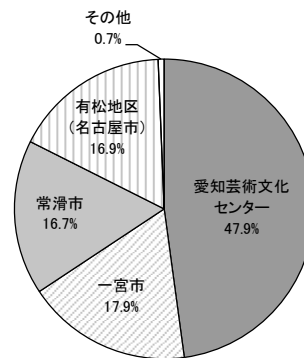
● 本日の同伴者数

選択肢	数	割合
なし（自分1人で来場）	1,330	41.4%
家族と来場	1,079	33.6%
友人・知人と来場	801	25.0%
計	3,210	100.0%



● アンケートの回答場所

選択肢	数	割合
愛知芸術文化センター	1,536	47.9%
一宮市	573	17.9%
常滑市	536	16.7%
有松地区（名古屋市）	544	16.9%
その他	21	0.7%
計	3,210	100.0%

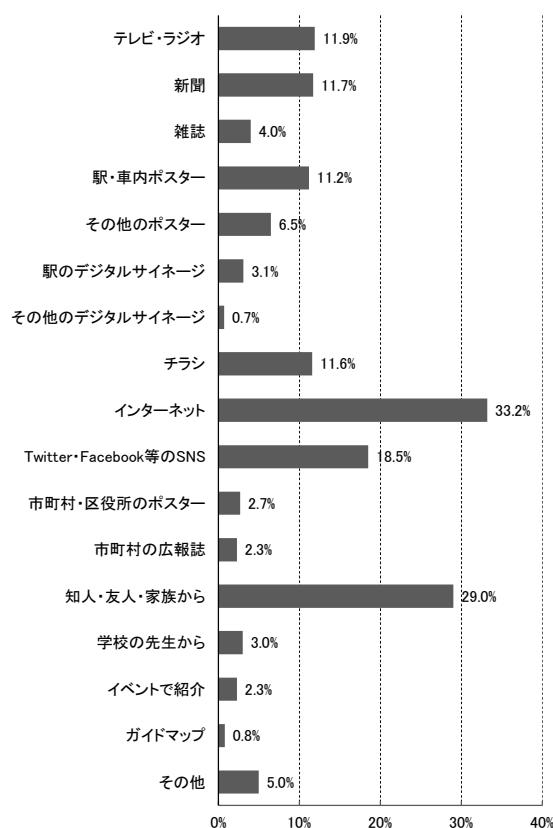


○ 来場理由

- ・「あいち2022」を何で知ったか聞いたところ、「インターネット」(33.2%)、「知人・友人・家族から」(29.0%)、「Twitter・Facebook等のSNS」(18.5%)の順で多くなっている。
- ・「あいち2022」に来た理由を聞いたところ、「美術に関心がある」(71.3%)、「過去のあいちトリエンナーレをきっかけに関心を持ったから」(33.6%)、「好きな作家の作品がある」(16.9%)の順で多くなっている。

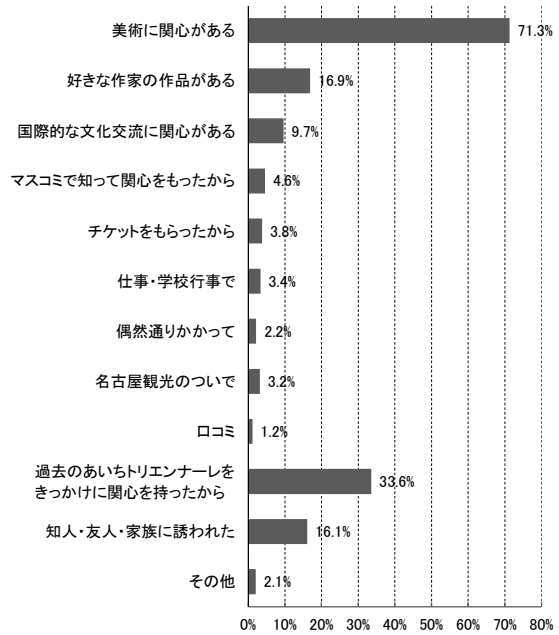
● 「あいち2022」を何で知り、来場しようと思いましたが(複数回答可)

選択肢	数	割合
テレビ・ラジオ	382	11.9%
新聞	376	11.7%
雑誌	128	4.0%
駅・車内ポスター	361	11.2%
その他のポスター	209	6.5%
駅のデジタルサイネージ	98	3.1%
その他のデジタルサイネージ	21	0.7%
チラシ	371	11.6%
インターネット	1,065	33.2%
Twitter・Facebook等のSNS	594	18.5%
市町村・区役所のポスター	88	2.7%
市町村の広報誌	74	2.3%
知人・友人・家族から	932	29.0%
学校の先生から	96	3.0%
イベントで紹介	74	2.3%
ガイドマップ	26	0.8%
その他	161	5.0%
計	5,056	—



●「あいち2022」に来た理由を教えてください(複数回答可)

選択肢	数	割合
美術に関心がある	2,290	71.3%
好きな作家の作品がある	542	16.9%
国際的な文化交流に関心がある	312	9.7%
マスコミで知って関心をもったから	147	4.6%
チケットをもらったから	121	3.8%
仕事・学校行事で	108	3.4%
偶然通りかかって	72	2.2%
名古屋観光のついで	104	3.2%
口コミ	38	1.2%
過去のあいちトリエンナーレをきっかけに関心を持ったから	1,079	33.6%
知人・友人・家族に誘われた	518	16.1%
その他	67	2.1%
計	5,398	—

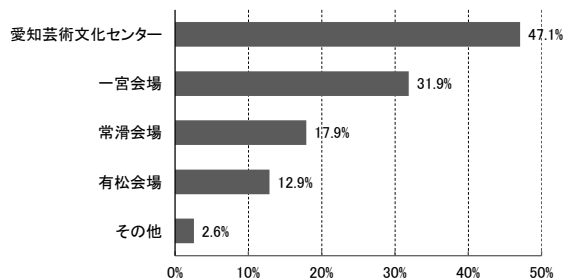


○ 現代美術展の感想

- ・ 面白かった会場については、「愛知芸術文化センター」が47.1%と最も高くなっている。
- ・ まちなか会場では、比較的、展示規模が大きかった「一宮会場」が31.9%と好評であった。
- ・ 現代美術展の展示作品の感想を聞いたところ、「大変良かった」「良かった」が合わせて86.6%となっており、全体的に好評であった。

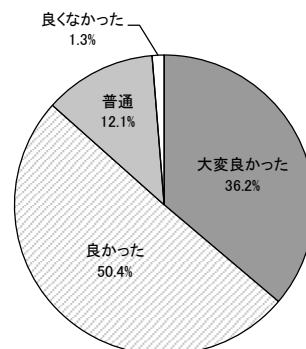
● 最も面白かった会場はどこでしたか(複数回答可)

選択肢	数	割合
愛知芸術文化センター	1,512	47.1%
一宮会場	1,025	31.9%
常滑会場	576	17.9%
有松会場	415	12.9%
その他	83	2.6%
計	3,611	—



● 現代美術展の展示作品の感想をお聞かせください

選択肢	数	割合
大変良かった	1,161	36.2%
良かった	1,619	50.4%
普通	389	12.1%
良くなかった	41	1.3%
計	3,210	100.0%

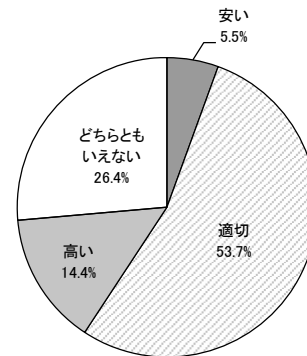


○ 運営について

- ・ 入場料金について、1DAYパスについては、「安い」「適切」が59.3%であった。また、フリーパスについては、「安い」「適切」が75.6%であった。
- ・ 開催時期については、「今の時期でよい」が46.8%で最も多いが、「遅いほうがよい」も33.1%あった。

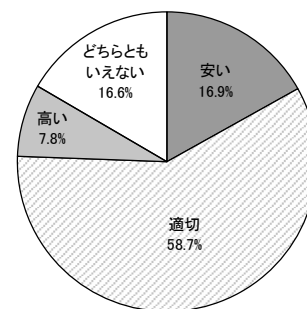
● 1DAYパスの入場料金についてどう思われましたか

選択肢	数	割合
安い	178	5.5%
適切	1,724	53.7%
高い	461	14.4%
どちらともいえない	847	26.4%
計	3,210	100.0%



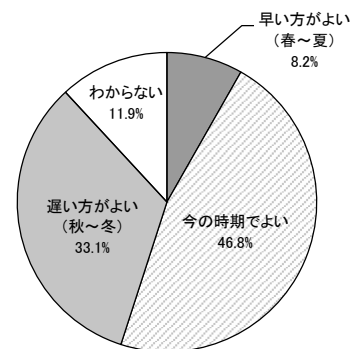
● フリーパスの入場料金についてどう思われましたか

選択肢	数	割合
安い	542	16.9%
適切	1,884	58.7%
高い	251	7.8%
どちらともいえない	533	16.6%
	3,210	100.0%



● 開催時期についてどう思われましたか

選択肢	数	割合
早い方がよい(春～夏)	264	8.2%
今の時期でよい	1,501	46.8%
遅い方がよい(秋～冬)	1,064	33.1%
わからない	381	11.9%
	3,210	100.0%

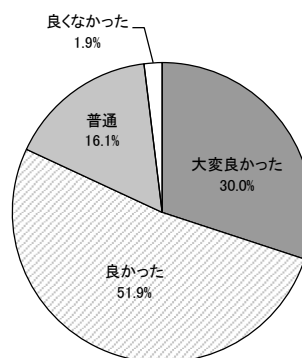


○「あいち2022」全体について

- ・「あいち2022」全体の感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせると81.9%であり、全般的に好評であった。
- ・国際芸術祭にはどんな効果があると思うか聞いたところ、「文化芸術の発展」(61.2%)や「文化芸術の日常生活への浸透」(54.1%)が多かったが、これらに次いで、「地域の魅力の向上」(44.8%)や「地域の活性化」(39.9%)という回答も多くあり、地域づくりへの効果も期待されていることが窺われる。
- ・次回3年後の国際芸術祭に行きたいかどうかという質問については、79.7%が「絶対行く」「たぶん行く」と回答した。

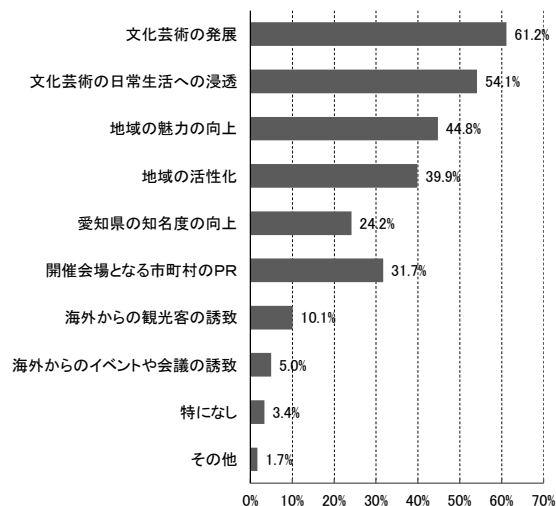
●「あいち2022」について、全体的な感想をお聞かせください

選択肢	数	割合
大変良かった	964	30.0%
良かった	1,666	51.9%
普通	518	16.1%
良くなかった	62	1.9%
計	3,210	100.0%



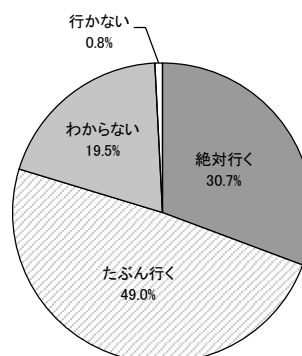
●国際芸術祭には、どんな効果があると思いますか(複数回答可)

選択肢	数	割合
文化芸術の発展	1,965	61.2%
文化芸術の日常生活への浸透	1,736	54.1%
地域の魅力の向上	1,439	44.8%
地域の活性化	1,282	39.9%
愛知県の知名度の向上	777	24.2%
開催会場となる市町村のPR	1,016	31.7%
海外からの観光客の誘致	324	10.1%
海外からのイベントや会議の誘致	159	5.0%
特になし	110	3.4%
その他	53	1.7%
計	8,861	—



●次回3年後の国際芸術祭に行きたいと思いますか

選択肢	数	割合
絶対行く	985	30.7%
たぶん行く	1,574	49.0%
わからない	625	19.5%
行かない	26	0.8%
計	3,210	100.0%



○ 自由意見抜粋

《次回の国際芸術祭がより良いものとなるための御意見》

- ・ 真夏の芸術祭も楽しいですが、涼しい時期で現代アートを鑑賞したいと思った。
- ・ 次回も愛知県の別の町がまわれるとよいです。有松、常滑の町並み楽しかった。
- ・ 体験コーナーを増やしてほしい。
- ・ VR企画を増やしてほしい。
- ・ 名古屋市以外の都市会場の充実。
- ・ アーティストの滞在制作の充実。
- ・ 宣伝が足りないと思います。県内でも知らない人が多い。
- ・ 伝わりやすさ、直感に訴えるもの、そういう作品があれば良いと思う。
- ・ 以前のように周辺の小さな会場が設置され見てまわれる環境が欲しい。名古屋が芸術文化センターだけであるのは寂しく感じる。
- ・ 説明文が硬くて専門的過ぎてわかりづらいので、中学生でもわかり楽しめる文章を希望。
- ・ 地域と関わりの強いインスタレーションにひかれる。
- ・ 来場者と作品がコラボできるポイントが多いとよい。
- ・ 日本の若いアーティストをもっと紹介してほしい。
- ・ 子連れで見て回るのに困難を感じるので、第1回の時のように、子供が参加できるワークショップなどを開催してほしい。
- ・ 全体を通して映像作品が多すぎた。1点20分前後1人の作家が何点かある場合もあり、疲れてしまう。観覧の時間配分も読めない。
- ・ コロナに負けずに続いていくとよい。
- ・ 普段、日常生活と違う感覚や感情を体感できる作品に出会えたらなにかしらの行動になりえるかもしれない。そのような作品を展示して欲しい。
- ・ 体験型の作品やスタンプラリーで作品が貰えると嬉しい。
- ・ トリエンナーレの名前を外してしまったから、今まで行っていた人が、始まったことに、気づいていない。また名前は戻す必要がある。
- ・ キュレーターやレクチャーの方が対人で行う解説や、ワークショップ(解説については動画や音声などもよいかもしれない)を行うとより深く展示に関われると思う。

《会場運営に関する御意見》

- ・ボランティアや地元の方々がみなさん親切で、それも大きな魅力だと思う。
- ・ボランティアさんとの交流がとても楽しかった。
- ・ボランティアが親切。ときどき、作品鑑賞の妨げになる位置に立っているのは改善してほしい。
- ・ボランティアの解説がよかった。よく勉強されています。
- ・対話型をとりいれたガイドツアーに参加したが、皆さんの感想が出てきて面白かった。
- ・音声ガイドがあるとよい。
- ・アプリで作品の解説や作品のルートを案内してくれるものを作ってほしい。
- ・展示の場所が分かりづらかった。案内表示が少なく、会場の案内表示も目立ちにくいように感じた。
- ・まちなかの案内が少なく、わかりにくい場所もあった。
- ・くつを脱ぐところが多かったので、来場時の注意として前もって周知してほしい。
- ・休憩場所も設けてほしい。
- ・ホームページで、映像作品の開始時刻や所要時間がわかりやすいと嬉しい。
- ・エリア毎に展示会場を周遊するシャトルバスがあると良い。
- ・交通機関をもっと発達させ会場へ周りやすいともっといいと思います。
- ・会期の後半になると、混んできて作品をゆっくり見られなくなると感じる。前半の当日用チケットを割引するなどして、観客を分散する取り組みをしてほしい。
- ・会場別チケットを販売してほしい。
- ・チケットを電子で購入しましたが一度紙のチケットに交換する必要があるのは少し手間に感じた。QRコードでそのまま各会場の入場ができるとよいと思う。
- ・電子マネーを使えるようにしてほしい。

《開催会場に関する御意見》

- ・愛知芸術文化センターだけで相当なボリュームなので、充実した内容に満足した。
- ・有松、一宮、常滑のようなサテライト会場的なものを積極的に続けてほしい。地域の中で元々ある魅力と作品とが組み合わせあって大変いいと思う。
- ・ふだんは入れない建物等で展示があると、作品だけではなく楽しさを味わえていい。
- ・作品の素晴らしさはもとより、展示場所や町の歴史との調和も強く感じた。
- ・まちなかは建物との融合がおもしろくてよかった。
- ・会場が広範囲に分散して見に行くのに大変だった。開催場所をコンパクトにまとめてほしい。
- ・各会場が離れており、遠方からの来場者にはハードルが高い。
- ・とても楽しく、文化歴史について考えさせられた。
- ・もっといろいろな場所で開催してもらえると、県内の行ったことがない土地へ行ききっかけになる。

■ パフォーミングアーツ

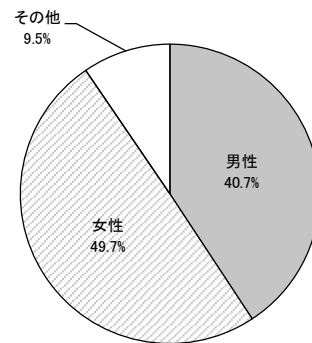
実施時期	7月30日(土)～10月10日(月・祝)
調査対象	パフォーミングアーツ(愛知県芸術劇場大リハーサル室・小ホール、名古屋市芸術創造センター、伏見ミリオン座)14演目207公演の来場者
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、公演終了後に出口付近で回収、またはインターネットを利用して回答
回収数/来場者数	955人/4,614人(20.7%)

- ・ 回答者の年齢をみると、40代が22.5%と一番多く、その他は20代から70歳以上まで幅広いが、10代は1.9%と少ない。
- ・ 御覧になったきっかけは、回答者の54.5%が「作品への興味・関心」、51.2%が「アーティスト・出演者への興味・関心」と答えているが、「国際芸術祭「あいち」の催しに興味があるから」も29.3%と多くなっている。
- ・ 催しの感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせて86.4%を占め、大変好評であった。

○ 回答者の属性

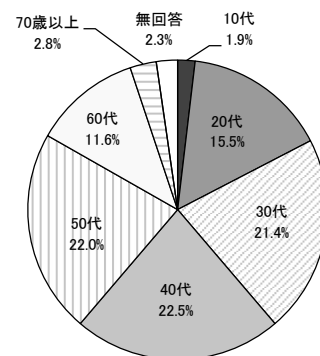
● 性別

選択肢	数	割合
男性	389	40.7%
女性	475	49.7%
その他(無回答を含む)	91	9.5%
計	955	100.0%



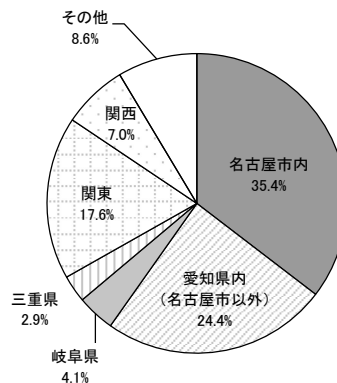
● 年齢

選択肢	数	割合
10代	18	1.9%
20代	148	15.5%
30代	204	21.4%
40代	215	22.5%
50代	210	22.0%
60代	111	11.6%
70歳以上	27	2.8%
無回答	22	2.3%
計	955	100.0%



● お住まい

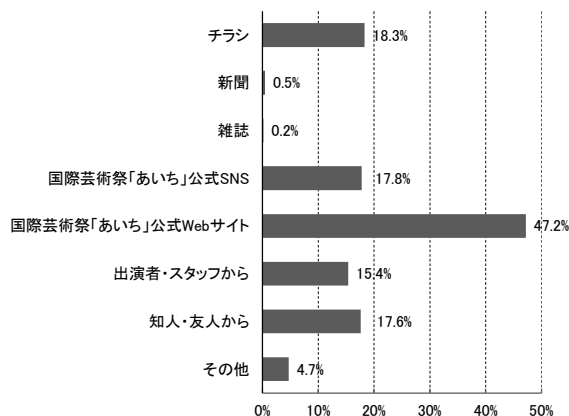
選択肢	数	割合
名古屋市内	338	35.4%
愛知県内(名古屋市以外)	233	24.4%
岐阜県	39	4.1%
三重県	28	2.9%
関東	168	17.6%
関西	67	7.0%
その他(無回答を含む)	82	8.6%
計	955	100.0%



○ 来場理由

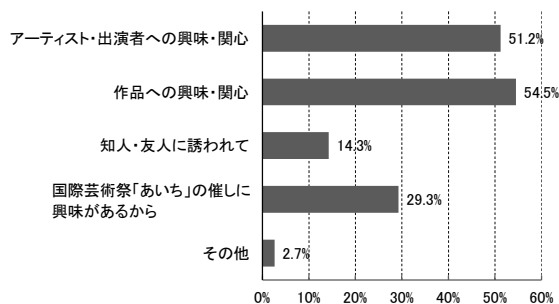
● 本日の催しはどこでお知りになりましたか(複数回答可)

選択肢	数	割合
チラシ	175	18.3%
新聞	5	0.5%
雑誌	2	0.2%
国際芸術祭「あいち」公式SNS	170	17.8%
国際芸術祭「あいち」公式Webサイト	451	47.2%
出演者・スタッフから	147	15.4%
知人・友人から	168	17.6%
その他	45	4.7%
計	1,163	—



● 本日の催しを御覧になったきっかけは何ですか(複数回答可)

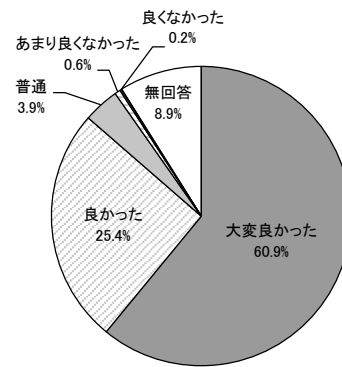
選択肢	数	割合
アーティスト・出演者への興味・関心	489	51.2%
作品への興味・関心	520	54.5%
知人・友人に誘われて	137	14.3%
国際芸術祭「あいち」の催しに興味があるから	280	29.3%
その他	26	2.7%
計	1,452	—



○ 催しの感想

● 本日の催しはいかがでしたか

選択肢	数	割合
大変良かった	582	60.9%
良かった	243	25.4%
普通	37	3.9%
あまり良くなかった	6	0.6%
良くなかった	2	0.2%
無回答	85	8.9%
計	955	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・座ったままのダンスは初めてだったので驚いた。
(トラジャル・ハレル『シスター あるいは 彼が体を埋めた — Sister or He Buried the Body』)
- ・ダンスはあまりよくわかる方ではありませんが、トラジャル・ハレルさんのパワーに圧倒されて時間があっという間に過ぎたように思います。とてもおもしろかったです。ありがとうございます。
(トラジャル・ハレル『ダンサー・オブ・ザ・イヤー』)
- ・弦楽4重奏、エレキギター、ダブルセクステッドが印象的。とくにダブルセクステッドは、ダイナミックでかっこよかった。
(スティーヴ・ライヒ『スティーヴ・ライヒ〜スペシャル・コンサート』)
- ・音楽や楽器が好きで、関心を持ち、観させていただきました。作者の方や出演者の方は存じ上げなかったのですが、最初から最後まで予想できない展開に、ゾクゾクしました。
(塩見允枝子「塩見允枝子パフォーマンス作品『～音と詞と行為の時空～』詞と概念を演奏する」)
- ・音楽は詳しくないのですが、とてもよい時間を過ごしたと感じました。ピアノの音がとても美しく澄んで響いて心地よかったですし、展示や過去作品とのつながりのためとはいえ落下のイベントが見れたのもとても良かった。音楽が自分の知っている音楽よりもっと自由に楽しく複雑なものである一端を拝見したところもちとなりました。ありがとうございます。
(塩見允枝子「塩見允枝子パフォーマンス作品『～音と詞と行為の時空～』ピアノ×パフォーマンス」)
- ・本当に、生まれてはじめての体験でした。宇宙や鳥やお経や、いろいろなことが思い浮かびましたが、そのどれともちがう、自由な世界でした。ありがとうございました。(足立智美『音響詩ソロ・パフォーマンス』)
- ・上演した意味は大きく、ケージの意図したことも伝わり、何よりも演者の皆さんの力量は素晴らしいが、偶然の音楽というのは音自体に意味はあまりないことが分かった。(ジョン・ケージ『ユーロペラ3&4』)
- ・クラシックな音楽から現代音楽、ポップスの音などさまざまなジャンルに合わせた踊りからコントまで笑いから悲しみ、苦しみ、葛藤など言葉にしがたい感情のふり幅を感じました。指先までから足先、全身に渡って動きが様々な気持ちが表現されている感じがして終始圧倒されたり混乱したりとあちこちに気持ちが揺さぶられました。とにもかくにもダンスの表現の素晴らしさに感動しました。(中村蓉『ジゼル』)
- ・能のようなパフォーマンスと想像していたら裏切られた。ビジュアルと言葉、語りのような歌とのコラボでした。
(今井智景『シネクドキズム3 by music, photography and visual art』)
- ・シンプルながら視覚的驚きのある作品ももちろんですが、アフタートークやパンフレットにてレバノンの歴史や文化的背景を知りさらに理解が深まりました。今後も日本とは異なる歴史&文化的背景を持つ作品(演劇)を取り上げていただきたいです。
(ラビア・ムルエ『表象なんかこわくない』)
- ・涙がボロボロとこぼれてきました。何とも言えない、この感情、自分の身体、他者の身体をものすごく考える時間でした。しばらく忘れられない思い出になります。本当にありがとうございました。(百瀬文『クローラー』)
- ・初めてのVR体験でした。周囲に自分と同じような観客が何人かいて同じものを見ている状況が、「私はこの場の一部なのだ」と感じさせる効果があり、作品を見ていながらも没入よりは客観、他者との関係に意識が向いたことも新鮮でした。自分はこの場を構成するパーツであり、しかし自分と同じ存在はひとつもなく、関係しあって互いが成り立っている。少し不安で、でも楽しい時間でした。今後もこのような他では味わえないものに触れたいと強く思います。(アピチャップン・ウィーラセタクン『太陽との対話(VR)』)
- ・オーストラリアのリサーチが行き届いていて、現代的で普遍的なテーマを怯まず見事に描いていて素晴らしい作品でした。
(バック・トゥ・バック・シアター『ODDLANDS/SHADOW』)

■「あいち2022」ポップ・アップ！

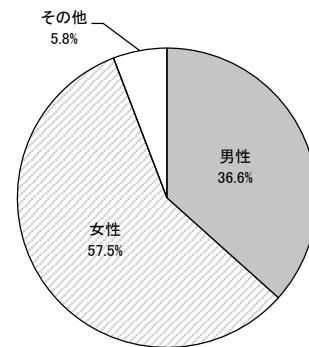
実施時期	「あいち2022」ポップ・アップ！の開催日
調査対象	「あいち2022」ポップ・アップ！の来場者（4会場）
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、出口付近に設置したアンケートボックスにて回収
回収数／来場者数	464人／3,031人（15.3%）

- ・ おおよそ各年代が満遍なく来場している。また、住まいについては、開催市内からの来場が5割近くを占め、地域に近いイベントであった。
- ・ 展示内容の感想については、「良かった」と「まあ良かった」が合わせて79.7%を占め、好評であった。また、展示を見て「あいち2022」の本展会場に行ってみたいと思ったかという質問において、3割強の方が「思った」と回答し、現代美術の普及という当展の役割を果たすことができた。

○ 回答者の属性

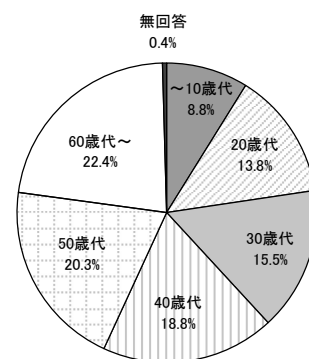
● 性別

選択肢	数	割合
男性	170	36.6%
女性	267	57.5%
その他	27	5.8%
計	464	100.0%



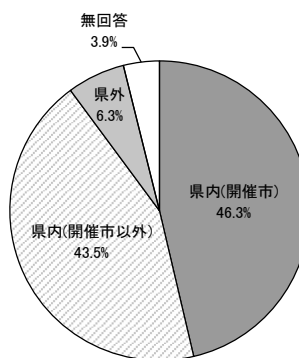
● 年齢

選択肢	数	割合
～10歳代	41	8.8%
20歳代	64	13.8%
30歳代	72	15.5%
40歳代	87	18.8%
50歳代	94	20.3%
60歳代～	104	22.4%
無回答	2	0.4%
計	464	100.0%



● お住まい

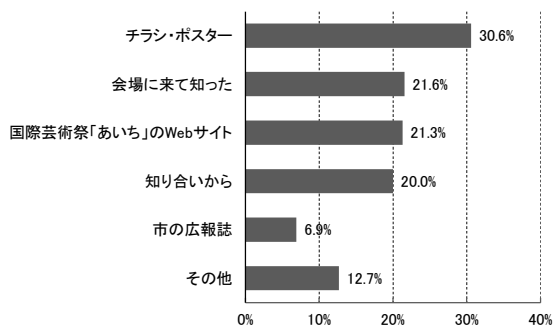
選択肢	数	割合
県内(開催市)	215	46.3%
県内(開催市以外)	202	43.5%
県外	29	6.3%
無回答	18	3.9%
計	464	100.0%



○ 来場理由

● ポップ・アップ！をどのようにお知りになりましたか(複数回答可)

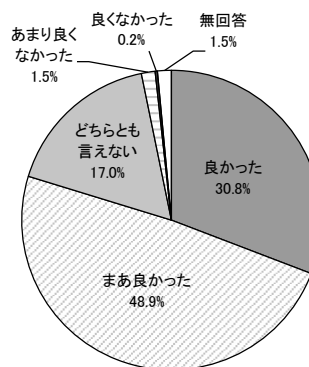
選択肢	数	割合
チラシ・ポスター	142	30.6%
会場に来て知った	100	21.6%
国際芸術祭「あいち」のWebサイト	99	21.3%
知り合いから	93	20.0%
市の広報誌	32	6.9%
その他	59	12.7%
計	525	—



○ 展示の感想

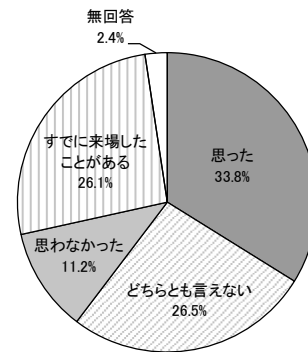
● 展示の内容はいかがでしたか

選択肢	数	割合
良かった	143	30.8%
まあ良かった	227	48.9%
どちらとも言えない	79	17.0%
あまり良くなかった	7	1.5%
良くなかった	1	0.2%
無回答	7	1.5%
計	464	100.0%



- 本日の展示を見て、「あいち2022」の本展会場（愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区）に行ってみたいと思いましたが

選択肢	数	割合
思った	157	33.8%
どちらとも言えない	123	26.5%
思わなかった	52	11.2%
すでに来場したことがある	121	26.1%
無回答	11	2.4%
計	464	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・ 国際芸術祭「あいち2022」のエッセンスをぎゅーっと詰め込んだ感じで入門編によかった。
- ・ 国際芸術祭のテーマにある生きることの断面を切りとった作品群に多様性を感じました。
- ・ 本展会場の作品を観ていたのでも、数少なくとも記憶に残っていた作品が展示されていて、エッセンスを感じられた。
- ・ 地元で現代美術を見る機会がなく、より身近にアートを感じられてよかった。
- ・ 大きな会場より、ゆっくりじっくり見ることができてよかったです。
- ・ 展示場所をまわっていただけ嬉しいです！ そのおかげで子育て＆仕事のあいまに見に出来ました。
- ・ 点数は少ないけれど、見ごたえのある作品が多かった。
- ・ 作品は少なかったけど、ゆっくり近場で観れてよかったし、会場もとても合っていて新鮮でした。
- ・ ポップ・アップ！ また来たくまりました。これからもどんどん色々な場所で開催してほしいです。

(2) 関係者・関係機関等アンケート

区分	対象者数	回収数	回収割合	該当ページ
ボランティア	983人	210人	21.4%	112ページ
舞台芸術公募プログラム	7団体	7団体	100.0%	118ページ
連携企画事業	24団体	18団体	75.0%	120ページ
パートナーシップ事業	62団体	44団体	71.0%	121ページ
学校向け団体鑑賞プログラム	16校	15校	93.8%	123ページ

■ ボランティア

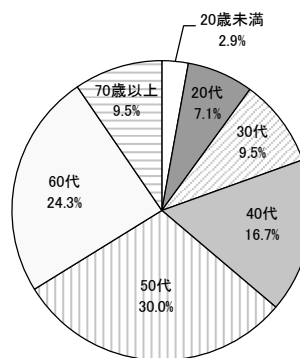
実施時期	10月
調査対象	ボランティア参加者
配布・回収方法	Web
回収数／対象者数	210人／983人(21.4%)

○ 回答者の属性

- ・ 10歳代から70歳以上まで、幅広い年代の方に参加していただいた。職業については会社員と主婦・主夫、無職の方の割合が高くなっている。
- ・ 以前にボランティア活動を経験したことのある方が78.6%を占め、そのうち64.2%の方が「過去のあいちトリエンナーレでのボランティア」経験ありと回答している。

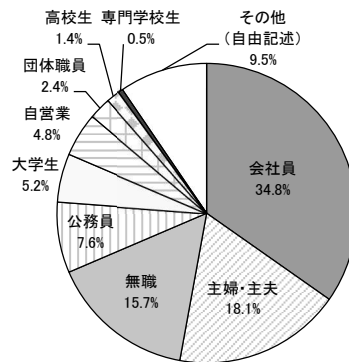
● 年齢

選択肢	数	割合
20歳未満	6	2.9%
20代	15	7.1%
30代	20	9.5%
40代	35	16.7%
50代	63	30.0%
60代	51	24.3%
70歳以上	20	9.5%
計	210	100.0%



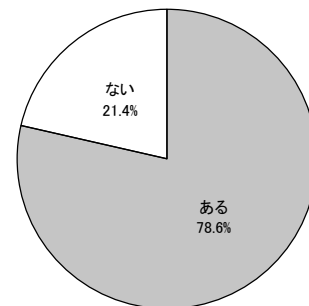
● 職業

選択肢	数	割合
会社員	73	34.8%
主婦・主夫	38	18.1%
無職	33	15.7%
公務員	16	7.6%
大学生	11	5.2%
自営業	10	4.8%
団体職員	5	2.4%
高校生	3	1.4%
専門学校生	1	0.5%
その他(自由記述)	20	9.5%
計	210	100.0%



● 「あいち2022」のボランティアに参加する前に、ボランティア活動に参加した経験がありますか

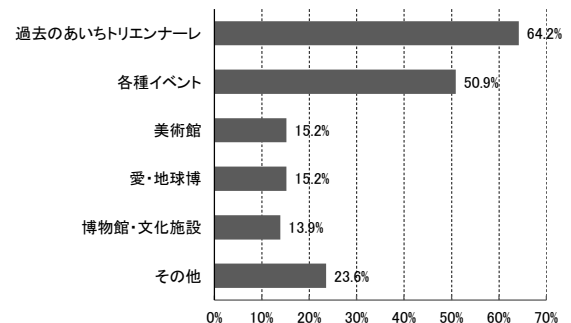
選択肢	数	割合
ある	165	78.6%
ない	45	21.4%
計	210	100.0%



● これまで、どのようなボランティア活動に参加されましたか(複数回答可)

※前問で「ある」と回答した方のみ

選択肢	数	割合
過去のあいちトリエンナーレ	106	64.2%
各種イベント	84	50.9%
美術館	25	15.2%
愛・地球博	25	15.2%
博物館・文化施設	23	13.9%
その他	39	23.6%
計	302	—

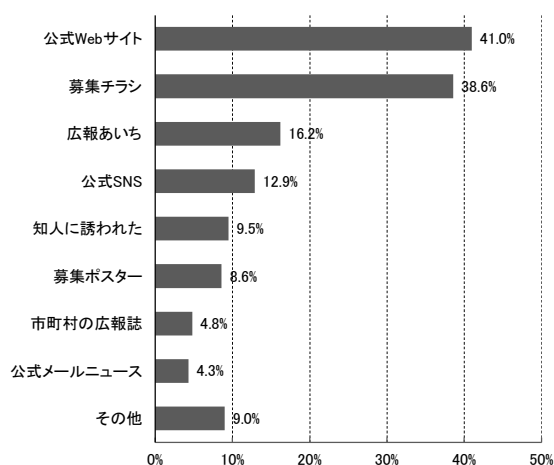


○ 参加理由

- ・ 募集を知ったきっかけは、「公式Webサイト」と「募集チラシ」が多い。
- ・ 参加理由としては、「あいち2022」や現代アートに興味があったという回答の割合が最も高いが、「ボランティア活動に興味がある」との回答の割合も高くなっている。

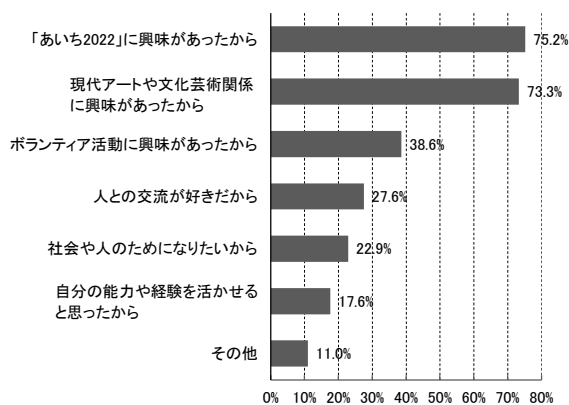
● ボランティア募集について、どのように知りましたか(複数回答可)

選択肢	数	割合
公式Webサイト	86	41.0%
募集チラシ	81	38.6%
広報あいち	34	16.2%
公式SNS	27	12.9%
知人に誘われた	20	9.5%
募集ポスター	18	8.6%
市町村の広報誌	10	4.8%
公式メールニュース	9	4.3%
その他	19	9.0%
計	304	—



● ボランティアに参加した理由をお聞かせください(複数回答可)

選択肢	数	割合
「あいち2022」に興味があったから	158	75.2%
現代アートや文化芸術関係に興味があったから	154	73.3%
ボランティア活動に興味があったから	81	38.6%
人との交流が好きだから	58	27.6%
社会や人のためになりたいから	48	22.9%
自分の能力や経験を活かせると思ったから	37	17.6%
その他	23	11.0%
計	559	—

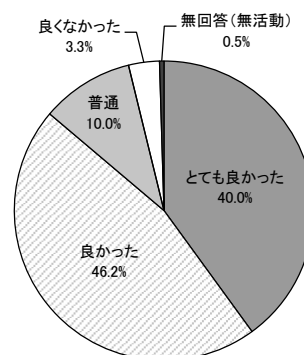


○ 感想

- ・ ボランティア活動に参加して、「とても良かった」又は「良かった」と回答した方の割合は86.2%に上った。その理由として、「現代アートや文化芸術関係に携わることができた」が90.6%で最も高く、続いて「来場者と交流することができた」が59.7%と高くなっている。
- ・ 次回の芸術祭など、今後このような芸術イベントにボランティアとして参加したいかとの問いには、87.1%の方が「参加したい」又は「参加を検討したい」と回答した。

● ボランティア活動をしていかがでしたか

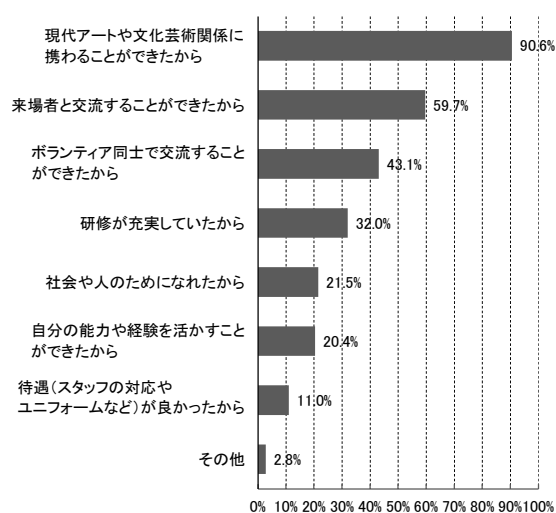
選択肢	数	割合
とても良かった	84	40.0%
良かった	97	46.2%
普通	21	10.0%
良くなかった	7	3.3%
無回答(無活動)	1	0.5%
計	210	100.0%



● どのような面で良かったと思いますか(複数回答可)

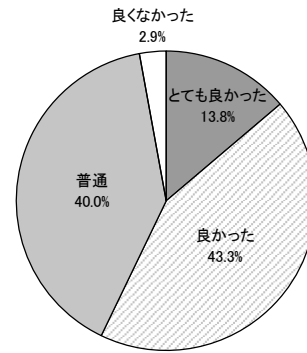
※前問で「とても良かった」「良かった」と回答した方のみ

選択肢	数	割合
現代アートや文化芸術関係に携わることができたから	164	90.6%
来場者と交流することができたから	108	59.7%
ボランティア同士で交流することができたから	78	43.1%
研修が充実していたから	58	32.0%
社会や人のためになれたから	39	21.5%
自分の能力や経験を活かすことができたから	37	20.4%
待遇(スタッフの対応やユニフォームなど)が良かったから	20	11.0%
その他	5	2.8%
計	509	—



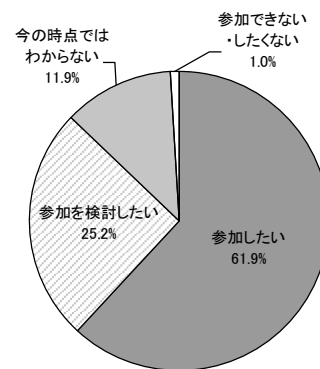
● 全体研修の内容はいかがでしたか

選択肢	数	割合
とても良かった	29	13.8%
良かった	91	43.3%
普通	84	40.0%
良くなかった	6	2.9%
計	210	100.0%



● 今後「あいち2022」のような芸術イベントにボランティアとして参加したいとお考えですか

選択肢	数	割合
参加したい	130	61.9%
参加を検討したい	53	25.2%
今の時点ではわからない	25	11.9%
参加できない・したくない	2	1.0%
計	210	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・対話型鑑賞で話しかけた方から「あなたと話したことで作品の見方が広がった。ありがとうございます」と言われ、とても嬉しかった。また是非やりたいと思います。
- ・今まで美術館などは1人で静かに観たい派で、人と対話しながら見ることの楽しさが分からなかった。今回せっかく対話型の研修を受けたので、来場者と一緒にやってみようと思いをかけたところ、思いの外皆さんいろいろなことを考えていることに気づいた。同じ空間で同じ作品を見ているはずなのに全然違うことを考えていることが衝撃だった。非常に刺激になった。
- ・対話型鑑賞の認知が広まって、ボランティアと来場者が自然に声をかけあえる状況が生まれるようになってほしいので、これからも国際芸術祭が続くことを願っています。
- ・楽しかった。来場者から「今回もボランティアさんが頑張っているのね」と声をかけられました。
- ・どの会場もスタッフがたくさんいるので、会場運営ボランティアの必要性が感じられませんでした。スタッフの穴埋めとして無理に作ったようなポジションはいらないように思いました。
自分自身は、会場運営しか参加していないのでわかりませんが、会場運営のようなポジションは全員スタッフにして、ガイドのようなものだけボランティアにするなど、ボランティアとスタッフの役割を全く別のものにしてもいいのではないかと思います。
- ・ボランティアを2種類に分けたために、会場運営ボランティアの仕事は、たとえば有松・山田薬局ではお客さんと向き合わないポジションで人数カウントだけなど、面白くない仕事になっていたように思いました。
- ・対話型鑑賞ボランティアについて、関係者の方々にその位置づけが理解してもらえていなかったようです。スタッフの中には、研修において作品や作家についての情報を学んでいるのが対話型鑑賞ボランティアである、と誤解されていた方が多かった。
- ・自分が来場者として訪れた際、対話型鑑賞ボランティアから「これはこういう作品です」という説明をされとても不愉快だった経験もあり、自身が対話型鑑賞ボランティアとして活動するにあたり、お客さんにどのように話しかければよいか悩ましく思っていました。研修において、そういう部分をもっとアドバイスしてもらえるとうれしかったと思います。
- ・次回に向けて、できれば会期中にボランティア同士の交流や情報交換ができるといいと思います。ボランティア活動終了後に10分程度の簡単なミーティングを持ってもいいし、ネット上でもいいと思います。

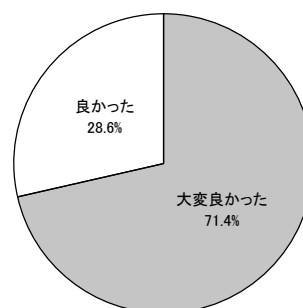
■ 舞台芸術公募プログラム

実施時期	11月
調査対象	舞台芸術公募プログラム参加団体
配布・回収方法	メール
回収数／対象団体数	7団体／7団体(100.0%)

- ・ 来場者の反応については「大変良かった」「良かった」の合計で100.0%となり、団体自身が「舞台芸術公募プログラム」に参加して「大変良かった」「良かった」も合計で100.0%となった。いずれも高い評価であった。
- ・ 次回参加したいかという質問については、90%弱が「参加したい」と回答した。

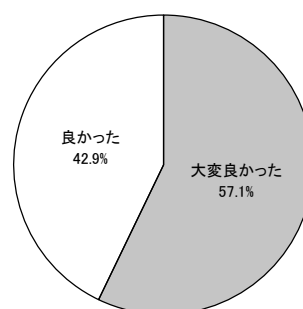
● 「舞台芸術公募プログラム」に参加して良かったと思いますか

選択肢	数	割合
大変良かった	5	71.4%
良かった	2	28.6%
どちらともいえない	0	0.0%
悪かった	0	0.0%
計	7	100.0%



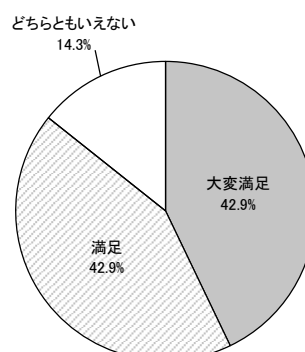
● 来場者の反応は良かったと思いますか

選択肢	数	割合
大変良かった	4	57.1%
良かった	3	42.9%
どちらともいえない	0	0.0%
悪かった	0	0.0%
計	7	100.0%



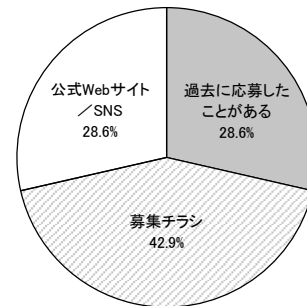
● 組織委員会事務局との連携はいかがでしたか

選択肢	数	割合
大変満足	3	42.9%
満足	3	42.9%
どちらともいえない	1	14.3%
不満	0	0.0%
計	7	100.0%



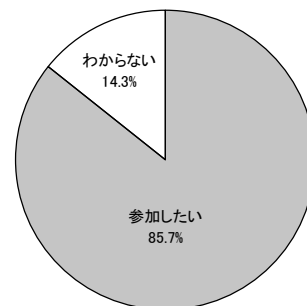
● 「舞台芸術公募プログラム」の募集を何で知りましたか

選択肢	数	割合
過去に応募したことがある	2	28.6%
2010年「祝祭ウィーク」	0	0.0%
2013年「祝祭ウィーク」	0	0.0%
2016年「舞台芸術公募プログラム」	0	0.0%
2019年「舞台芸術公募プログラム」	2	28.6%
募集チラシ	3	42.9%
公式Webサイト／SNS	2	28.6%
その他	0	0.0%
計	7	100.0%



● 本芸術祭が次回も開催される場合、「舞台芸術公募プログラム」が実施されるとしたら、参加したいと思いますか

選択肢	数	割合
参加したい	6	85.7%
わからない	1	14.3%
参加しない	0	0.0%
計	7	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・ 定例で行うことに意義があると思うので続けて欲しい。敷居の高い芸文センターを栄のオアシスに来たついでに覗いてみようと思えるような企画を増やす方がよいと思います。
- ・ 設備利用料の半額負担はとてもありがたく、舞台芸術のすそ野を広げる意味でも意義があると感じました。
- ・ 公募プログラムの日程が平日のみ(小ホールの場合)なので、週末も含んでくれると集客が少ししやすかったと思いました。又、HPのみではなく、地域の広報誌などにも宣伝してもらえれば更に多くの市民に認知してもらえる機会があるのではと思いました。又、愛知県内の芸術、文化、メディア関係者の方を公演に招待して下さるなど、主催者の今後の芸術活動につながるようなサポートがあると、今後の活動にも繋がっていくのではと思いました。
- ・ プログラムチラシ、Webの告知や会場費負担は非常にありがたかったです。欲を言えば、主イベントやそれを告知する媒体にもつながりを感じられる掲載をしていただけると、国際芸術祭の連携事業としてより認知していただけたのではないかと思います。
- ・ 電話での問い合わせは過去と比べて桁違いに多かったです。次回につなぐ自信が持てました。
- ・ 全体を通して、前回と比べて公演がやり易かったと感じました。又、前回に比べて、関係者以外で公演チラシ、芸術祭チラシを見て来て下さったお客様が増えたことは、芸術祭での公演参加に意義があったと感じました。遠方や海外の方からライブ配信の問い合わせがあったので、今後、そのような取り組みもあると良いかもと思いました。

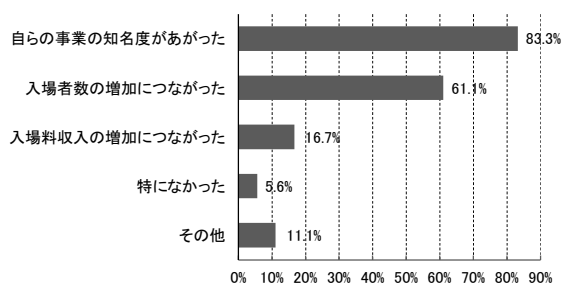
■ 連携企画事業

実施時期	11月
調査対象	連携企画事業参加団体
配布・回収方法	メール
回収数／対象団体数	18団体／24団体(75.0%)

- ・ 連携企画事業へ参加して感じた効果については、「自らの事業の知名度があがった」が83.3%、「入場者数の増加につながった」が61.1%と高く、「特になかった」との回答は5.6%であった。
- ・ 次回の芸術祭において連携企画事業があれば参加したいか聞いたところ、「是非参加したい」「可能であれば参加したい」が合わせて88.9%であった。
- ・ 満足度としては、「大変満足」と「満足」が合わせて72.2%、「どちらともいえない」「不満」が合わせて27.8%となっている。

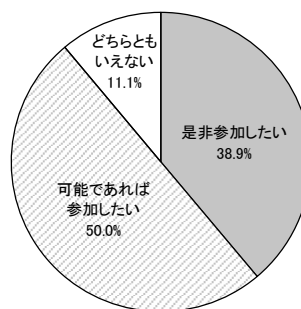
● 「連携企画事業」の相互広報・割引等によって、どのような効果があったと感じますか(複数回答可)

選択肢	数	割合
自らの事業の知名度があがった	15	83.3%
入場者数の増加につながった	11	61.1%
入場料収入の増加につながった	3	16.7%
特になかった	1	5.6%
その他	2	11.1%
計	32	—



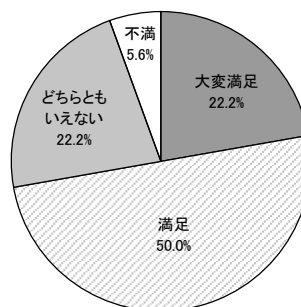
● 本芸術祭が次回も開催される場合、「連携企画事業」が実施されるとしたら、参加したいと思いますか

選択肢	数	割合
是非参加したい	7	38.9%
可能であれば参加したい	9	50.0%
どちらともいえない	2	11.1%
参加しない	0	0%
計	18	100.0%



● 連携企画事業に対する満足度をお聞かせください

選択肢	数	割合
大変満足	4	22.2%
満足	9	50.0%
どちらともいえない	4	22.2%
不満	1	5.6%
計	18	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・ 新たな客層の増加につながった。
- ・ 当館のコレクションや活動の一端を伝えることができた。
- ・ 広告面の連携を充実させてほしい。

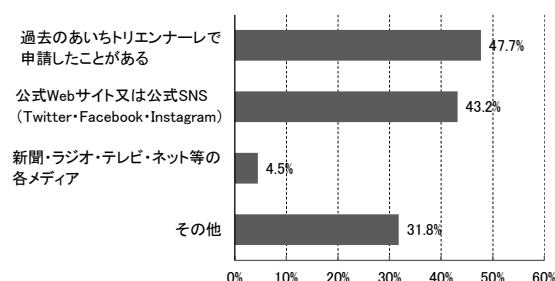
■ パートナーシップ事業

実施時期	11月～12月
調査対象	パートナーシップ事業参加団体
配布・回収方法	メール
回収数／対象団体数	44団体／62団体(71.0%)

- ・ 満足度としては、「大変満足」と「満足」が合わせて75.0%、「どちらともいえない」が25.0%となっている。
- ・ パートナーシップ事業へ参加して感じられた効果については、「ブランド力が上がった」が50.0%、「自らの事業の知名度が上がった」が47.7%、「入場者数の増加につながった」が31.8%であった。
- ・ 次回、本芸術祭のパートナーシップ事業があれば参加したいか聞いたところ、「是非参加したい」「可能であれば参加したい」が合わせて84.1%であった。

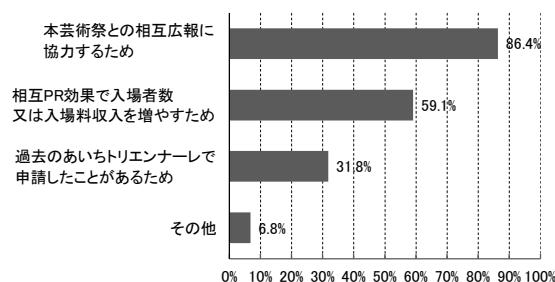
● 「パートナーシップ事業」の募集を何で知りましたか(複数回答可)

選択肢	数	割合
過去のあいちトリエンナーレで申請したことがある	21	47.7%
公式Webサイト又は公式SNS (Twitter・Facebook・Instagram)	19	43.2%
新聞・ラジオ・テレビ・ネット等の各メディア	2	4.5%
その他	14	31.8%
計	56	—



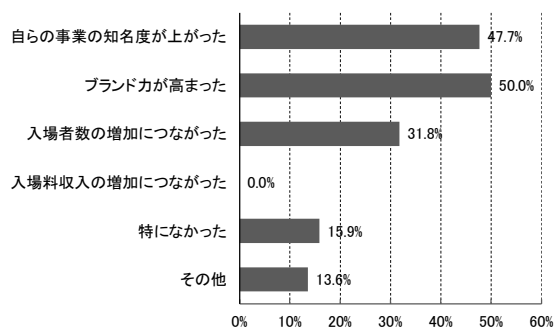
● 「パートナーシップ事業」に参加された理由をお聞かせください(複数回答可)

選択肢	数	割合
本芸術祭との相互広報に協力するため	38	86.4%
相互PR効果で入場者数又は入場料収入を増やすため	26	59.1%
過去のあいちトリエンナーレで申請したことがあるため	14	31.8%
その他	3	6.8%
計	81	—



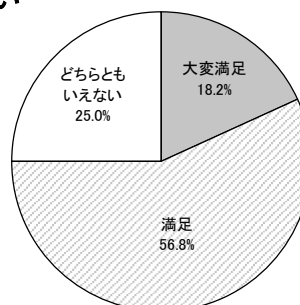
● 「パートナーシップ事業」によって、どのような効果があったと感じられていますか(複数回答可)

選択肢	数	割合
自らの事業の知名度が上がった	21	47.7%
ブランド力が高まった	22	50.0%
入場者数の増加につながった	14	31.8%
入場料収入の増加につながった	0	0.0%
特になかった	7	15.9%
その他	6	13.6%
計	70	—



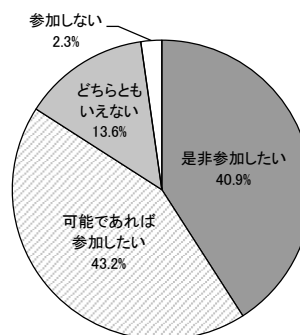
● 「パートナーシップ事業」に対する満足度をお聞かせください

選択肢	数	割合
大変満足	8	18.2%
満足	25	56.8%
どちらともいえない	11	25.0%
不満	0	0.0%
計	44	100.0%



● 本芸術祭が次回も開催される場合、「パートナーシップ事業」が実施されるとしたら、参加したいと思いませんか

選択肢	数	割合
是非参加したい	18	40.9%
可能であれば参加したい	19	43.2%
どちらともいえない	6	13.6%
参加しない	1	2.3%
計	44	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・ 県民の方々への広報効果はもちろんですが、貴芸術祭の関係者様、作家様にも当方事業を知っていただけたのではないかと思います。実際にお越しいただいた方もいらっしゃったようです。
- ・ 各種PR用リーフレットなど、もう少し早く御送付いただければ、配布数を増やせたような気がします。
- ・ 短期的に効果が見えるわけではないですが、アートや芸術を切口に栄エリアへの回遊、来街者が増える相互取組を継続的に実施できると幸いです。
- ・ 地域の園児の皆さまに御協力いただき、非常に良い機会にすることができました。パートナーシップ事業として芸術祭という機会に参画することができ地域に根差す事業者として良い機会となりました。
- ・ 事前の情報発信を応援していただけると幸いに思います。
- ・ 相互広報として、SNSでの広報や動画配信がさらにあるとよかったかなと思いました。
- ・ 事業一覧が記載されたパンフレットによって普段とは違う層へ周知ができていたかもしれないが、芸術祭を目的に訪れた人が当市イベントへ偶然立ち寄った等の話もあり、パートナーシップ事業となったことによる影響があったとは明確には言い切れないと感じた。
- ・ パートナーシップ事業と国際芸術祭「あいち2022」がもう少しPR活動がリンクが出来ていれば、良かったと思います。

■ 学校向け団体鑑賞プログラム

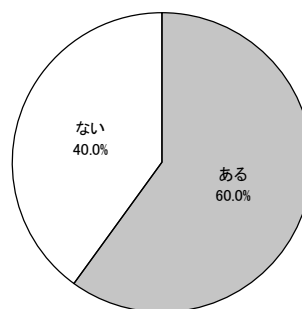
実施時期	10月
調査対象	学校向け団体鑑賞プログラム参加校
配布・回収方法	メール・FAX
回収数／対象団体数	15校／16校(93.8%)

○ 学校向け団体鑑賞プログラム参加校

- ・ 学校向け団体鑑賞プログラム参加校16校にアンケートを行い、15校から回答を得た。
- ・ 参加した児童・生徒が現代美術に興味を持つ機会になったと思うか、との問いについては、「とても思う」又は「思う」と回答した方の割合が93.3%にのぼった。

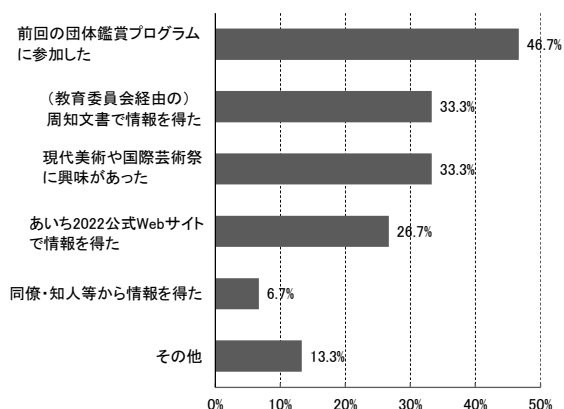
● これまでに、学校団体(部活動含む)で美術展を観覧したことはありますか。

選択肢	数	割合
ある	9	60.0%
ない	6	40.0%
計	15	100.0%



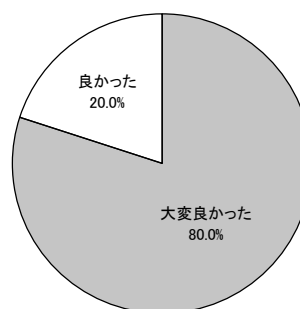
● 今回のプログラムをお知りになったきっかけをお聞かせ下さい(複数回答可)

選択肢	数	割合
前回の団体鑑賞プログラムに参加した	7	46.7%
(教育委員会経由の)周知文書で情報を得た	5	33.3%
現代美術や国際芸術祭に興味があった	5	33.3%
あいち2022公式Webサイトで情報を得た	4	26.7%
同僚・知人等から情報を得た	1	6.7%
その他	2	13.3%
計	24	—



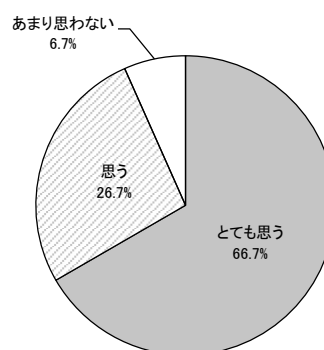
● 学校団体鑑賞プログラムに参加していかがでしたか

選択肢	数	割合
大変良かった	12	80.0%
良かった	3	20.0%
あまり良くなかった	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
計	15	100.0%



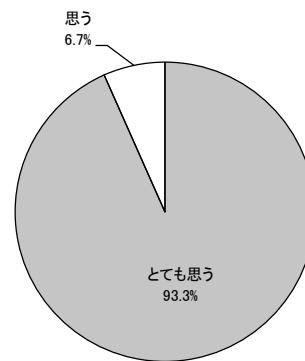
● 団体鑑賞に参加したことで、貴校の児童・生徒が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思われますか

選択肢	数	割合
とても思う	10	66.7%
思う	4	26.7%
あまり思わない	1	6.7%
思わない	0	0.0%
計	15	100.0%



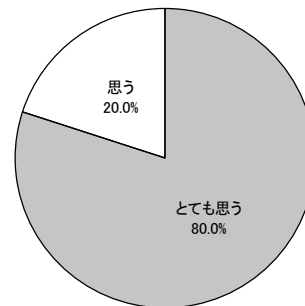
● 今後も校外での美術展鑑賞を実施したいと思われませんか

選択肢	数	割合
とても思う	14	93.3%
思う	1	6.7%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
計	15	100.0%



● 今後も国際芸術祭「あいち」の団体鑑賞プログラムに参加したいと思いませんか

選択肢	数	割合
とても思う	12	80.0%
思う	3	20.0%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
計	15	100.0%



○ 自由意見抜粋

- ・「人の見方がわかって驚いた」「楽しかった」など多彩な意見とともに、「また見に行きたい」という声が多く、有意義な時間を過ごすことが出来てよかったです。
- ・小学3・4年生に合ったガイドツアーを組んでいただき、子どもたちは大満足で学校に戻りました。「また行きたい！」と話す子どもたちを見て、お世話になってよかったと改めて感じました。
また、現地で撮影した写真を見返すと、子どもたちの表情がとても生き生きしていることに驚きました。学校では味わえない、とてもよい刺激を受けたようです。
- ・子どもたちは、ボランティアの方と対話することで、「もっと他の作品を見てみたい」と初めて触れた現代美術の作品に関心を持ち、感性を高めることができました。とても貴重な経験ができたと思います。
- ・ボランティアガイドさんの促しによって、普段自分から発言しない生徒にも、自然な感想を引き出しただけだと感じています。
- ・普段鑑賞する機会が少ない現代アートに触れることができとてもよかったです。難しいかと思いましたが、生徒たちは「とても面白かった！」と言っていました。
鑑賞後にすぐ振り返りを書いたり、お互いに乾燥を話す場を設けたりするとより深まるかと思いましたが、時間的にお昼にさしかかってしまうので、難しいでしょうか。

4 有識者意見

- ・文化芸術に関する専門的な知識・見識を有する者10名にヒアリングを行い、「あいち2022」に対する評価や今後の展開に向けたアドバイスをいただいた。
- ・芸術監督が、美術・展覧会づくりの専門家である点からコンセプト・ストーリーがしっかりしていて、配慮とバランスが尽くされた芸術祭であったとの意見や、愛知県の歴史・産業と結びついた作品等、愛知の独自性が良かったなど、有識者においても一定の評価を得た。
- ・また、今後の国際芸術祭に対するアドバイスでは、過去から未来へつながり、蓄積され発展していくビジョンを持った芸術祭として続けていってほしいとの意見があった。

■ ヒアリング対象者

(敬称略)

氏名	職名等
久野敦子	セゾン文化財団常務理事
藤井慎太郎	早稲田大学文学部演劇映像コース教授
浅野健	株式会社都市研究所スペース取締役
藤江充	愛知教育大学名誉教授
高北幸矢	清須はるひ美術館館長
田口美和	タグチアートコレクション共同代表 一般社団法人アーツプラス現代芸術研究所
島敦彦	国立国際美術館館長 元愛知県美術館館長
橋本誠	アートプロデューサー 一般社団法人ノマドプロダクション代表理事
児島やよい	キュレーター、ライター
岡村恵子	東京都写真美術学芸員

■ 「あいち2022」に対する評価

○ 評価できる点

- ・落ち着いてじっくり見ることができる展覧会だった。監督のテーマ設定・ストーリー性ももちろんだが、それぞれの作家がテーマに向き合いしっかり対応していた。一見穏やかだが、「STILL ALIVE」というコンセプトが通奏低音のように響いており、各作品においても時代へのメッセージがしっかりあった。
- ・芸術監督のリーダーシップによって、企画性の高い展覧会、落ち着いて観られる美術展となっていた。「STILL ALIVE」というコンセプトに対して、監督らキュレーション・チームの目論見はもちろんだが、多彩なキュレトリアル・アドバイザーからの積極的かつ意外性のある応答や助言、コロナ禍でありながら参加作家たちの意欲的な取組があり、それらすべてが実を結んだ。
- ・コロナ禍だったからこそ生み出せたというか、みんなが欲していた時間、必要としていたものが提示できたと評価している。「STILL ALIVE」というテーマが、各作品からのメッセージとして発信されていた。私たちの生活と地続きの問題が世界中にあるということ、一つ一つの作品が感じさせてくれた。
- ・(芸術祭全体について)全体に非常に細かいところまで目配せのきいたものだった。前回は、現代アートが議論の対象になり、なおかつ「表現の不自由展」が再開できたことも含め、悪い評価をすべきではないと考える。今回はそれを受け止めながら、論争を封じ込めるのではなく、ジェンダー、マイノリティ、先住民、LGBTなどのことを意識した、よく考えられたバランスの良いキュレーションだった。(若干、模範解答集的な感じは否めないが、それは無いものねだりというべきだろう。)

- ・片岡監督のビジョンの立て方が良かった。アート本来の持つべきものに立ち返ったテーマだった。また、津田さんから片岡さんになった(女性監督になった。女性作家も増えた。)ということが、津田さんのメッセージ(ジェンダーの問題)を受けた形になっていて良かった。
- ・芸術監督が、美術・展覧会づくりの専門家である点からコンセプト・ストーリーがしっかりしていると感じたが、その分、各作品がストーリーの役割を担っているためか、突出した作品が目につかなかったというきらいはある。とにかく配慮とバランスが尽くされたキュレーションの展覧会、芸術祭だった。
- ・展覧会はクオリティが高く、海外の作家も面白かったし、知っている人も多く、良いタイミングで招聘されていて、インターナショナルな国際展を感じる事ができた。
- ・国内に、文化振興策としての芸術祭はあまりない。瀬戸内などは観光促進策としての開催。普通に、手堅くスタンダードな芸術だけ、着実にやっている愛知は、素晴らしい。
- ・会場が広範囲になったが、とてもよく考えられていた。これまでも岡崎・豊橋などはあったが、名古屋市のボリュームが大きく、名古屋主体という印象が強かったが、今回は常滑(陶器の町)、一宮、有松など素敵な地域を知るだけでも意味があった。
- ・今回は、コロナ禍であるという前提の中で、イベント的な派手さはないものの、まちの歴史との紐づけや美術館の展示なども意図的にストーリーが整理され、内省的で、落ち着いて観られた点良かった。
- ・愛知県の歴史・産業(ものづくり)と結びついた作品があり、愛知の独自性があった。
- ・街中、都市にアートを点在させること(有松＝絞り、常滑＝焼物、一宮＝織物を、アートと関連づけ認識づけて見ること)の面白さを、改めて感じさせてくれた。
- ・アートを切り口にして、まちの魅力を再発見するという点からも良かった。
- ・河原温、荒川修作などインターナショナルな作家と地道に頑張っている地元の作家が入っていて、glocalizationという視点からも良かった。
- ・「アール・ブリュット」に分類されることが多い作り手の仕事(小寺良和、升山和明)を、現代美術の中に自然に溶け込ませていた点に、多様な立場の表現者のありようが示されていた。
※引きこもり当事者の渡辺篤の作品にもその視点が生かされていた。
- ・コロナ禍、3.11後の日本等、重い政治的メッセージを反映した作品だけでなく、芸文センターでは(ローリーアンダーソンのような)夢がある今らしい作品もちゃんと入っている。
- ・PAはコロナ禍ということもあり出演者の少ないものにせざるを得ないので規模的には小粒ながら、美術展と連動したテーマと響きあう展開で非常に良かった。
- ・以前のPAは、大型のプログラムが毎週末に1本開催というペースだったのでその都度愛知に向かう必要があったが、今回は、週末に2～3本位鑑賞できる組み合わせになっているので、大変ありがたかった。
- ・(「あいつり」から「国際芸術祭」へ)まずは、続けることができ本当に良かった。もし、やめることになったら、これまでの蓄積がすべて消え去ることになる。

○ 改善・修正すべき点

- ・初めていく場所の見方・回り方をもう少し丁寧に示す必要があると感じた。
- ・地域分散は良いのだが、移動はなかなか大変。県外から来る人のために、会場間を移動できるような工夫をすべきではないか。
- ・一宮会場での移動は難しい。常滑、有松のように徒歩で楽しめる場所が良い。名古屋市内でいくつか見るべきポイントがあると、市内回遊する楽しみが増えるのではないか。
- ・地方会場については、暑い時期でもあるので水分補給できる場所があると良い。あとは地域会場の周り方とか、移動に関する情報、会場近くでランチができる場所などの情報が欲しいと思った。移動は大変だったので、シャトルバスなどがあると良い。
- ・なぜこの時期に開催するのかというのは、いつも疑問に思う。真夏に街中を歩くのは非常に厳しい。
- ・PAについては、欲を言えばもう一組ぐらい(山をつくることによって)東京から行きたくなるようなプログラムがあれば良かったかと思う。
- ・PAについて、2演目セット券がネット上でしか買えない。県美の窓口でも買えるという風になっていると、ネットが苦手な人にはありがたい。全演目セット券もあると良い。
- ・VRなど、人数限定のプログラムはどうかと思う。国際芸術祭という規模感であれば、見に来た人は大体見られるというように間口を広げておくべきではないかと思う。
- ・VRは、新しいメディアとしての可能性はあるとしても、制約(目の問題、体験者数、時間など)が多すぎるので、これ以上は増やさないで欲しいと思う。
- ・運営面では、全ての会場で検温と消毒を求められたが、過剰でないかどうか、またどこまでその必要があるのかは再考してよい段階ではないか。
- ・スタッフの区別が来場者目線だとわかりづらく、ボランティアなのか、有償のスタッフなのか、職員なのかを分かりやすくした方が良い。
- ・「あいちトリエンナーレ」で続けたかった。まわりにもそんな声が多い。保守的になっていく芸術祭がある中で、「あいち」という名前でもっととがった存在でいて欲しいという思いがある。
- ・サイン計画については、一考が必要。統一感に乏しかった。テーマや監督は変わっても芸術祭は一つなのだから、トータルなサインのシステムを確立して、毎回継続する必要があるのではないか。県外や海外から来る人を意識した、混乱の無いハイレベルなサインシステムを考えるべき。作品ナンバーと施設ナンバーがついているのも混乱の一つ。例えば、施設ナンバーがアルファベットで、作品をナンバーにするのであれば混乱はなくなる。
- ・コレクターの立場からすると、もう少し美術関係者も含め、広く交流の機会があれば良いと感じた。(コロナの関係もあるかとは思いますが…)
- ・今回は、アートではなく愛知について学ぶというラーニングプログラムは、これまでと違い評価できるが、枠組みが分かりにくく、その説明があった方がよかった。
- ・プレスツアーは企画はいいが、回し方が良くなかった。タイムコントロール、参加者への案内など基本的なことができてない。キュレーター(説明員)とは別に、タイムキーパーを配置すべき。全体の充実を図るか、あるいはもっとシンプルなものにする。美術館ツアーの感覚では合わない。
- ・作家紹介パネルの文章量が多い。全部読もうとすると疲れが倍増する。読みたいところだけ読めばいいがそれも難しい。ああいう作品を紹介するのは短い文章では難しいが。

○ 今後の展開に向けたアドバイス

- ・ サンパウロ・ビエンナーレでは終わった後、ブラジル国内を1年かけて回るトラベリングショーを実施。SNSも積極的に活用していて、継続性や発信力が強い。日本のトリエンナーレは、1回ずつの評価を重視していて連続性が希薄。サンパウロは、底辺に流れる大きなビジョンの下、常に動いていて、その中で各界の評価が蓄積されていく。日本の芸術祭は地域振興・観光の視点が強い気がするが、愛知が今後、どうするのが楽しみ。
- ・ 「国際芸術祭」の意味・意義（文化的・社会的）を議論していくことが重要。何を伝えていくかという信念をしっかりと持つことだと考える。
- ・ 国内外にトリエンナーレ、ビエンナーレは数多くあるが、独自性があれば見に行きたくなる。愛知は芸術監督によって毎回新しいものが見られるという意味で、レベルは担保されている。
- ・ 会場の分散について、名古屋会場だけでは新鮮味がないのであってもよいと思う。ただし今回のように地方3会場は多いかもしれない。
- ・ 会場は、路地裏やまちなかの意外な場所での開催など、予測不能な発見があるととっても面白いと思った。
- ・ 県外の人負担を考えれば、会場は名古屋市に集約してもよい。地域会場を設けなくても、ラーニングで地域にアーティストが入り込むなどの手法はある。
- ・ 芸文センターの主催事業・招聘事業等も、芸術祭の時期にあわせ、テーマとの連動性があるプログラムを行えば、集客アップも見込めるのでは。
- ・ 芸術祭だけでなく、地域の文化事業などと合わせてみてもらうのも良い。
- ・ 目玉作品をつくることも必要かと思う。話題になる、ビジュアルとして使えるという点でもよい。
- ・ 広報的にシンボリックなビジュアルはなかったが、ビジュアルに頼らず、ディレクターの指向性に寄せることでよい。
- ・ 東京の知人は、みんな「あいつ」と呼んでいる。「あいつ」と「国際芸術祭」は一致していないかも知れない。
- ・ 会期の後半にもプレスツアーを行ってはどうか。地域のローカルな魅力など作品以外の評価にもスポットを当てるとともに、クロージングへの集客も促進する。
- ・ 映像など全てに関し、一方的に享受するだけでなく、インタラクティブ性のある作品など、子どもが楽しめるものも必要。最新テクノロジーの介在という点では、学生の力を借りることもできる。
- ・ 産業技術記念館や科学館など、分野横断的な連携や以前の長者町のパブリックアートのように残るものなどに取り組んだほうが良い。

5 経済波及効果

- ・「あいち2022」の開催により、愛知県内では約73.0億円の経済波及効果があったと考えられる。

■ 経済波及効果の推計結果

経済波及効果			
①+②+③	①直接効果	②第1次波及効果	③第2次波及効果
73.0億円	45.2億円	16.5億円	11.3億円

(推計:名古屋学院大学社会連携センター)

- ①直接効果:国際芸術祭「あいち」組織委員会等の2020年度から2022年度までの愛知県内での総支出と来場者消費支出(飲食・買い物、交通費、宿泊費)との合計による最終需要増加額
- ②第1次波及効果:直接効果が、その他の産業にもたらす生産誘発額
- ③第2次波及効果:先の需要の発生により雇用者の所得が生まれるが、その雇用者が消費したことによる生産誘発額

○ 算出の前提条件等

- ・産業連関分析の方法により、「平成27年愛知県産業連関表(43部門表)」を用いて算出した。具体的な前提条件等は、以下のとおりである。

● 主催者総支出額

- ・国際芸術祭「あいち」組織委員会等の2020年度から2022年度までの総支出から、愛知県外への支出約1億円を差し引いた額とした。

区分	2020年度	2021年度	2022年度(見込)	計
国際芸術祭「あいち」 組織委員会 総支出(県内)	0.3億円	1.3億円	10.5億円	12.1億円

● 来場者数

- ・総来場者数は487,834人であるが、この中には複数会場を訪れた来場者がいることから、会期中に行った来場者アンケート調査結果を用いて、平均来訪会場数等を算出し、想定実来場者数を296,694人とした。うち宿泊者については、同アンケート調査結果を用いて、約12.2%(36,197人)と推計した。

総来場者数(A)	平均来訪会場数(B)	平均来訪日数(C)	想定実来場者(A÷B×C)	うち宿泊者
487,834人	1.71か所	1.04日	296,694人	36,197人

● 来場者消費額

- ・ 来場者アンケート等からわかる一人当たりの消費額に、想定実来場者数を乗じることで算出した。

区分	一人当たり消費額 (全体平均)	総消費額
飲食・買い物	5,031円	14.9億円
交通費	4,503円	13.4億円
宿泊費	15,937円	5.8億円
計	—	34.1億円

6 パブリシティ効果

- ・ 「あいち2022」のメディア報道におけるパブリシティ効果(広告費換算額)は、9.6億円以上と考えられる。

■ パブリシティ効果の推計結果

種別	掲載・放映件数	合計金額	備考(対象期間)
新聞(一般紙、ブロック紙、地方紙等)	223件	498百万円	2020年4月～2022年11月
雑誌(美術誌、一般紙等)	78件	63百万円	2020年12月～2022年11月
テレビ	74件	147百万円	2020年9月～2022年10月
ラジオ	11件	11百万円	2020年6月～2022年9月
Web	1,285件	244百万円	2020年4月～2022年11月
計	1,671件	963百万円	

(推計:株式会社NHKプラネット 中部支社)

※各メディアにおいて掲載・放映された同じ分量を広告出稿した場合の料金を1件ごとに算出し、その合計をパブリシティ効果の金額とした。

$$\left(\begin{array}{l} \text{新聞・雑誌のパブリシティ効果} = \text{原単位価格} \times \text{記事面積} \\ \text{テレビ・ラジオのパブリシティ効果} = \text{原単位価格} \times \text{放送時間} \\ \text{Webのパブリシティ効果} = \text{簡易換算方式(各Webサイトの広告金額の平均値を基準として加算)} \end{array} \right)$$

※掲載・放映の確認ができたもののみを対象として算出しているため、実際には9.6億円以上の効果があったと考えられる。

VII 組織委員会の状況等

1 組織委員会の収支状況

■ 総括（2020年度～2022年度）

○ 収入の部

（単位：千円）

区分	2020年度 （決算）	2021年度 （決算）※ ¹	2022年度 （予算）※ ²	計
事業収入	—	—	117,060	117,060
負担金収入	17,854	125,443	1,058,266	1,201,563
広告・協賛金等収入	—	1,500	13,187	14,687
雑収入（利息等）	1	1	1	3
計	17,855	126,944	1,188,514	1,333,313

○ 支出の部

（単位：千円）

区分	2020年度 （決算）	2021年度 （決算）※ ¹	2022年度 （予算）※ ²	計
事業費	16,686	124,420	1,161,127	1,302,233
管理費	1,169	2,024	16,814	20,007
予備費	—	—	10,573	10,573
計	17,855	126,444	1,188,514	1,332,813

※¹ 2022年度事業を対象とした助成金を繰越した

※² 2022年度は、2023年3月現在で決算額が未確定のため、予算額を記載

■ 2020年度内訳(決算)

○ 収入の部

区分		金額(円)
負担金収入	愛知県負担金	17,854,724
雑収入	受取利息	54
計		17,854,778

○ 支出の部

区分		金額(円)
事業費		16,685,895
	事業企画活動費	6,170,440
	計画策定費	8,243,081
	広報関係費	2,272,374
管理費		1,168,883
計		17,854,778

■ 2021年度内訳(決算)

○ 収入の部

区分		金額(円)
負担金収入	愛知県負担金	125,443,325
広告・協賛金等収入	受取助成金、寄付金	1,500,000
雑収入	受取利息	694
計		126,944,019

○ 支出の部

区分		金額(円)
事業費		124,419,731
	企画準備	72,366,205
	現代美術	51,912,997
	パフォーミングアーツ	9,621,983
	ラーニング	10,831,225
	広報・PR	31,505,629
	連携事業・アーツチャレンジ	20,547,897
	アートラボあいち運営費	10,125,354
	アーツチャレンジ開催費	10,422,543
管理費		2,024,288
計		126,444,019

※2022年度への繰越金500,000円(2022年度事業を対象とした助成金収入)

■ 2022年度内訳(予算)

○ 収入の部

区分		金額(円)
事業収入		117,060,000
	現代美術展チケット収入	106,480,000
	パフォーミングアーツチケット収入	9,947,000
	諸収入	633,000
公的負担金収入	愛知県負担金	1,058,266,000
広告・協賛金等収入	企業協賛寄付金、国及び各種文化財団等の助成金等	13,187,000
雑収入	受取利息	1,000
計		1,188,514,000

○ 支出の部

区分		金額(円)	
事業費		1,161,127,000	
	現代美術	592,262,000	
		芸術監督・キュレーター等委託活動費	65,572,000
		現代美術展開催費	517,165,000
		ポップ・アップ！開催費	2,155,000
		事業事務費	7,370,000
	パフォーミングアーツ	132,475,000	
	ラーニング	40,600,000	
	連携事業	24,250,000	
		アートラボあいち運営費	11,716,600
		連携事業開催費	4,533,400
		フォローアップ事業開催費	8,000,000
	会場運営	303,332,000	
	広報・PR	68,208,000	
管理費		16,814,000	
予備費		10,573,000	
計		1,188,514,000	

2 組織委員会事務局組織

区分	2020年度	2021年度	2022年度
事務局長	愛知県県民文化局文化部長	愛知県県民文化局文化部長	愛知県県民文化局文化部長
愛知県 県民文化局 文化部 文化芸術課 国際芸術祭 推進室	国際芸術祭推進室長 (事務局次長)	国際芸術祭推進室長 (事務局次長)	国際芸術祭推進室長 (事務局次長)
	担当課長(国際芸術祭)	担当課長(調整・広報) 担当課長(事業)	担当課長(調整・広報) 担当課長(事業)
	調整グループ 5名 ・職員 3名 ・一般職非常勤職員 2名	調整グループ 6名 ・職員 4名 ・一般職非常勤職員 2名	調整グループ 7名 ・職員 5名 ・一般職非常勤職員 2名
		広報グループ 8名 ・職員 4名 ・臨時的任用職員 3名 ^{※1} ・プロジェクト・マネージャー 1名 ^{※2}	広報グループ 10名 ・職員 5名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 3名 ^{※1} ・プロジェクト・マネージャー 1名 ^{※2}
	事業グループ 6名 ・職員 5名 ・一般職非常勤職員 1名	事業第一グループ 13名 ・職員 8名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 4名 ^{※1}	事業第一グループ 19名 ・職員 8名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 7名 ^{※1} ・市町村等職員実務研修生 3名 (稲沢市、愛西市、みよし市)
		事業第二グループ 10名 ・職員 5名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 3名 ^{※1} ・プロジェクト・マネージャー 1名 ^{※3}	事業第二グループ 12名 ・職員 6名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 3名 ^{※1} ・プロジェクト・マネージャー 1名 ^{※3} ・民間企業等研修生 1名 ^{※4} (公立大学法人)
	計13名	計40名	計51名

※1 臨時的任用職員はそれぞれ任期が異なる

※2 2021年4月から2022年10月まで

※3 2021年11月から2022年10月まで

※4 2022年4月から2022年10月まで

■ 国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

(愛知県県民文化局文化部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内)

〒461-8525

愛知県名古屋市中区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター内

TEL:052-971-3111

FAX:052-971-6115

E-mail: triennale@pref.aichi.lg.jp



(資料) 国際芸術祭「あいち」の開催経緯

■ 2005年度(平成17年度)

2006年3月	・「新しい政策の指針」公表
---------	---------------

我が国屈指の複合的文化芸術施設である愛知芸術文化センターの機能や蓄積を十分に活用するとの観点や、経済面のみならず、文化芸術面においても世界に向けた創造力、発信力を一層強化しながら、心の豊かさや潤いのある生活が実感できる魅力的な地域づくりに繋げていくとの視点から、2006年3月に策定した「新しい政策の指針」において、「愛知芸術文化センターを拠点として、国際的に注目される文化芸術イベントの開催をめざす」とこととした。

■ 2006年度(平成18年度)

2006年12月25日	・「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」報告書 ～文化芸術あいち百年の軸をつくる～
-------------	--

2006年度に開催した「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」において、「文化芸術施策の総合戦略としての愛知ビエンナーレを開催すべき」との提言を受ける。

■ 2007年度(平成19年度)

2007年12月	・「文化芸術創造あいちづくり推進方針」策定
----------	-----------------------

国際芸術祭の開催を「文化芸術政策全体を推進するための先導的役割を担う取組」として位置づける。

2008年3月21日	・「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」公表
------------	-----------------------

初回となる2010年は、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、現代美術を中心に、舞台芸術も含めた芸術祭を開催していくこと、この地域から世界に向けた、新しい芸術の創造・発信に加え、芸術文化の普及・教育、祝祭的な賑わいを図ることなどを盛り込んだ基本構想を策定・公表。

○ 「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」の概要

開催意義	「国際文化交流の豊富な基盤やノウハウ」、「世界にも誇り得る複合的文化芸術施設とその活動の蓄積」、「様々な文化芸術資源」などを十分に活かしながら、経済面だけではなく文化芸術面でも日本、世界に貢献。
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。 ・ 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。 ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。
事業構想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創造・発信：初回(2010年)は美術部門の現代美術を基軸とするが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、音楽、舞踊、オペラなども併せて展開。 ・ 普及・教育：美術、舞台芸術などの部門で幅広い層を対象にした様々な普及・教育プログラムを展開。 ・ 祝祭的展開：美術、舞台芸術を始め、伝統芸能、生活文化も含む様々な部門で県民に親しまれる事業を展開。

■ 2008年度(平成20年度)

2008年6月28日	【設立総会】 ・実行委員会の設立 【第1回運営会議】 ・平成20年度事業計画及び収支予算等決定
2008年7月22日	・芸術監督選任(2008年8月1日芸術監督就任)

○ 2010芸術監督
 建島 哲(国立国際美術館館長)

2008年10月14日	・ 【第2回運営会議】 ・正式名称、テーマ、基本方針決定・公表
-------------	---

○ 正式名称、テーマ・基本方針の決定・公表

- ・正式名称 あいちトリエンナーレ2010/Aichi Triennale 2010
- ・テーマ 都市の祝祭 Arts and Cities
- ・基本方針(要約)
 あいちトリエンナーレ2010を愛知・名古屋の文化のシンボルとして多くの市民に親しまれ、海外への芸術の発信基地としても注目されるユニークな特色をもったものにするために、次の三つの基本方針を掲げた。
 方針① 美術を中心とした現代芸術の先端的な動向を、国際的な視野によって紹介する。
 方針② 美術館や劇場のみならずまちなかへも進出し、都市の祝祭としての高揚感を演出する。
 方針③ 現代美術を基軸にしつつ、オペラやダンス、音楽などのパフォーミング・アートをも積極的に取り込む。

2009年3月25日	【第3回運営会議】 ・企画概要、ロゴマーク公表 ・平成21年度事業計画及び収支予算等決定
------------	---

○ ロゴマークの公表
 《ロゴマークデザインのコンセプト》

- ・あいちトリエンナーレの頭文字、AとTを組合せ、芸術の先端的な動向を示す矢印として形作られている。
- ・その矢印は、従来のロゴマークのような固定的なものではなく、あらゆる方向を指し示すことで、芸術表現の多様性、国内外への発信、祝祭的ひろがりを表現できる。
- ・また、街中にもひろがる会場では、視覚的な案内表示としても機能するように考えられている。

デザイナー：山本誠(愛知県生まれ、東京都在住。愛知県立芸術大学卒業)



■ 2009年度(平成21年度)

2009年8月21日	【第4回運営会議】 ・企画概要公表
2010年3月25日	【第5回運営会議】 ・企画概要公表 ・平成22年度事業計画及び収支予算等決定

■ 2010年度(平成22年度)

2010年8月～10月	・あいちトリエンナーレ2010開催 (8月21日～10月31日[72日間])
2011年3月25日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ2010開催結果報告 ・平成23年度事業計画及び収支予算等決定

○ 開催概要

- ・ 正式名称 あいちトリエンナーレ2010/Aichi Triennale 2010
- ・ テーマ 都市の祝祭 Arts and Cities
- ・ 開催期間 2010年(平成22年)8月21日(土)～10月31日(日)[72日間]
- ・ 主な会場 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、名古屋城、オアシス21、中央広小路ビル、セツ寺共同スタジオなど
- ・ 来場者数 572,023人
- ・ 芸術監督 建島哲
- ・ 開催内容 [現代美術] 招聘作家による国際美術展、企画コンペによる展示、映像プログラム
[舞台芸術] パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ
[普及・教育] キッズトリエンナーレ、学校向けプログラム
[祝祭的展開・まちなか展開] 祝祭ウィーク共催事業等

■ 2011年度(平成23年度)

2011年7月20日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
2011年7月28日	・芸術監督選任(2011年8月1日芸術監督就任)

○ 2013芸術監督

五十嵐太郎(東北大学大学院工学研究科教授(都市・建築学))

2011年10月21日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------	---------------------

○ テーマ

揺れる大地 - われわれはどこに立っているのか : 場所、記憶、そして復活
Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection

2012年3月29日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成24年度事業計画及び収支予算等決定
------------	---

■ 2012年度(平成24年度)

2012年7月25日	【運営会議】 ・企画概要公表
2013年3月22日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成25年度事業計画及び収支予算等決定

■ 2013年度(平成25年度)

2013年8月～10月	・あいちトリエンナーレ2013開催 (8月10日～10月27日[79日間])
-------------	---

○ 開催概要	
・ 正式名称	あいちトリエンナーレ2013/Aichi Triennale 2013
・ テーマ	揺れる大地－われわれはどこに立っているのか: 場所、記憶、そして復活 Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection
・ 開催期間	2013年(平成25年)8月10日(土)～10月27日(日)[79日間]
・ 主な会場	[名古屋地区]愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、 中央広小路ビル、オアシス21、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など [岡崎地区]東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場
・ 来場者数	626,842人
・ 芸術監督	五十嵐太郎
・ 開催内容	[現代美術]招聘作家による国際美術展、企画コンペによる展示、映像プログラム、 モバイル・トリエンナーレ [舞台芸術]パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ [普及・教育]キッズトリエンナーレ、学校向けプログラム [祝祭的展開・まちなか展開]祝祭ウィーク事業、大学連携プロジェクト、建築関連プロジェクト

2014年3月26日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ2013開催結果報告 ・平成26年度事業計画及び収支予算等決定
------------	---

■ 2014年度(平成26年度)

2014年7月22日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
2014年7月25日	・芸術監督選任(2014年8月1日芸術監督就任)

○ 2016芸術監督 港千尋(写真家・著述家 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授(映像人類学))	
--	--

2014年10月29日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------	---------------------

○ テーマ 虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅 Homo Faber: A Rainbow Caravan	
--	--

2015年3月26日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成27年度事業計画及び収支予算等決定
------------	---

■ 2015年度(平成27年度)

2016年3月30日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成28年度事業計画及び収支予算等決定
------------	--

■ 2016年度(平成28年度)

2016年8月～10月	・あいちトリエンナーレ2016開催 (8月11日～10月23日[74日間])
-------------	---

○ 開催概要

- ・ 正式名称 あいちトリエンナーレ2016/Aichi Triennale 2016
- ・ テーマ 虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅
Homo Faber: A Rainbow Caravan
- ・ 開催期間 2016年(平成28年)8月11日(木・祝)～10月23日(日)[74日間]
- ・ 主な会場 [名古屋地区]愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、
名古屋市内のまちなか(長者町会場、栄会場、名古屋駅会場)
[豊橋地区]PLAT会場、水上ビル会場、豊橋駅前大通会場
[岡崎地区]東岡崎駅会場、康生会場、六供会場
- ・ 来場者数 601,635人
- ・ 芸術監督 港千尋
- ・ 開催内容 [現代美術]国際現代美術展、映像プログラム
[舞台芸術]パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ
[普及・教育]創作プログラム、鑑賞プログラム、レクチャープログラム、
学校等団体向けプログラム
[連携事業]モバイル・トリエンナーレ、舞台芸術公募プログラム、芸術大学連携プロジェクト、
特別連携事業、並行企画事業、パートナーシップ事業、サポート体制(ボランティア、市民団体等によるあいちトリエンナーレ2016連携事業)

2017年3月28日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ2016開催結果報告 ・平成29年度事業計画及び収支予算決定
------------	---

■ 2017年度(平成29年度)

2017年5月19日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
2017年7月18日	・芸術監督選任(2017年8月1日芸術監督就任)

○ 2019芸術監督

津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

2017年10月20日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------	----------------------------

○ テーマ

情の時代
Taming Y/Our Passion

2018年3月22日	【運営会議】 ・開催概要、平成30年度事業計画及び収支予算決定
------------	---

■ 2018年度(平成30年度)

2019年3月27日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成31年度事業計画及び収支予算等決定
------------	--

■ 2019年度(令和元年度)

2019年8月～10月	・あいちトリエンナーレ2019開催 (8月1日～10月14日[75日間])
-------------	--

○ 開催概要	
・ 正式名称	あいちトリエンナーレ2019/Aichi Triennale 2019
・ テーマ	情の時代 Taming Y/Our Passion
・ 開催期間	2019(令和元)年8月1日(木)～10月14日(月・祝)[75日間]
・ 主な会場	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺)、豊田市(豊田市美術館及び豊田市駅周辺)
・ 来場者数	675,939人
・ 芸術監督	津田大介
・ 開催内容	[現代美術]国際現代美術展、映像プログラム [舞台芸術]パフォーミングアーツ、音楽プログラム [ラーニング]アート・プレイグラウンド、アーティスト派遣事業、学校向け団体鑑賞プログラム、ボランティア研修、トリエンナーレスクール [連携事業]モバイル・トリエンナーレ、舞台芸術公募プログラム、芸術大学連携プロジェクト、芸術祭等連携事業、連携企画事業、パートナーシップ事業

2019年12月26日	【運営会議】 ・「あいちトリエンナーレ2019」開催結果概要 ・あいちトリエンナーレのあり方検討委員会からの提言
-------------	---

■ 2020年度(令和2年度)

2020年9月8日	【設立総会】 ・新・国際芸術祭(仮称)組織委員会の設立 【運営会議】 ・2020年度事業計画及び収支予算決定
2020年10月15日	【アドバイザー会議】 ・芸術監督の選考基準決定
2020年11月4日	【運営会議】 ・芸術監督選任報告 ・新・国際芸術祭(仮称)の正式名称決定
2020年11月17日	・芸術監督就任 ・新・国際芸術祭(仮称)の正式名称公表

- 2022芸術監督
片岡真実(森美術館館長／国際美術館会議(CIMAM)会長)
- 2022正式名称
国際芸術祭「あいち2022」
- 組織名称
国際芸術祭「あいち」組織委員会

2022年12月15日	【運営会議】 ・テーマ報告
2022年12月22日	・テーマ公表

- テーマ
STILL ALIVE
今、を生き抜くアートのちから

2021年3月30日	【運営会議】 ・企画概要決定・公表 ・2021年度事業計画及び収支予算決定
------------	---

■ 2021年度(令和3年度)

2021年5月20日	【運営会議】 ・開催会場決定
2021年5月25日	・開催会場公表

- 開催会場
愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区(名古屋市)

2021年8月20日	【運営会議】 ・ロゴマーク、参加アーティスト(第一弾)等報告
2021年8月23日	・ロゴマーク、参加アーティスト(第一弾)等公表

- ロゴマーク
《ロゴマークデザインのコンセプト》
・芸術監督とデザイナーがディスカッションを行う中で、愛知県の形状や、テーマ「STILL ALIVE」からインスピレーションを得て生まれた。
・色は、「猩々緋(しょうじょうひ)」や「常滑焼」など、愛知県をイメージする複数の赤を集約している。



デザイナー: 田中義久

2022年2月7日	【運営会議】 ・参加アーティスト(第二弾)等報告
2022年2月15日	・参加アーティスト(第二弾)等公表

2022年3月30日	【運営会議】 ・2022年度事業計画及び収支予算等決定 ・全体概要報告・公表
------------	---

■ 2022年度(令和4年度)

2022年7月～10月	・国際芸術祭「あいち2022」開催 (7月30日～10月10日[73日間])
-------------	---

○ 開催概要	
・ 正式名称	国際芸術祭「あいち2022」
・ テーマ	STILL ALIVE 今、を生き抜くアートのちから
・ 開催期間	2022(令和4)年7月30日(土)～10月10日(月・祝)[73日間]
・ 主な会場	愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区(名古屋市)
・ 来場者数	487,834人
・ 芸術監督	片岡真実
・ 開催内容	[現代美術]現代美術展 [パフォーマンスアーツ]パフォーマンスアーツ [ラーニング]リサーチ、レクチャー、ガイドツアー、スクール・プログラム、 ボランティア・プログラム [連携事業]「あいち2022」ポップ・アップ!、円頓寺商店街・円頓寺本町商店街連携事業、 芸術大学連携プロジェクト、舞台芸術公募プログラム、連携企画事業、 パートナーシップ事業



(資料) 国際芸術祭「あいち」組織委員会規約等

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、国際芸術祭「あいち」組織委員会(以下「組織委員会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 組織委員会は、事務所を愛知県名古屋市東区東桜一丁目13番2号に置く。

(目的)

第3条 組織委員会は、現代芸術等を中心とした国際的な芸術祭(以下「国際芸術祭「あいち」」という。)の準備及び開催運営等を行うことにより、次の各号に掲げる事項を達成することを目的とする。

- (1) 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献すること。
- (2) 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ること。
- (3) 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ること。

(事業)

第4条 組織委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 国際芸術祭「あいち」の準備及び開催運営
- (2) その他組織委員会の目的を達成するために必要な事業

第2章 組織

(委員)

第5条 組織委員会の委員は、第6条第1項第1号に規定する会長、同項第2号に規定する会長代行、第9条第1項に規定する芸術監督及び第11条第1項に規定するアドバイザー会議委員とする。

2 委員は、組織委員会に関する活動を通じて知り得た秘密を漏らしてはならない。

(役員)

第6条 組織委員会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
 - (2) 会長代行 1名
 - (3) 監事 2名
- 2 会長は、国際芸術祭「あいち」推進協議会設置要綱(令和2年2文芸第1628号)第3条に規定する会長(以下「推進協議会会長」という。)が委嘱する者をもって充てる。
- 3 会長代行は、愛知県県民文化局文化部長をもって充てる。
- 4 監事は、第10条第1項に規定する運営会議の同意を得て会長が委嘱する。

(職務)

第7条 会長は、組織委員会を代表し、会務を統括する。

- 2 会長は、テーマ・コンセプト及び出展作家・作品について承認する。
- 3 会長代行は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 4 監事は、組織委員会の業務及び会計を監査する。

(任期)

第8条 役員及び委員の任期は3年以内とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠又は増員により選任された役員及び委員の任期は、前任者又は他の現任者の残任期間とする。
- 3 役員及び委員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(芸術監督)

第9条 組織委員会に、国際芸術祭「あいち」の学芸部門の責任者として芸術監督を置く。

- 2 芸術監督は、会長が委嘱する。
- 3 芸術監督の職務は、次のとおりとする。
 - (1) テーマ・コンセプトの立案
 - (2) 出展作家・作品の選考
 - (3) その他学芸部門に関すること。

(運営会議)

第10条 組織委員会に、運営会議を置く。

- 2 運営会議は、会長、会長代行、芸術監督及び2名のアドバイザー会議委員をもって構成する。
- 3 運営会議は、次の各号に掲げる事項を議決する。
 - (1) 規約の改廃
 - (2) 事業計画及び収支予算
 - (3) 事業報告及び収支決算
 - (4) その他組織委員会の運営に関する重要な事項
- 4 運営会議は、会長が招集する。
- 5 会長が必要と認める場合、構成員は、運営会議にウェブ会議システム(映像と音声の送受信により相手の状態を相互に認識しながら通話することができるシステムをいう。)を利用して出席することができる。
- 6 運営会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 7 運営会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 8 運営会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 9 やむを得ない理由のため運営会議に出席できない構成員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、その構成員は出席したものとみなす。

- 10 会長が必要と認める場合、あらかじめ通知した事項に対する構成員による書面表決をもって、運営会議の議決に代えることができる。
- 11 会長は、必要と認めるときは、運営会議に構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 12 会長は、第3項に規定する議決を行ったときは、推進協議会会長に対して報告する。

(アドバイザー会議)

第11条 組織委員会に、アドバイザー会議を置き、アドバイザー会議の委員は、推進協議会会長が委嘱する。

- 2 アドバイザー会議は、会長の求めに応じテーマ・コンセプト等について助言を行う。
- 3 アドバイザー会議は、芸術監督候補を選出する。

(その他の会議)

第12条 前2条に定めるもののほか、組織委員会に会長が必要と認める会議を置くことができる。

第3章 会長の専決処分

(会長の専決処分)

- 第13条** 会長は、運営会議の議決事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができる。
- 2 会長は、前項の規定により専決処分をしたときは、これを次の運営会議において報告しなければならない。

第4章 事務局

(事務局)

第14条 組織委員会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局長は愛知県県民文化局文化部長、事務局次長は愛知県県民文化局文化部文化芸術課国際芸術祭推進室長をもって充てる。
- 3 事務局は、愛知県県民文化局文化部文化芸術課国際芸術祭推進室に置く。
- 4 事務局には、所要の職員を置く。
- 5 事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第5章 会計

(経費)

第15条 組織委員会の活動に必要な経費は、負担金その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第16条 組織委員会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 補 則

(委任)

第17条 この規約に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、2020年9月8日から施行する。
- 2 組織委員会の設立当初の会計年度は、第16条の規定にかかわらず、設立の日から2021年3月31日までとする。

附 則

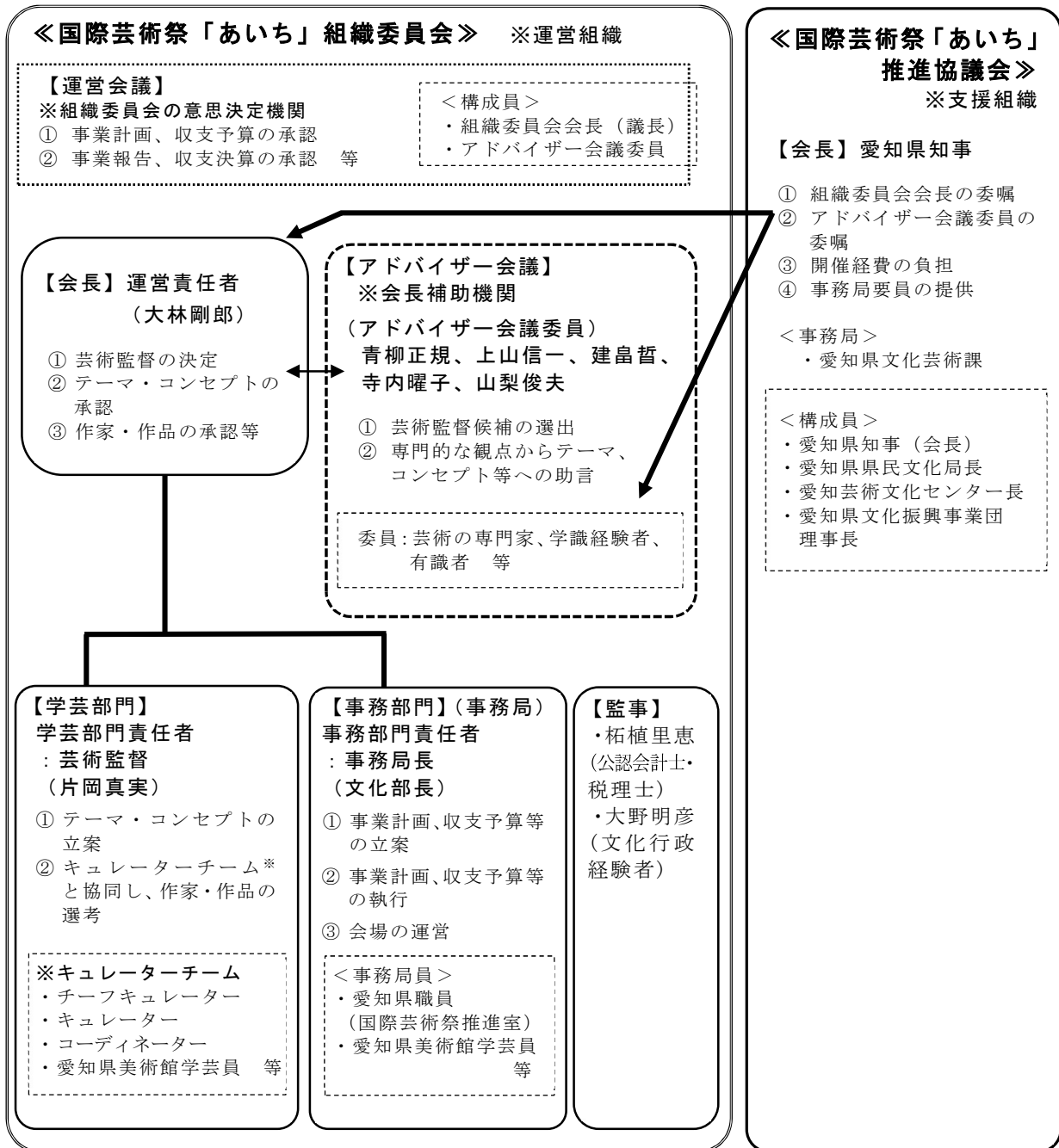
この規約は、2020年11月17日から施行する。

附 則

この規約は、2021年1月1日から施行する。

■ 国際芸術祭「あいち」組織委員会組織図

2023年3月1日現在



(資料) 国際芸術祭「あいち」の推移

項目	2010	2013	2016	2019	2022
名称	あいちトリエンナーレ 2010 Aichi Triennale 2010	あいちトリエンナーレ 2013 Aichi Triennale 2013	あいちトリエンナーレ 2016 Aichi Triennale 2016	あいちトリエンナーレ 2019 Aichi Triennale 2019	あいち2022
テーマ	都市の祝祭 Arts and Cities	揺れる大地－ われわれはどこに 立っているのか： 場所、記憶、そして 復活 Awakening－ Where Are We Standing?－ Earth, Memory and Resurrection	虹のキャラヴァン サライ 創造する 人間の旅 Homo Faber： A Rainbow Caravan	情の時代 Taming Y/Our Passion	STILL ALIVE 今、を生き抜くアート のちから
芸術監督 (就任当時の職)	建畠 哲 (国立国際美術館 館長)	五十嵐 太郎 (東北大学大学院 工学研究科教授 (都市・建築学))	港 千尋 (多摩美術大学 美術学部 情報デザイン学科 教授 (映像人類学))	津田 大介 (ジャーナリスト ／メディア・アク ティビスト)	片岡 真実 (森美術館館長 ／国際美術館会議 (CIMAM) 会長)
会期	2010(平成22)年 8月21日(土)～ 10月31日(日) [72日間]	2013(平成25)年 8月10日(土)～ 10月27日(日) [79日間]	2016(平成28)年 8月11日(木・祝)～ 10月23日(日) [74日間]	2019(令和元)年 8月1日(木)～ 10月14日(月・祝) [75日間]	2022(令和4)年 7月30日(土)～ 10月10日(月・祝) [73日間]
会場	・愛知芸術文化 センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・納屋橋会場 ※その他、名古屋 城、オアシス21、 中央広小路ビル、 七ツ寺共同スタ ジオなど	■名古屋地区 ・愛知芸術文化 センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・納屋橋会場 ※その他、中央 広小路ビル、 オアシス21、 名古屋テレビ塔、 若宮大通公園など ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・松本町会場	■名古屋地区 ・愛知芸術文化 センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・栄会場 ・名古屋駅会場 ■豊橋地区 ・PLAT会場 ・水上ビル会場 ・豊橋駅前大通 会場 ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・六供会場	■名古屋地区 ・愛知芸術文化 センター ・名古屋市美術館 ・四間道・円頓寺 ■豊田地区 ・豊田市美術館 ・豊田市駅周辺	■愛知芸術文化 センター ■一宮市 ■常滑市 ■有松地区 (名古屋市)
参加アーティスト数	24の国と地域から 131組	34の国と地域から 122組	38の国と地域から 119組	30の国と地域から 93組	32の国と地域か ら100組
来場者数	572,023人	626,842人	601,635人	675,939人	487,834人

項目	2010	2013	2016	2019	2022
現代美術展 展示面積	18,127㎡	33,963㎡	21,644㎡	20,033㎡	14,781㎡
全体事業費 (決算額)	(2008(平成20)～ 2010(平成22)年度) 1,207,537千円	(2011(平成23)～ 2013(平成25)年度) 1,178,248千円	(2014(平成26)～ 2016(平成28)年度) 1,265,008千円	(2017(平成29)～ 2019(令和元)年度) 1,204,167千円	(2020(令和2)～ 2022(令和4)年度) 1,332,813千円※
経済波及効果	約78.1億円	約69.0億円 (うち愛知県内 約58.2億円)	愛知県内 約63.3億円	愛知県内 約87.1億円	愛知県内 約73.0億円
パブリシティ効果 (広告費換算)	47億円以上	55億円以上	33億円以上	約200億円	約9.6億円
ボランティア 登録者数 (実人数)	1,289人	1,310人	1,144人	1,219人	983人
主な特徴 (新たな展開)		<ul style="list-style-type: none"> ・象徴的なテーマ展開 ・建築の視点の導入 ・まちなか展開の拡大(岡崎市内での展開) ・建築関連プロジェクト ・モバイル・トリエンナーレ(移動型展示) ・パブリック・プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加アーティストと企画体制の地域的な拡がり ・まちなか展開の拡大(豊橋市内での展開) ・グループとして多様な活動を紹介するアーティストを紹介 ・舞台芸術公演が集中する「レインボーウィークス」 ・コラムプロジェクト等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックやポップスなどのポピュラーミュージックを新たなプログラムとして展開 ・演劇を中心としたパフォーマンス公演 ・ラーニングとして対話型鑑賞を重視 ・名古屋市のまちなか展開を新たに四間道・円頓寺にて実施。伝統的文化的な風情と現代アートの融合 ・豊田市内でのまちなか展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における開催 ・地域再発見の観点から歴史や地場産業、伝統文化を視野に入れ、会場を選定 ・コンセプチュアル・アートの源流を再訪 ・会期中だけでなく、開幕までの期間を含め、フェーズ毎に目的を設定し、ラーニング・プログラムを構成 ・パフォーマンス・アートにも注目 ・オンライン展開

※2022(令和4)年度分は2023年3月現在で決算額が未確定のため予算額で積算

国際芸術祭「あいち2022」開催報告書

2023(令和5)年3月

編集：国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

発行：国際芸術祭「あいち」組織委員会

